

八千代市観光振興計画



令和4年3月

八千代市

表紙の写真

(左) 新川千本桜 (河津桜)

(右) 京成バラ園

はじめに

本市ではこれまで、市の総合計画に基づき、三大祭(八千代ふるさと親子祭, 八千代どーんと祭, 源右衛門祭)への支援や、観光資源の発掘・活用, 緑豊かな自然を残した北部の地域特性を活かした観光振興を進めてきました。

京成本線と東葉高速線といった2つの鉄道路線が走り, 市内を国道16号と国道296号が縦横している本市は, 都心までのアクセスが良く首都圏のベッドタウンとして発展し, 令和2(2020)年には人口が20万人を超える都市に成長しました。

しかし, 令和7(2025)年をピークとして人口減少に転じることが予測されており, これまで以上に観光振興に力を入れて取り組み, 地域の賑わいを維持・継続するための施策が必要となります。

交流人口を増加させ地域経済の活性化と魅力あるまちづくりを進めるための方向性として, 「八千代市観光振興基本方針」を令和3(2021)年11月に定め, 計画的な観光振興を推進するために, このたび「八千代市観光振興計画」を策定しました。

今後は, 本計画を推進するにあたり, 八千代市産業連携ビジョンによる農業・商業・工業との連携を図り, 新たな観光資源や地域の賑わいの創出, 地域経済の活性化に努めてまいります。

また, 本市には, 印旛放水路である新川が市域のほぼ中央を流れ, 緑豊かな自然や季節の花々も多く, 潜在的な観光資源の発掘や新たな利活用も見込めることから, これまでの継続的事業と並行して新規事業を開拓することで, 本市の魅力を発信してまいります。

結びに, 本計画の策定にご尽力くださいました八千代市産業振興審議会委員, 八千代市観光振興懇談会委員をはじめ, 計画策定にあたっての各種調査にご協力いただいた事業者・団体のほか, 貴重なご意見・ご提言をくださいました多くの皆様に対し, 深く感謝いたしますとともに, 今後, 本計画の推進にあたり, 皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。



令和4年3月

八千代市長 服部友則

目次

第1章:観光振興計画策定の趣旨

- 1-1 計画策定の背景と目的.....P1
- 1-2 計画の位置づけ.....P2
- 1-3 計画期間.....P3

第2章:八千代市を取り囲む観光の外部環境について

- 2-1 日本国の観光政策の方向性について.....P4
- 2-2 日本国の観光の動向について.....P6
- 2-3 千葉県の観光の動向について.....P9

第3章:八千代市の観光の現状と課題について

- 3-1 八千代市の概要.....P11
- 3-2 八千代市の観光の現状.....P15
- 3-3 八千代市の観光の課題.....P24

第4章:八千代市の観光ビジョンと観光キャッチコピー

- 4-1 八千代市の観光ビジョン.....P25
- 4-2 八千代市の観光キャッチコピー.....P26

第5章:八千代市観光振興基本方針と現状や背景, 課題

- 5-1 基本方針1「主要観光資源の交流人口の創出」.....P27
- 5-2 基本方針2「観光資源の魅力発信の充実とブランド化」.....P28
- 5-3 基本方針3「新たな観光資源の発掘」.....P29
- 5-4 基本方針4「自然環境を利活用した観光の推進」.....P30
- 5-5 基本方針5「近隣自治体との地域間連携」.....P31
- 5-6 基本方針6「観光によるシビックプライドの醸成」.....P32

第6章:基本方針の主要施策と事業展開例

- 6-1 基本方針1「主要観光資源の交流人口の創出」の主要施策.....P33
- 6-2 基本方針2「観光資源の魅力発信の充実とブランド化」の主要施策.....P34
- 6-3 基本方針3「新たな観光資源の発掘」の主要施策.....P36
- 6-4 基本方針4「自然環境を利活用した観光の推進」の主要施策.....P37
- 6-5 基本方針5「近隣自治体との地域間連携」の主要施策.....P38
- 6-6 基本方針6「観光によるシビックプライドの醸成」の主要施策.....P39

第7章:推進体制と進行管理

7-1 推進体制	P40
7-2 推進スケジュール	P41
7-3 計画進捗の評価と目標の管理について	P42

巻末資料

資料1 八千代市を取り囲む観光の外部環境について 補足資料	P45
資料2 八千代市観光振興計画策定における事前調査	P52
資料3 ワークショップの開催	P82
資料4 八千代市観光振興基本方針	P86
資料5 八千代市における観光振興に関する連携協定書	P87
資料6 八千代市産業振興基本条例	P89
資料7 八千代市産業振興審議会規則	P91
資料8 八千代市観光振興懇談会設置要領	P93
資料9 八千代市観光振興計画(案)について(諮問)	P95
資料10 八千代市観光振興計画(案)について(答申)	P96
資料11 八千代市観光振興計画策定経過	P97



こいのぼり大遊泳（ゆらゆら橋）

第1章：観光振興計画策定の趣旨

1-1 計画策定の背景と目的

八千代市は東京都心まで1時間で足を運ぶことのできるベッドタウンです。人口は20万人を超え全国でも少数の人口が増加している街の一つとなっています。

しかし、令和7(2025)年をピークとして人口減少に転じることも予測されると同時に、高齢化の急速な波は押し寄せてきており、消費が下降し地域経済に影響を落としかねない状況が推測されます。

この課題を解決するには、定住人口の減少に向けた対策も重要であるとともに、交流人口の増加により地域経済の活性化を図るため、八千代市の魅力あるまちづくりに努めるために、「八千代市観光振興基本方針」を令和3(2021)年11月19日に策定しました。

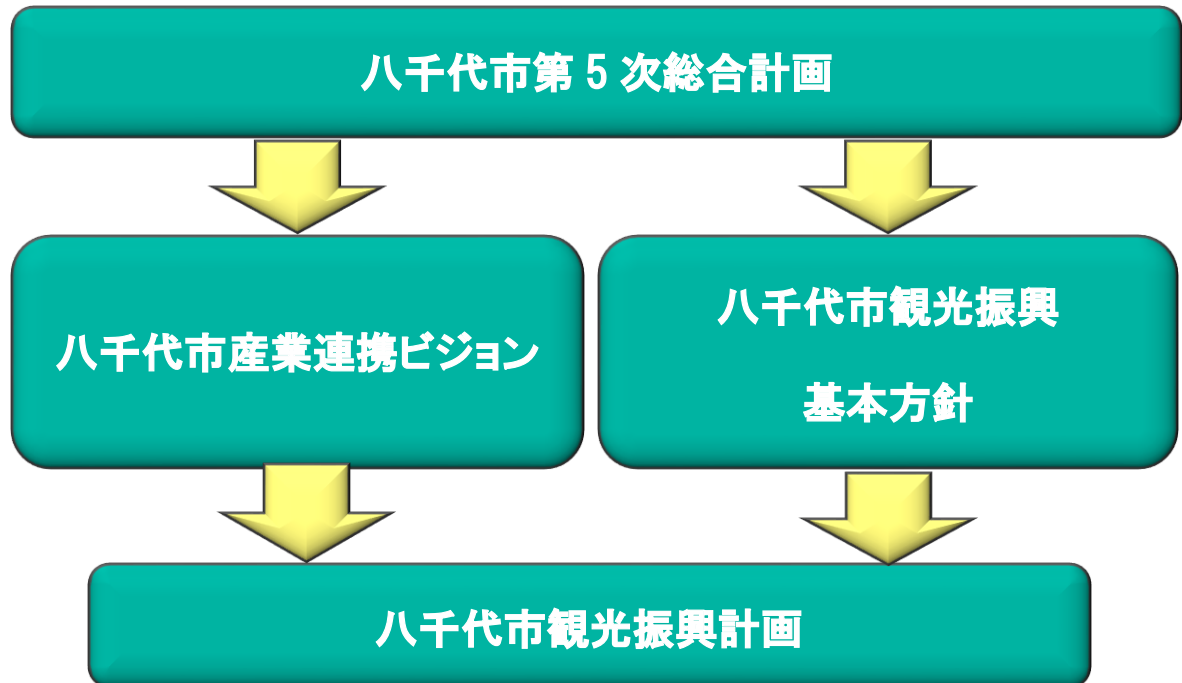
今後は、八千代市観光振興基本方針と合わせ、八千代市産業連携ビジョンによる農業・商業・工業と連携を図ることで、新たな観光資源の創出等も含め、計画的な観光振興を推進するため、「八千代市観光振興計画」を策定いたしました。



村上付近上空から見た八千代市



1-2 計画の位置づけ



道の駅やちよ

1-3 計画期間

「八千代市第5次総合計画 前期基本計画」の計画期間に準じ、本計画は、令和4(2022)年度から令和6(2024)年度までを計画期間とします。

事業	令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度
継続的事業	実施	→	
	検討・更新	→	
新規事業	検討・調査	実施	→
	検討・調査	→	実施



宮内橋から見た新川



京成バラ園



八千代ふるさと親子祭
の花火



第2章:八千代市を取り囲む観光の外部環境について

2-1 日本国の観光政策の方向性について

我が国の観光政策は、「明日の日本を支える観光ビジョン」(平成28(2016)年3月30日明日の日本を支える観光ビジョン構想会議決定)を踏まえ、観光は国の成長戦略の柱、地方創生への切り札であるという認識になっています。拡大する世界の観光需要を取り込み、世界の人々が訪れたくなる観光地日本への飛躍を図ることが必要です。現在、コロナ禍の影響で観光産業が大きくダメージを受けていますが、新型コロナウイルス感染症拡大が収束した後は、日本全国で観光への需要が高まり、観光を活用した様々な効果が期待されています。

1.国民経済の発展

人口減少、少子高齢化が進む日本において、交流人口を拡大することが今後見込まれる経済の停滞の突破口になり得ると期待されています。観光産業は交流人口の拡大に大きく寄与する産業であり、他産業への裾野が広いこと、日本経済へ大きな波及効果をもたらすことに有望な産業と考えられているのです。

現在はコロナ禍の影響で世界的な人流がストップしているものの、経済発展による経済的余力の増加や世界的な航空規制緩和が基本的には進んでいるため、UNWTO(国連世界観光機関)によると、国際観光客は令和12(2030)年までに18億人に拡大すると予測されています。

日本の観光地が国内外から選ばれる観光の目的地となるためには、付加価値が高く国際的に競争力の高い観光産業へと変革することが重要です。そのためには、時代に即した制度への見直し、ICT等の最先端技術を導入して、観光産業をより魅力的かつ生産性の高い産業へと変革することが大切です。

一方、地域においては、的確な情報収集を行い国内外のニーズを捉え、目的地へと選出されるための戦略を立て、地域資源を活用した観光まちづくりを進めることが重要です。交流人口の拡大がもたらす経済の発展は、観光事業者のみならず地域住民にも恩恵をもたらす、観光を通じてシビックプライドも醸成することを可能とします。このように観光に取り組む意義は計り知れず、これからも継続的に観光振興を推進する必要があります。

2.生活の質向上に資する観光

旅行をすることは、多くの感動や満足感を味わうことができ、誰もが楽しい人生を生きる活力が得られます。また、観光を通じた社会貢献・地域交流の機会を体感することで、家族の絆を深めることや地域の人々とのつながりを感じることができ、人々の心の豊かさにもつながります。

このため、国民一人ひとりが観光の重要性を学ぶことは、仕事も休日も楽しめるような働き方と休み方の改革につながり、ワークライフバランスの実現となります。更に、高齢者や障害者、乳幼児等が旅行をするうえでの様々な障壁を取り除き、全ての旅行者が旅の喜びを実感できる社会を作ること、多様性が尊重される社会にもつながります。

3.観光を活用した地方創生

平成26(2014)年、日本創成会議・人口減少問題検討分科会が、令和22(2040)年までに全国1,800余りの市町村のうち約半数が消滅する可能性がある」と発表したことで、地域の持続可能性に対する危機感が高まりました。少子高齢化にともなう人口減少と、東京都市部への一極集中が急速に進む中、持続可能な地域づくりを支援することが求められました。「まち・ひと・しごと創生本部」の設置を皮切りに、国や地方は、地域活性化を重要で緊急性の高い課題の一つとして、特命担当大臣を配置し、各省庁の施策を統合して一体的に取り組む体制を整えました。

こうした地方創生の柱として注目された一つが観光です。各地域で観光を活用して地域経済の活性化、人を呼び込む賑わいの創出、交流人口による地域の様々なコミュニティ、インフラの維持など、観光は地方創生の切り札となりました。観光による地方創生を推進するために、各地域に「観光地域づくり法人」＝DMO(Destination Management/Marketing Organization)を形成すること等多くの施策が実行されています。



源右衛門祭

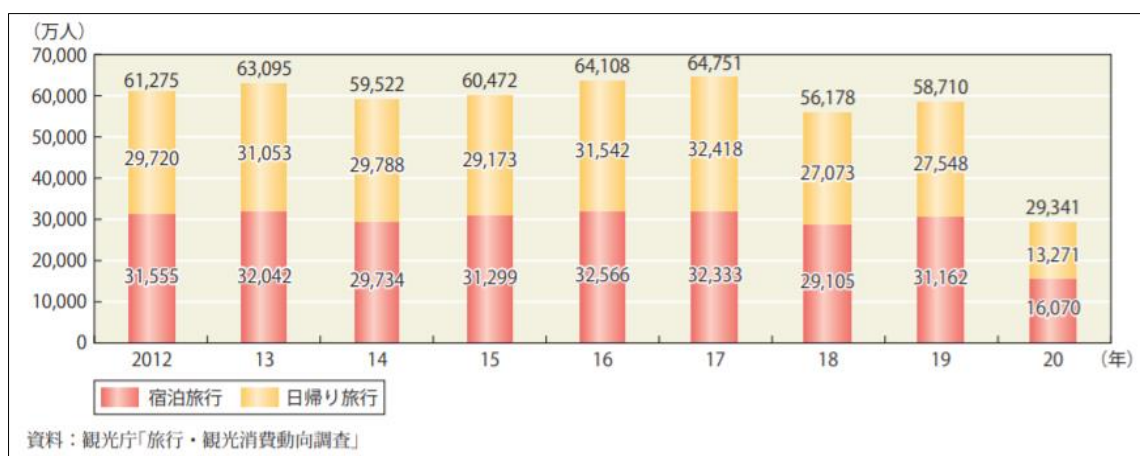
2-2 日本国の観光の動向について

1.日本人の国内宿泊旅行延べ人数, 国内日帰り旅行延べ人数の推移

日本人が国内旅行に行った延べ人数については, 新型コロナウイルス感染症拡大前の令和元(2019)年に宿泊旅行で3億1,162万人, 日帰り旅行で2億7,548万人となっています。

一方, コロナ禍である令和2(2020)年の日本人の国内旅行に行った人数は, 宿泊旅行で1億6,070万人, 日帰り旅行で1億3,271万人となり, 前年に比べて大きく減少しています。

図表1：日本人の国内宿泊旅行延べ人数, 国内日帰り旅行延べ人数の推移



出典：観光庁「令和3年版観光白書」

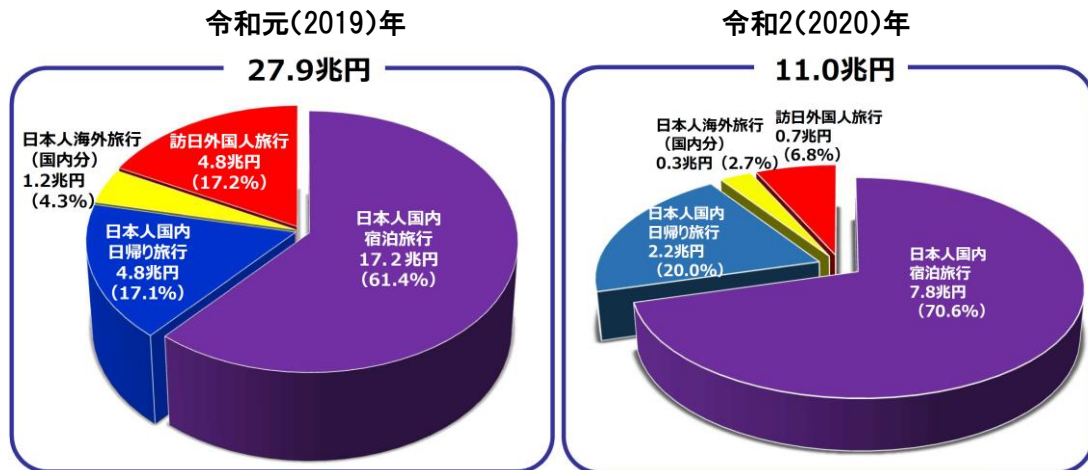
2. 日本国内における旅行消費額の状況

令和元(2019)年における訪日外国人旅行者も含めた日本国内における旅行消費額は、総額で27.9兆円に上りました。このうち、訪日外国人旅行者による旅行消費額は4.8兆円となり、全体の17.2%占めています。

また、過去7年間における国内での旅行消費額の推移を見ても、外国人旅行者による旅行消費額が、直近では伸び率は鈍化しているものの、大きく増加しています。

一方、令和2(2020)年の日本人及び訪日外国人旅行者による日本国内における旅行消費額は、11.0兆円(前年比60.6%減)となっています。このうち、日本人による旅行消費額は10.3兆円(前年比55.6%減)、訪日外国人旅行者による旅行消費額は0.7兆円(前年比85.4%減)であり、訪日外国人旅行者による旅行消費額の割合は6.8%と、6年ぶりに10.0%を下回っています。

図表2：日本国内における旅行消費額



出典：観光庁「令和2年版観光白書」「令和3年版観光白書」

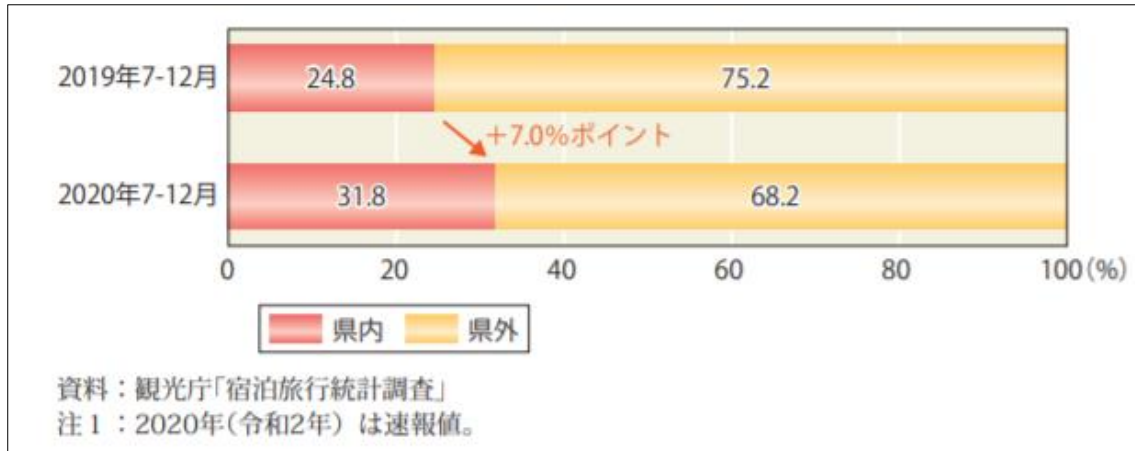
3. 新しい生活様式によるマイクロツーリズムの可能性

新型コロナウイルス感染症は、日本における観光のトレンドの変化を促しました。こうした変化は新型コロナウイルス感染症収束後も継続、もしくは更に変化を遂げる可能性を有しています。

その一つに、マイクロツーリズム(=自宅から車や公共交通機関で1~2時間程度で実施出来る近隣地域内での観光)が挙げられます。

観光庁「宿泊旅行統計調査」により、令和元(2019)年7~12月と令和2(2020)年の7~12月の宿泊者を県内客と県外客に分けてみると、県内比率(宿泊者が県内客である割合)は令和2(2020)年に前年比7.0%も増加しています。

図表3：県内宿泊旅行者と県外宿泊旅行者の割合【全国】

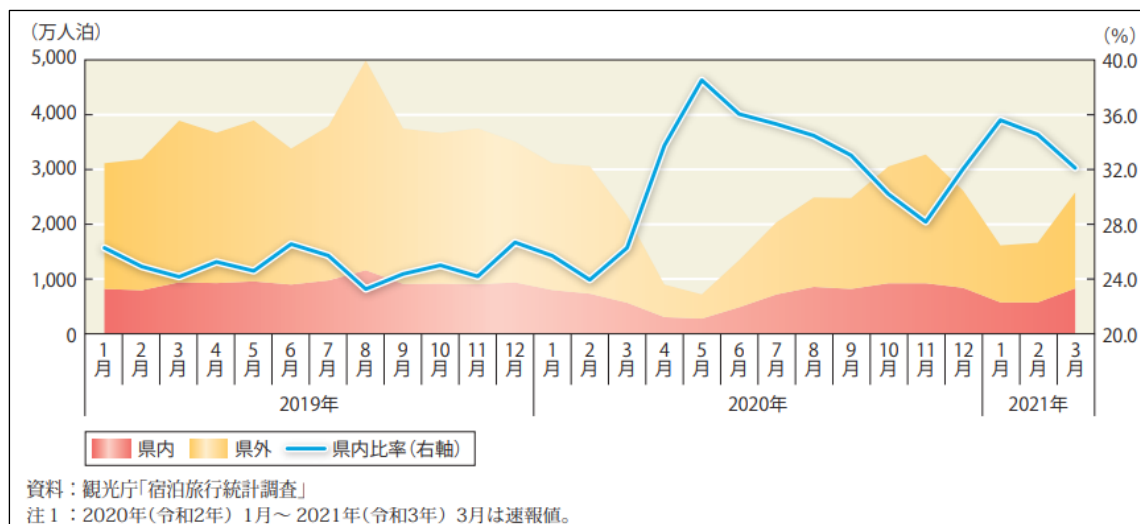


出典：観光庁「令和3年版観光白書」

更に細かく見ると、令和2(2020)年4月から5月にかけては、県内客、県外客がともに落ち込む中で県内比率が高まりを見せています。その後、県をまたぐ移動の解禁やGo To トラベル事業等により宿泊者数が回復をみせる中で、県内比率は低下傾向を見せていますが地域内での旅行というマイクロツーリズムが存在感を見せていることが分かります。

観光庁の「旅行・観光消費動向調査」により、宿泊旅行、日帰り旅行における域内比率を見たところ、延べ旅行者数及び観光消費額が大きく減少する中で、宿泊旅行において、延べ旅行者数、消費額ともに域内比率が大きく高まったことが分かり、コロナ禍の影響で脚光を浴びた「マイクロツーリズム」が今後旅行者の新しい旅のスタイルになる可能性があります。

図表4：県内・県外宿泊旅行者の推移



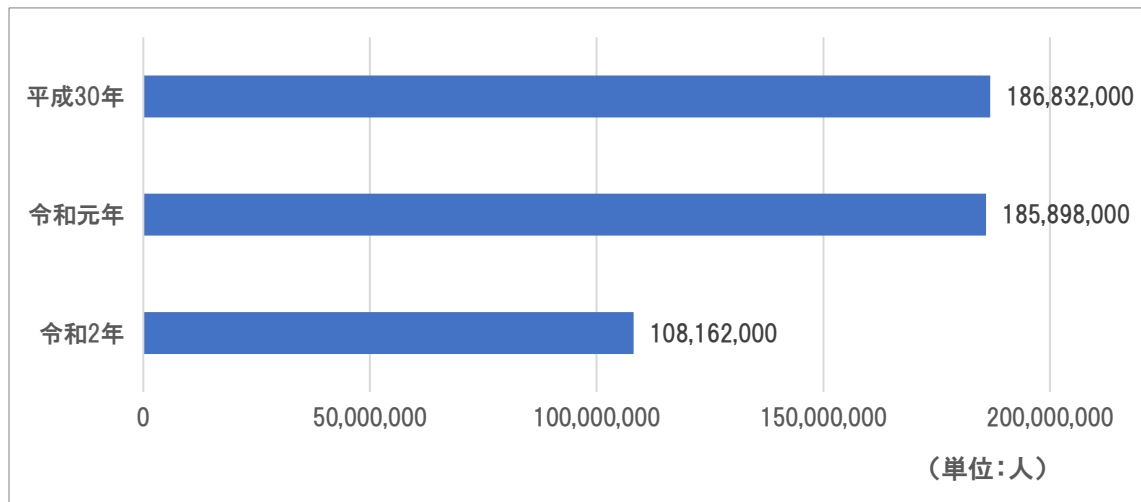
出典：観光庁「令和3年版観光白書」

2-3 千葉県の観光の動向について

1. 千葉県の観光入込数の推移

千葉県における令和元(2019)年の観光入込客数は、延べ約1億8,590万人(対前年比0.5%減)の入込となり、平成23(2011)年以来8年ぶりに対前年比が減少となりました。令和2(2020)年はコロナ禍の影響で減少しています。

図表5：観光入込客数（延べ人数）の推移



出典：千葉県「千葉県観光入込調査報告書」



成田ゆめ牧場

鴨川シーワールド

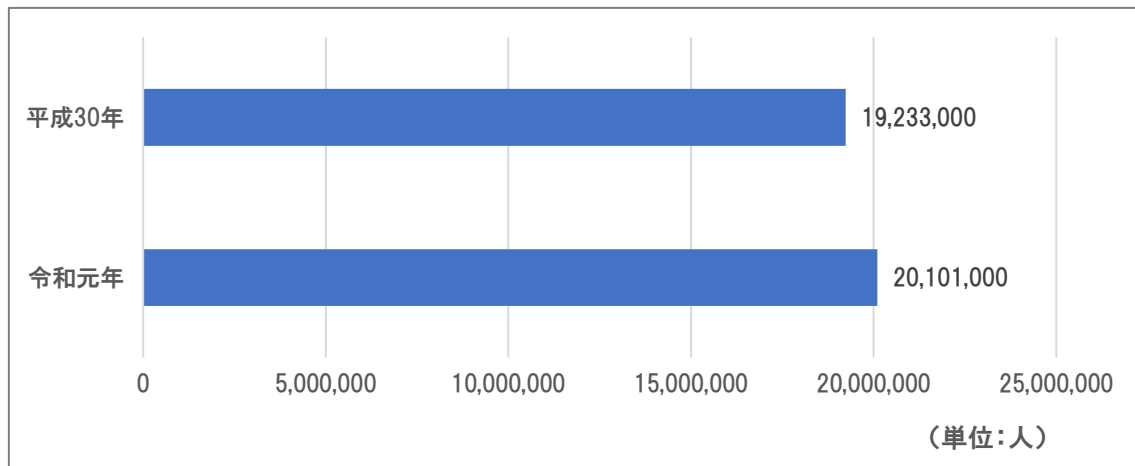
千葉市富田都市農業交流
センター

提供：(公社) 千葉県観光物産協会

2. 千葉県の宿泊者数の推移

千葉県における令和元(2019)年の1年間で県内の宿泊客数(859施設)(延べ人数)は、約2,010万人(単位:人泊),うち外国人は約398万人で、前年より延べ人数で4.5%増加、外国人宿泊数に至っては11.0%の増加となっています。一方、令和2(2020)年はコロナ禍の影響で減少しています。

図表6：千葉県における宿泊客数（延べ人数）



出典：千葉県「千葉県観光入込調査」

3. 外国人旅行者の増加・個人旅行化

千葉県を訪れる外国人旅行者数は、延べ宿泊数で、新型コロナウイルス感染症拡大前の平成29(2017)年までの6年間で2.5倍超となるなど大きく急増しています。また、我が国を訪れる外国人旅行者において個人旅行の比率が増加するとともに、日本の空の表玄関である成田空港を擁している千葉県は外国人旅行者の取り込みにおいても大きなポテンシャルを有しているといえます。今後新型コロナウイルス感染症拡大が収束することでまた外国人旅行者の千葉県への来訪が期待されます。

4. 広域道路ネットワーク形成等による交通インフラの整備

千葉県では、圏央道や平成30(2018)年6月に千葉県区間が開通した東京外かく環状道路など、広域的な幹線道路ネットワーク等の整備が進展しています。また、アクアラインの割引の継続は、千葉県の観光に大きな効果をもたらしています。今後も、圏央道や北千葉道路等の広域的な幹線道路ネットワーク及び国道・県道の整備進展により、県内各地の交流・連携や国際競争力の更なる強化が期待されます。

その他、29箇所まで増加した県内各地の道の駅は、自動車による観光の重要拠点になっており、平成29(2017)年の千葉県観光入込調査においても、観光入込客数が多かった観光地点の上位20箇所のうち、3分の1近くが道の駅となっています。

第3章：八千代市の観光の現状と課題について

3-1 八千代市の概要

1. 八千代市の地勢と人口

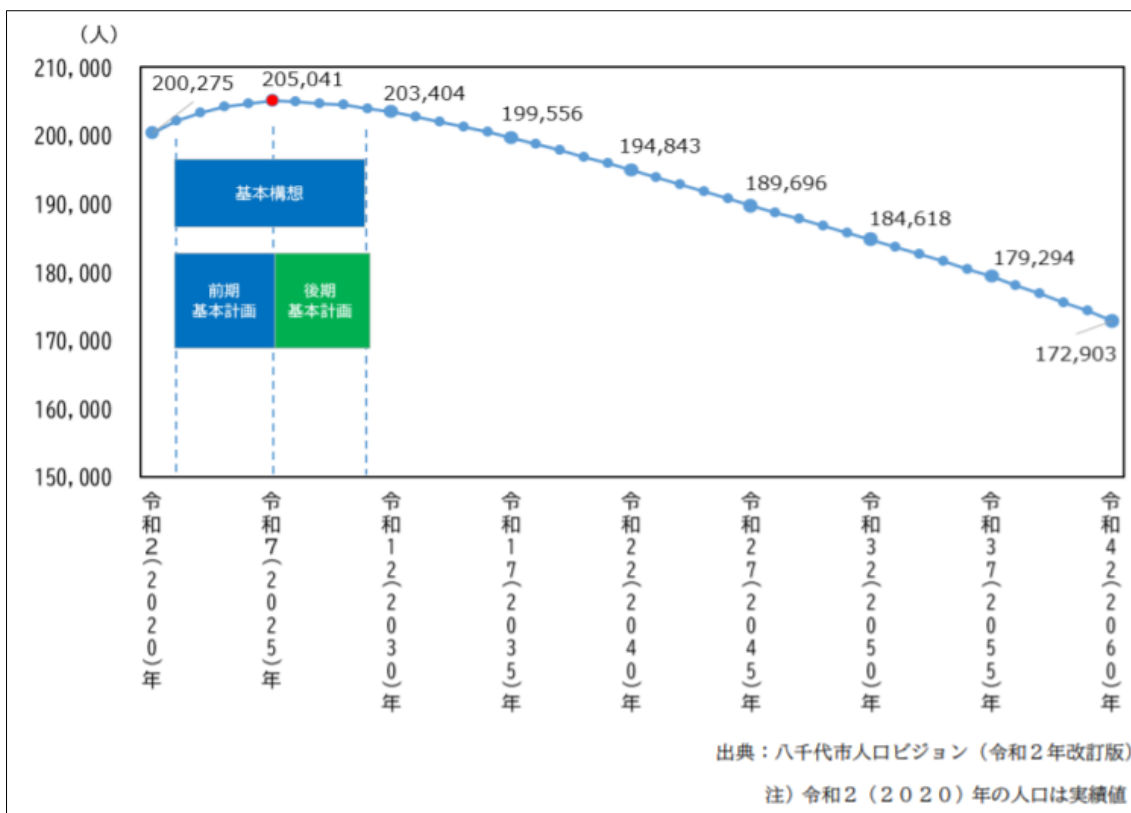
八千代市は東京都心から約31km、千葉市中心部から約13km、成田国際空港から約26kmの千葉県北西部に位置し、面積は51.39km²となっており、標高5～30mのなだらかな台地が広がり、市域のほぼ中央を印旛放水路である新川が南北に流れています。

また、市南部を京成本線が、ほぼ中央を東葉高速線が横切るように走り、国道16号が南北に、国道296号が東西に貫いています。

八千代市の総人口は、昭和42(1967)年に市制が施行されて以来、東日本大震災の影響を受けた平成23(2011)年から平成24(2012)年を除き増加を続けており、令和2(2020)年3月末時点では200,275人となり、人口20万人に到達しました。

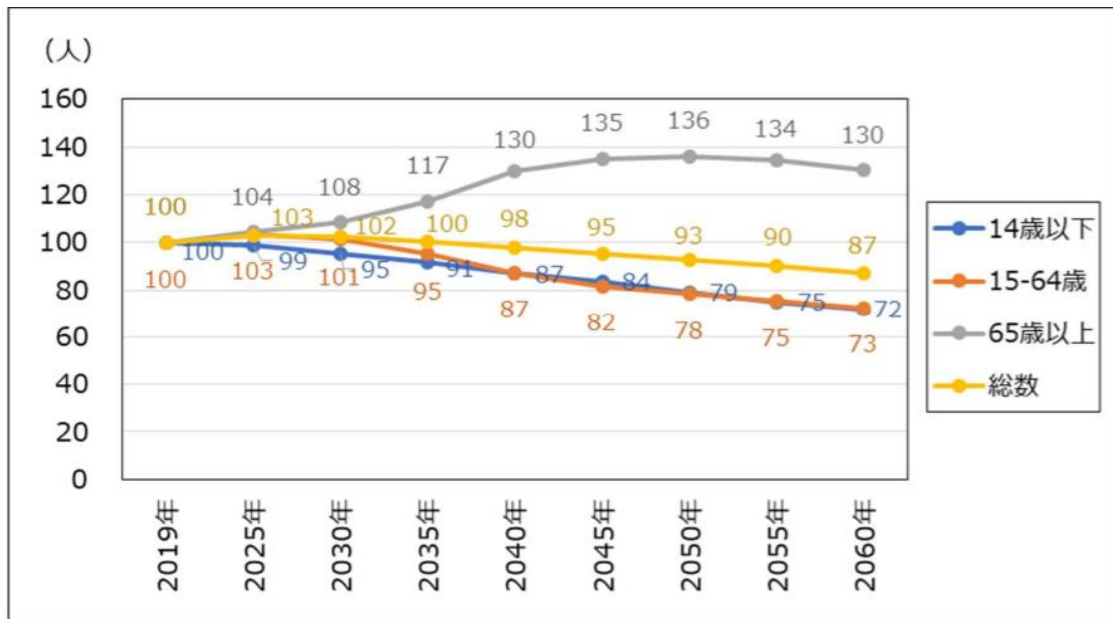
現時点においても、人口は増加傾向にあります。が、八千代市の人口推計では令和7(2025)年をピークとして人口減少に転じることが見込まれています。

図表7：八千代市総人口の将来人口推計結果



出典：「八千代市人口ビジョン（令和2年改訂版）」

図表8：八千代市の将来人口推計の年齢3区分別人口の指数（2019年=100）



出典：「八千代市人口ビジョン（令和2年改訂版）」

図表9：近隣6市の人口一覧表（千葉市，船橋市，佐倉市，習志野市，印西市，白井市）

令和3年3月末現在(千葉市，船橋市については令和3年4月1日現在)住民基本台帳人口

市名	令和2年3月	令和3年3月末(又は4月1日)現在の				前年からの人口増加	
		世帯数	人口			増加数	増加率
			総数	男	女		
千葉市	974,829	451,990	976,486	481,953	494,533	1,657	0.2%
船橋市	643,971	311,102	645,450	321,843	323,607	1,479	0.2%
佐倉市	174,695	78,629	173,216	85,332	87,884	-1,479	-0.8%
習志野市	174,033	82,397	175,301	87,279	88,022	1,268	0.7%
八千代市	200,275	92,649	202,561	100,055	102,506	2,286	1.1%
印西市	103,794	42,637	106,080	52,612	53,468	2,286	2.2%
白井市	63,336	26,262	63,012	31,444	31,568	-324	-0.5%

出典：各市町村HPより抜粋

2.八千代市の歴史と魅力

八千代市には旧石器時代の遺跡が残されており、約3万年前からこの地に人が住んでいたとされています。古くは菅原道真の祟りを恐れた藤原時平一族が関東に逃れ、時平の娘が高津地区に住み着いたと言われており、今でも高津比咩神社がその面影を残しています。中世には米本城が構築されましたが、城主の村上氏は落城時に自刃したとも伝えられ廃城となりました。

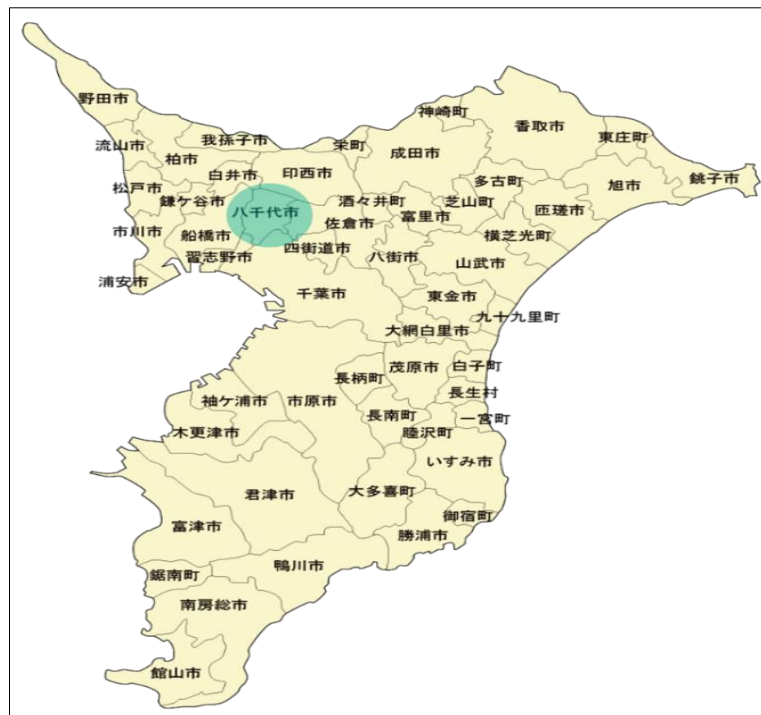
江戸時代には、佐倉藩領、幕府領、旗本知行地に分かれていました。平戸村の名手・染谷源右衛門らにより市域のほぼ中央を流れる平戸川(現印旛放水路)の開削が試みられましたが、中止となってしまいました。天明2(1782)年に行われた2回目の開削工事は川筋を変えるほどの大工事、この工事以降、新しい川筋を新川、もともとの川筋を古川と通称したようです。

また、江戸と佐倉を結ぶさくら道の宿場であった大和田宿は、元禄(1688年頃)から成田山新勝寺への参拝客のための宿場町として栄え、さくら道も成田街道と呼ばれるようになりました。

昭和を迎え、昭和29(1954)年1月に大和田町と睦村が合併し、新たに千葉県八千代町が誕生しました。また同年9月に印旛郡阿蘇村とも合併して、現在の市域とほぼ同じ姿となりました。その後、昭和42(1967)年に市制施行し、平成29(2017)年に市制50周年を経て現在に至っています。

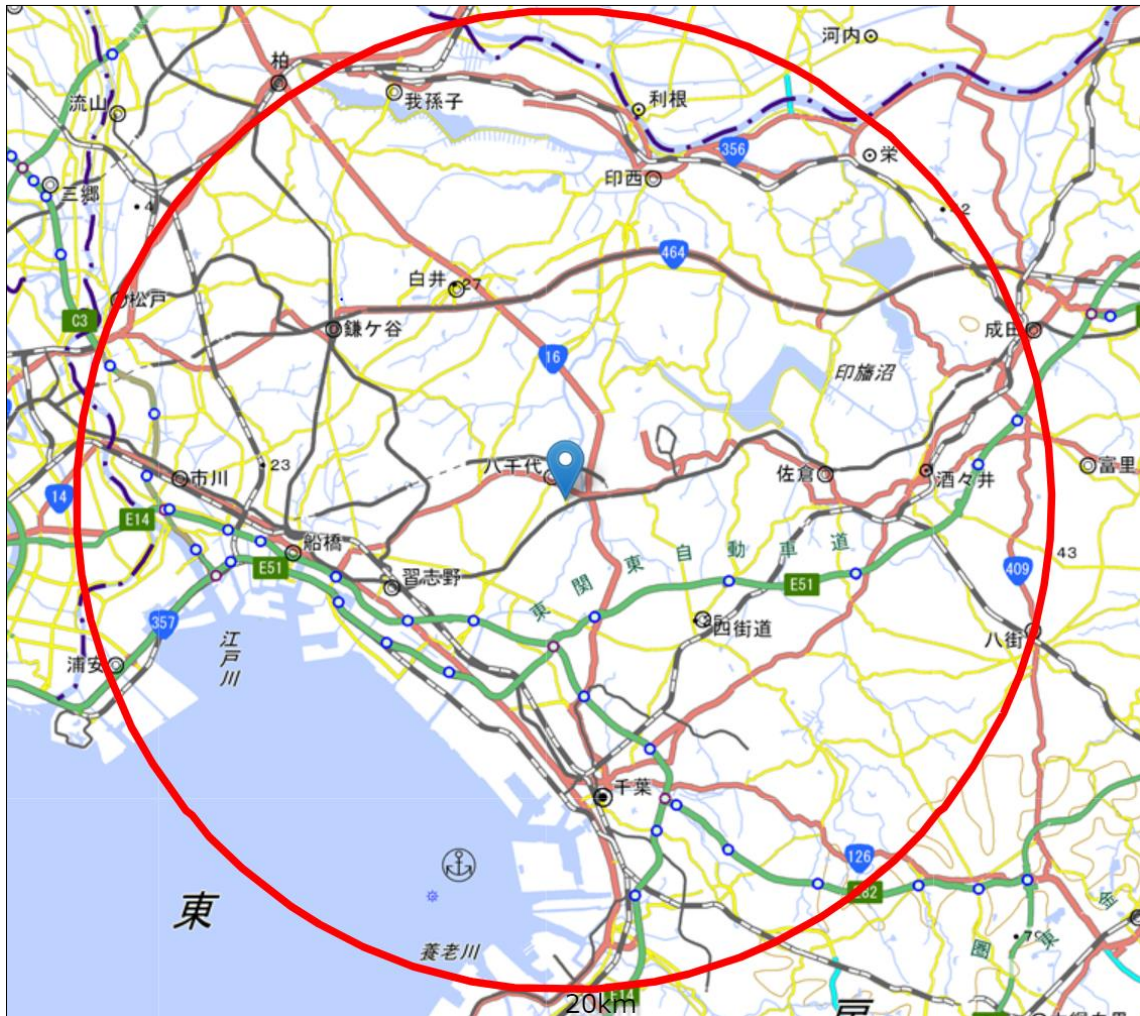
「八千代」の名前は公募により付けられたもので、「八千代」はめでたく喜ばしい時に使われ、無限の発展性を秘めているという意味があります。市の木は公募によって「ツツジ」、市の花は市民投票によって「バラ」に決定しました。

図表10：千葉県における八千代市の位置



出典：令和元(2019)年5月1日「千葉県市町村マップ」

図表11：八千代市を起点とした半径20Km圏地図



出典：国土地理院「地理院地図」

3-2 八千代市の観光の現状

八千代市には、平成27(2015)年第17回世界バラ会議でも優秀庭園賞を受賞し評価を受けている「京成バラ園」や、令和3(2021)年6月に防災道の駅として選定を受けた「道の駅やちよ」周辺エリアの「新川千本桜」といった自然系観光資源、「八千代八福神」、「八千代三大祭」などの人文系観光資源をはじめ、これまでも先人が創出に取り組んできた観光資源がありますが、現状は観光の黎明期であると捉えます。

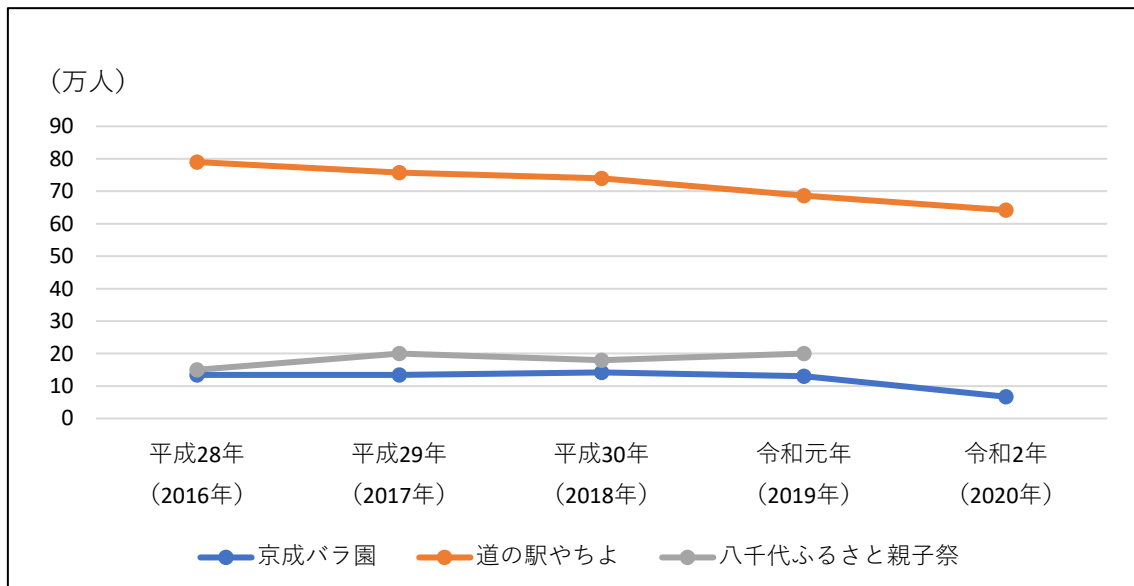
また、八千代市の観光を市民、あるいは近隣自治体の住民がどのように認識しているかの現状把握も重要となります。

これらの現状把握をもとに、課題を抽出し、その課題を解決する方針を立て、具体的な課題解決に向け取り組む必要があります。

1. 八千代市の主要観光資源等の入込客数の推移

八千代市の主要観光資源である、「京成バラ園」、「道の駅やちよ」、「八千代ふるさと親子祭」の入込客数の推移は、令和2(2020)年の数字はコロナ禍のため参考になりませんが、それ以前の4年間において、八千代ふるさと親子祭は、主催者発表で20万人と増加しています。「京成バラ園」は横ばいから微減、「道の駅やちよ」においては平成28(2016)年比で18.8%減少しています。

図表12：主要観光資源等の入込客数の推移



資料：八千代市

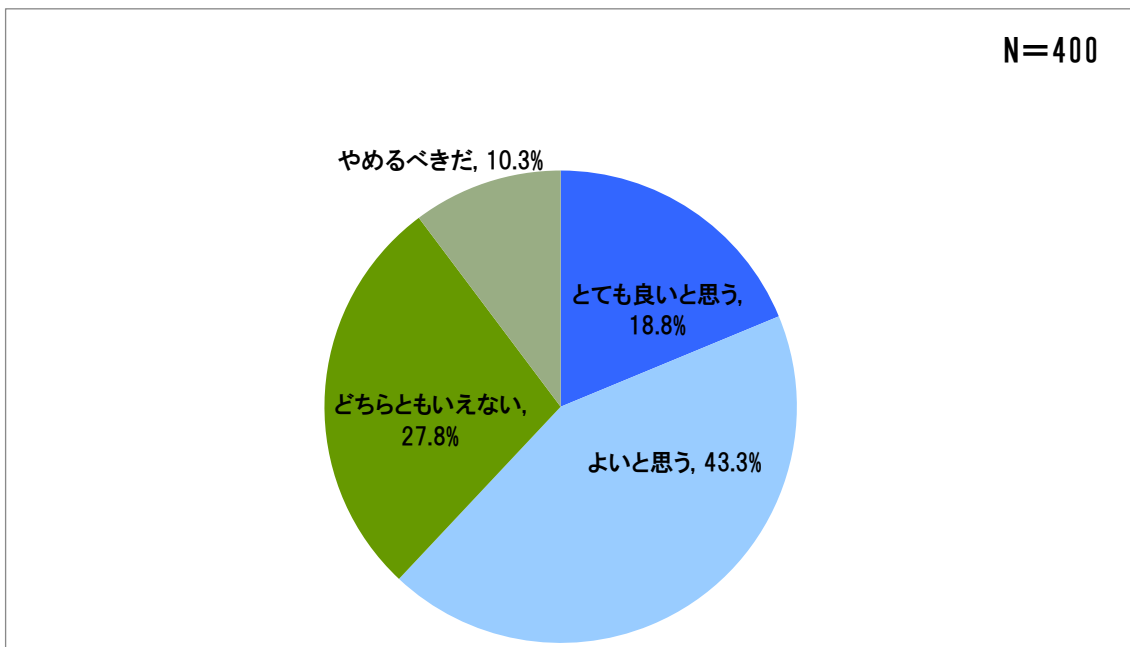
2.「八千代市民の観光意識調査」令和2(2020)年実施の抜粋(※全アンケート結果は巻末資料に掲載。)

調査対象者:20歳代から70歳代までの市民男女400人

(1) 将来の人口減少に備え、他の街に負けないよう【交流人口(観光に力を入れる)を増やして、経済を活性化させよう】という考えはどう思いますか。当てはまるものをお選びください。(ひとつだけ)

* 結果⇒62.1%の市民が肯定的な意見でした。

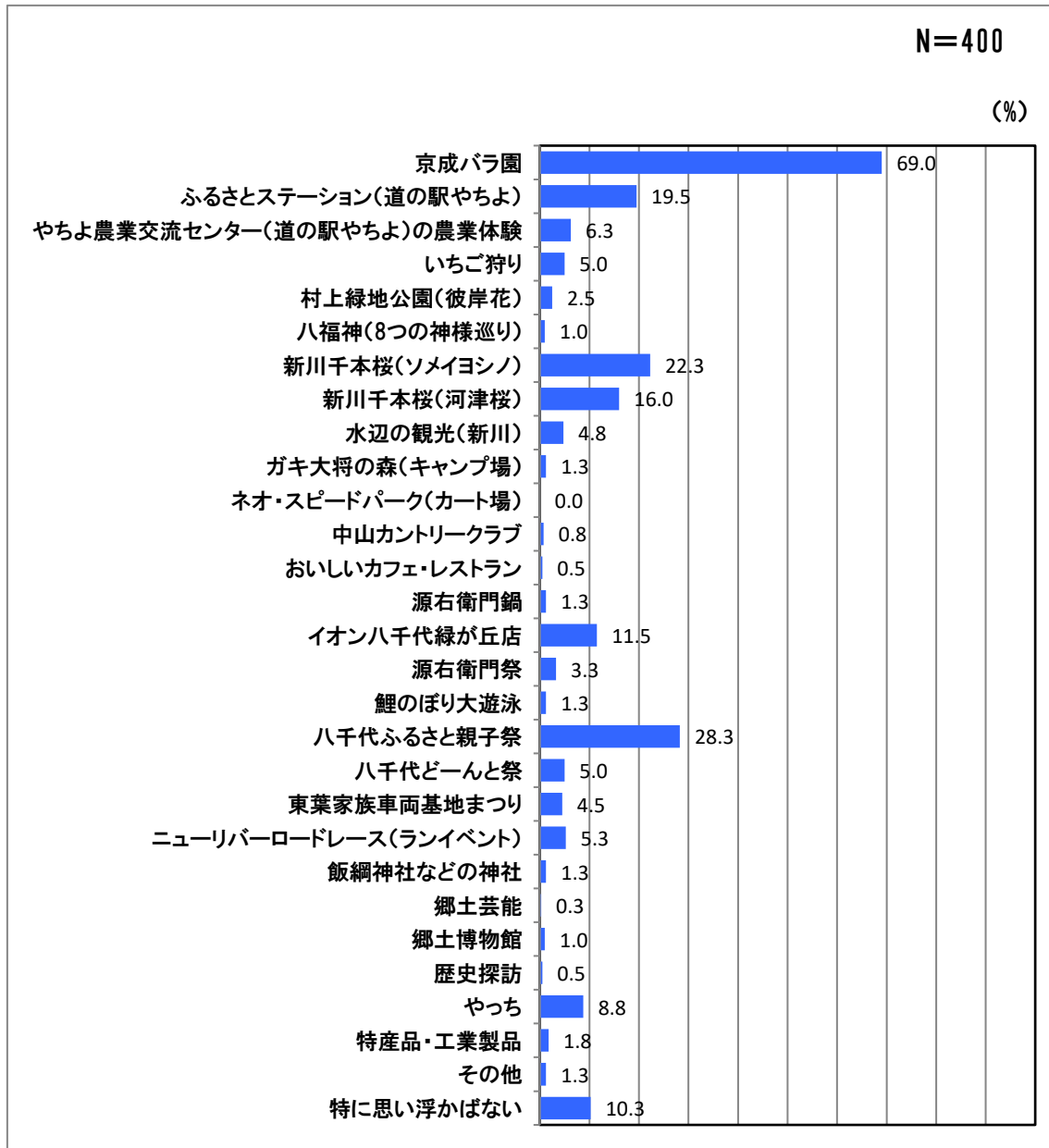
図表13：



(2) 八千代市の観光資源として、どのようなものを思い浮かべますか。当てはまるものをお選びください。(3つまで)

* 結果⇒「京成バラ園」が群を抜き1位、続いて「八千代ふるさと親子祭」、「新川千本桜(ソメイヨシノ)」、「ふるさとステーション(道の駅やちよ)」と続きます。

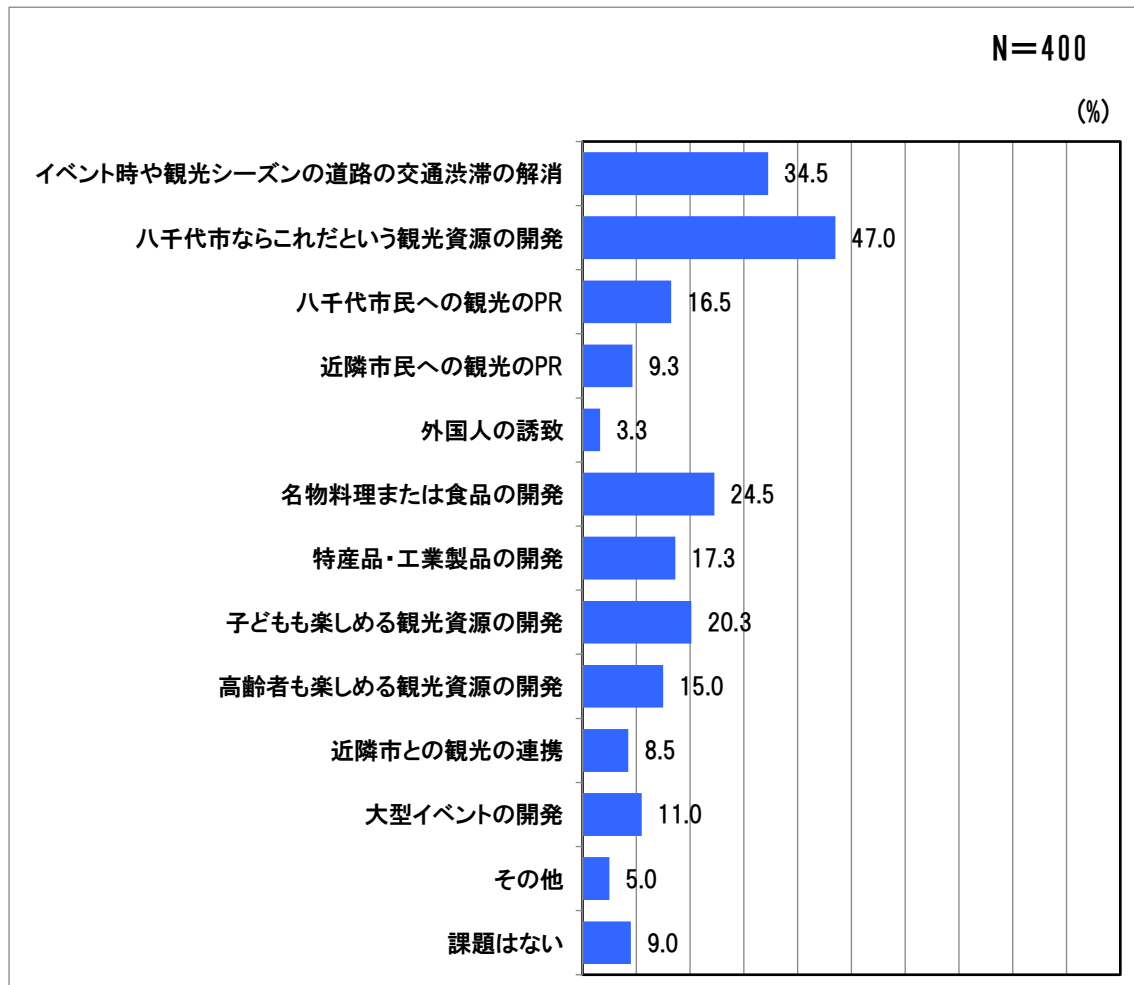
図表14：



(3) 八千代市の観光の課題はどんなことが考えられますか。当てはまるものをお選びください。
(3つまで)

* 結果⇒「八千代市ならこれだ」という観光資源の開発」が1位, 続いて多い順に「イベント時や観光シーズンの道路の交通渋滞の解消」, 「名物料理または食品の開発」, 「子どもも楽しめる観光資源の開発」, 「特産品・工業製品の開発」という意見でした。

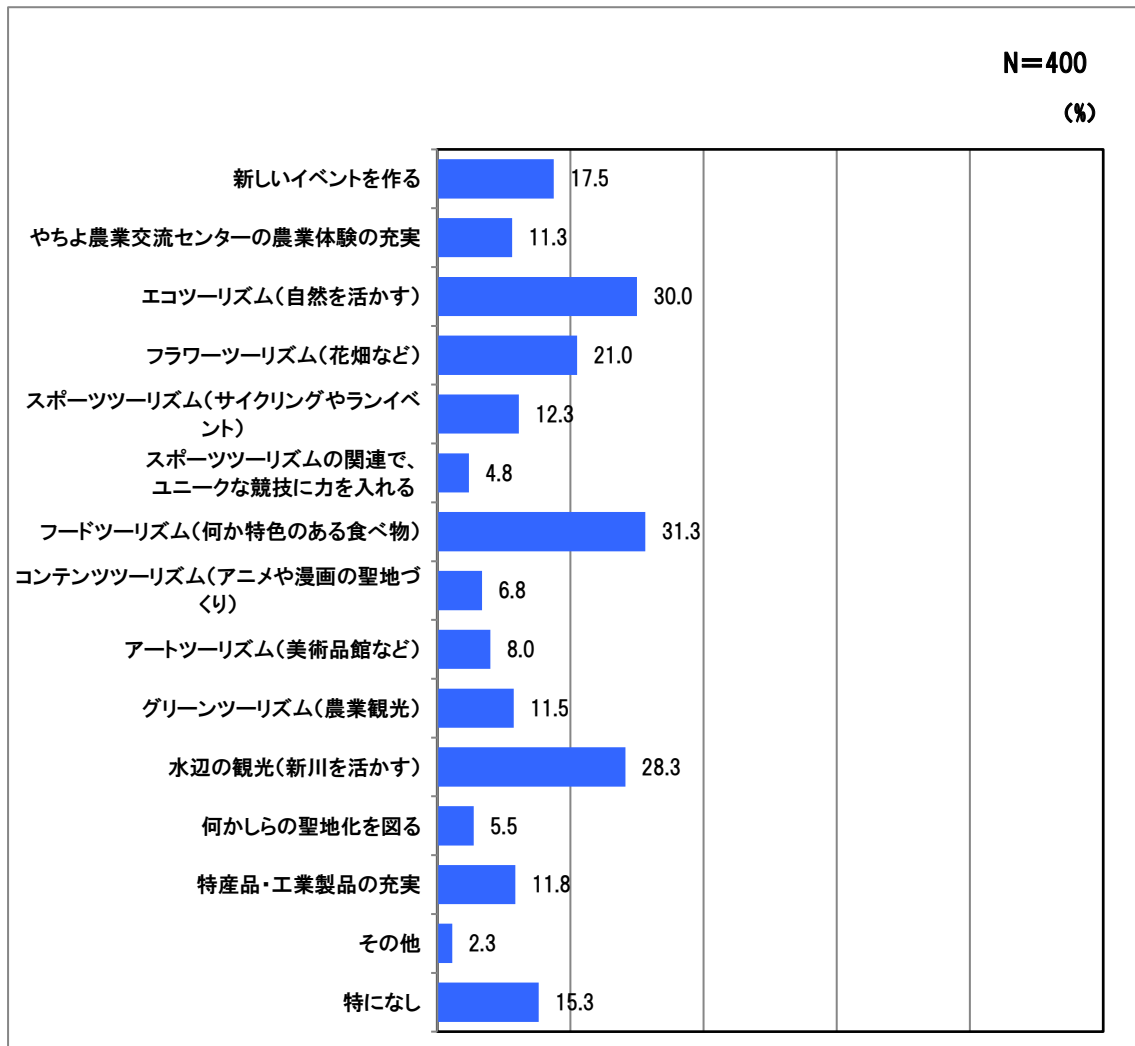
図表15：



(4) 八千代市の現在の観光環境や観光資源も考慮して、将来どのような観光に力を入れてほしいですか。当てはまるものをお選びください。(3つまで)

* 結果⇒「フードツーリズム」、「エコツーリズム」、「水辺の観光」がほぼ同数、続いて「フラワーツーリズム」など八千代市の自然を活かす意見が多数でした。

図表16：



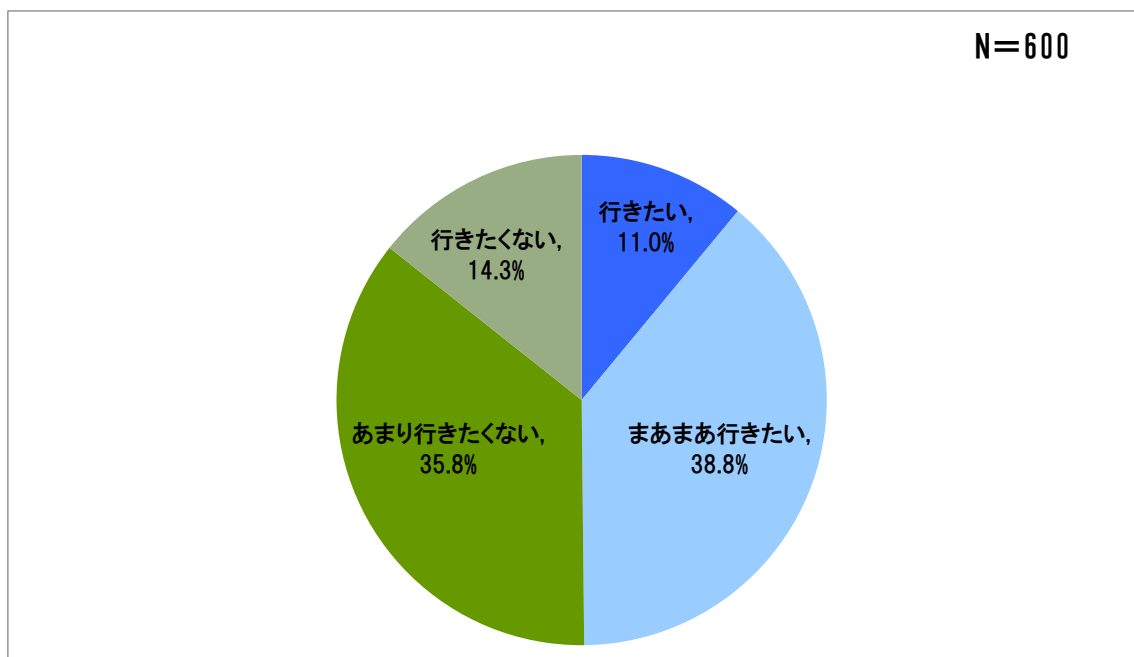
3.「八千代市近隣市民の八千代市への観光認知度調査」令和2(2020)年度実施の抜粋(※全アンケート結果は巻末資料に掲載。)

調査対象者:近隣自治体(千葉市・市川市・船橋市・松戸市・佐倉市・習志野市・柏市・印西市・白井市)に住む20歳代～70歳代男女600人

(1) 今後、八千代市に観光目的で行きたいと思えますか。当てはまるものをお選びください。(ひとつだけ)

* 結果⇒行きたいと行きたくないがほぼ同数でした。

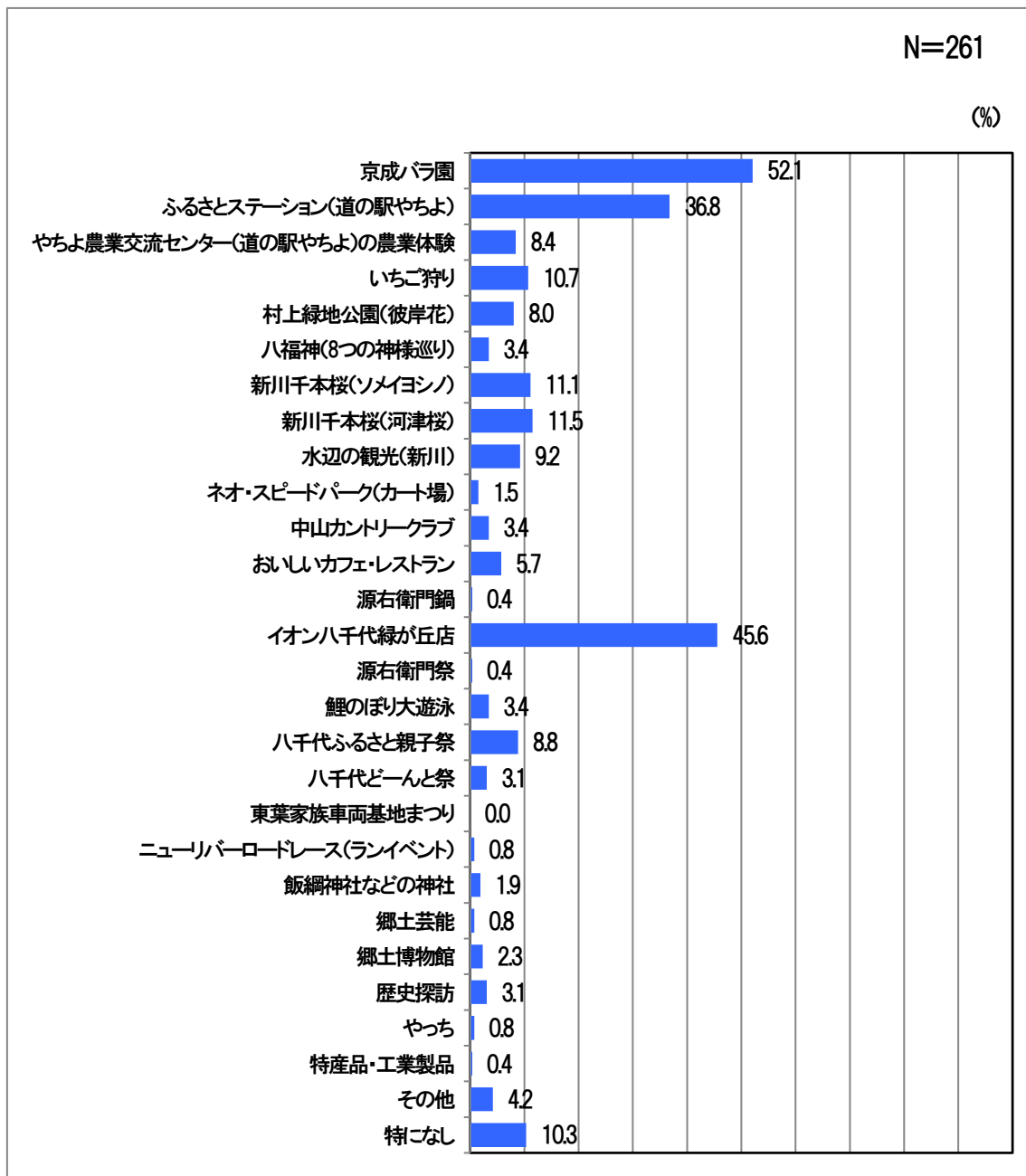
図表17：



(2) あなたが訪れたことがある八千代市の観光スポットやイベントをすべてお選びください。(いくつでも)

* 結果⇒「京成バラ園」、「イオン八千代緑が丘店」、「ふるさとステーション(道の駅やちよ)」に多く足を運んでおり、他に「新川千本桜(ソメイヨシノ・河津桜)」や「いちご狩り」、「水辺の観光(新川)」が続きます。

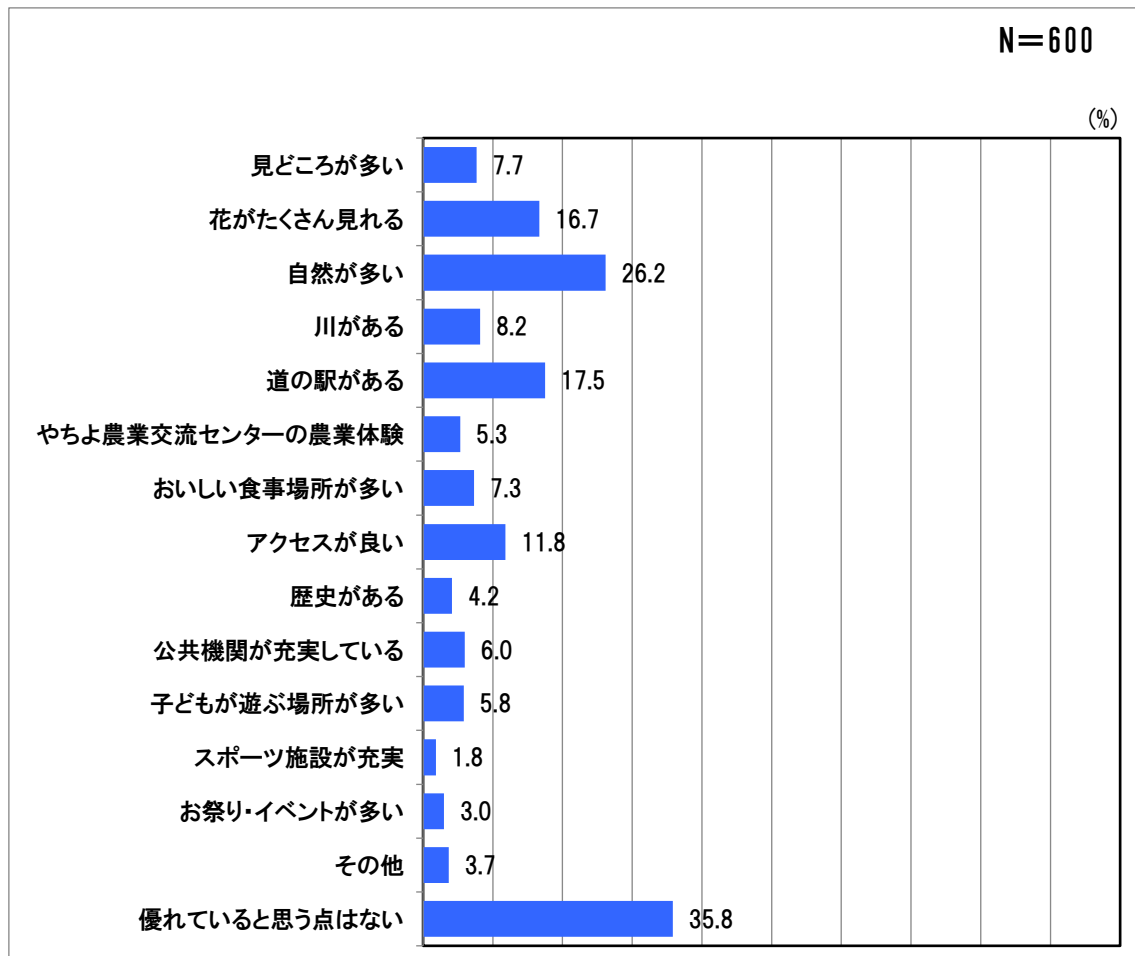
図表18：



(3) ご自身が住んでいる街よりも、八千代市が優れていると思われる点がありますか。当てはまるものをすべてお選びください。(いくつでも)

* 結果⇒「優れていると思う点はない」が1位,「自然が多い」,「道の駅がある」,「花がたくさん見れる」,「アクセスが良い」と続きます。

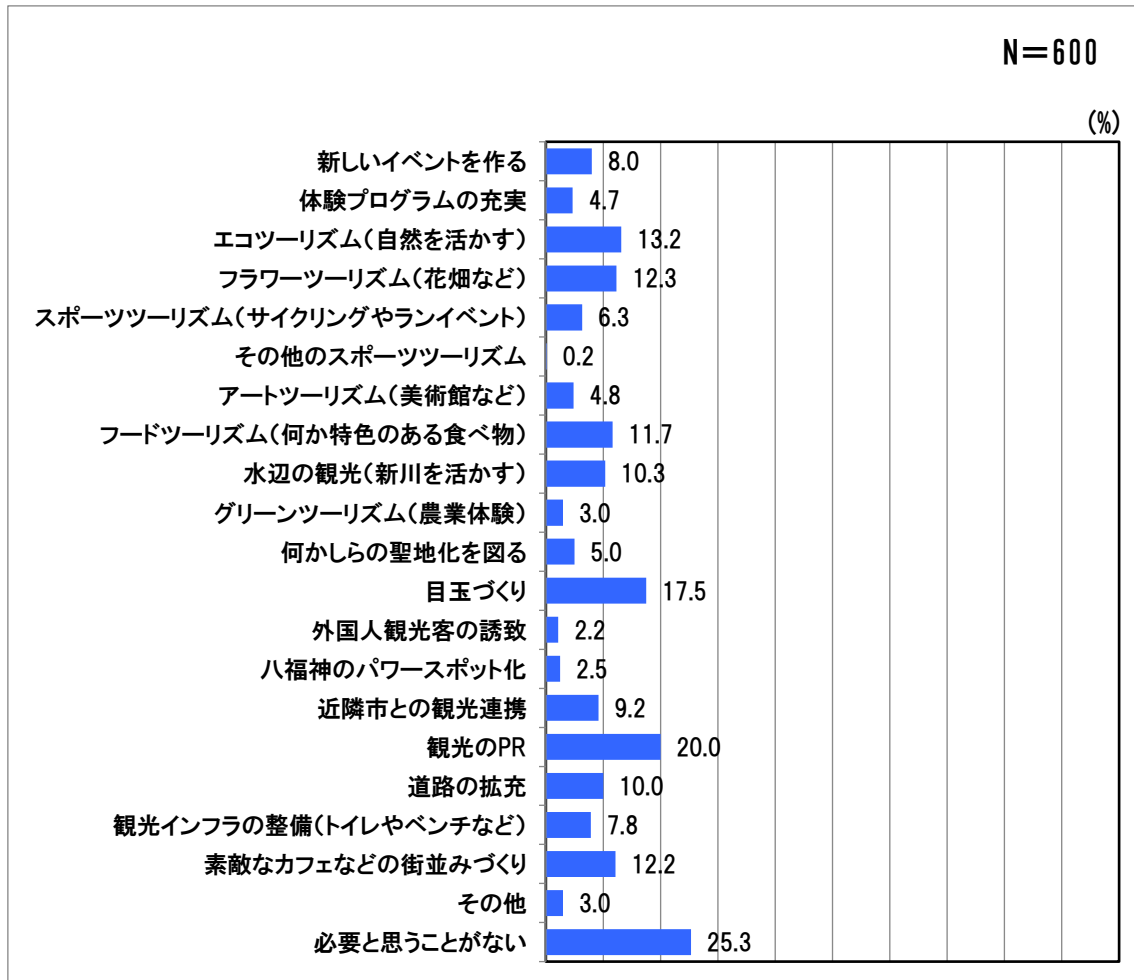
図表19：



(4) 今後、八千代市の観光を推進するにあたり必要と思われることはありますか。当てはまるものをお選びください。(3つまで)

* 結果⇒「必要とすることがない」が1位、「観光のPR」、「目玉づくり」、「エコツーリズム」、「フラワーツーリズム」が続きます。

図表20：



3-3 八千代市の観光の課題

八千代市は、首都近郊の街として順調に発展し、人口も右肩上がりです。その恵まれた立地と、都市部と自然がバランスよく融合した街として、成長を重ねてきました。

一方では、第1章で前述したように今後ますます進むであろう高齢化や、予測される定住人口減少の波が地域内消費を減少させ、地域経済が縮小し、ひいては地域の魅力や活力の低下につながりかねません。

このような定住人口の減少などに伴う地域経済の低下を解決する手段の一つに、交流人口及び関係人口の活性を促す「観光」があります。今まで、その恵まれた地域性で必要性を生じえなかった八千代市も例外ではありません。

八千代市の観光においては下記の図の「弱み」に列挙したような、いくつかの課題が山積しています。一方「強み」に目を移せば観光に不可欠な大きなマーケットが周辺にあり、それらを誘客する交通網も発達しています。また「脅威」となるコロナ禍においてはまだ不透明な部分もありますが、それゆえに日帰り観光のニーズに商機を見出せることにもつながると考えられます。顕在している課題を直視し、一步一步観光都市の道を歩めば、今まで以上に豊かな街への変貌が可能です。観光客に選んでもらえる街へ、課題を克服していきたいと考えています。

八千代市の観光の分析(SWOT分析)

強み (Strength)	弱み (Weakness)
<ul style="list-style-type: none"> ・東京都心から約31kmに位置し交通網が発達 ・豊富な定住人口 ・大きなマーケットとなる周辺人口の多さ ・新川を含む自然の豊かさ 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光資源・特産品が乏しい ・観光の街としての知名度の低さ ・観光インフラが不十分 ・市民の観光への意識が低い ・観光のPR不足
機会 (Opportunity)	脅威 (Threat)
<ul style="list-style-type: none"> ・国や県の観光施策の推進 ・マイクロツーリズム(近場の観光)の台頭 ・近未来における訪日観光客の増加 ・環境に配慮した観光 	<ul style="list-style-type: none"> ・数年後からの人口減少の予測 ・高齢化の進捗 ・近隣自治体との都市間競争 ・コロナ禍における観光全体の低迷

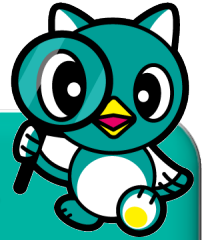
第4章:八千代市の観光ビジョンと観光キャッチコピー

4-1 八千代市の観光ビジョン

八千代市の観光ビジョンは以下の通りです。



おいでよ バラの香りと桜色のまち やちよ

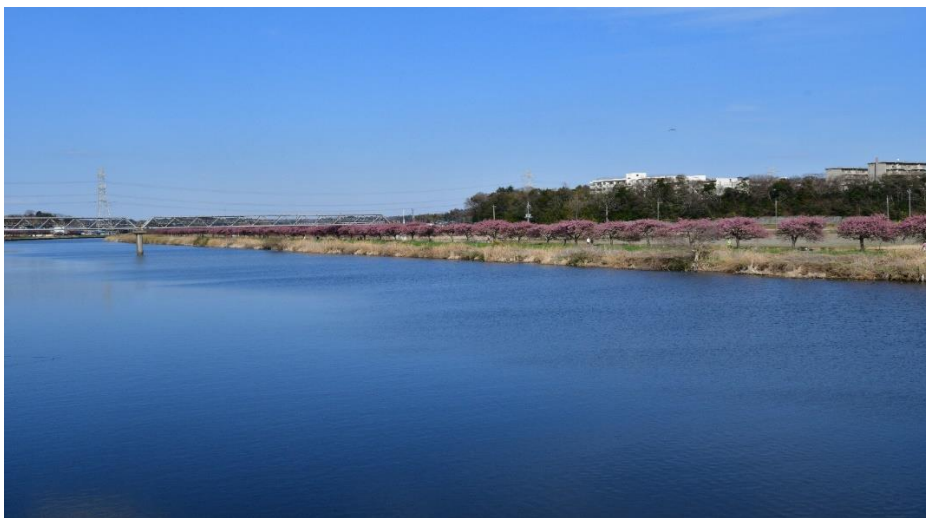


———花の観光都市———

都心から気軽に訪れ 自然に触れ合える 身近な観光都市を目指します。

八千代市は自然豊かな都心近郊の街で、市の花は「バラ」です。また関東でも有数の人気を誇る「京成バラ園」もあります。加えて市内を流れる新川沿いには、日本でも有数の早咲きの河津桜の並木をはじめとした、新川千本桜と称される桜の木が植えられていて、市民のみならず、訪れる人を楽しませています。このバラと桜を軸に、更に様々な花々を楽しんでいただくことを中心に、自然にあふれた観光の街を目指します。

近い将来、「花の観光都市」として近隣自治体や都心からも更にたくさんの観光客が訪れ、満足していただける自然豊かな観光の街となることを八千代市の観光ビジョンとします。



新川千本桜（河津桜）

4-2 八千代市の観光キャッチコピー

八千代市の観光のキャッチコピーは以下の通りです。



観光のキャッチコピーは、老若男女を問わず市民も含め観光客にメッセージが伝わることが重要です。このキャッチコピーでは八千代市の花「バラ」と、桜の名所である「新川千本桜」に光を当て、この2つを中心に観光を進めていくという決意を込めています。

将来の観光ビジョンを着実に推進するためにも、ビジョンと寄り添うキャッチコピーの表現としています。



京成バラ園



新川千本桜（ソメイヨシノ）

第5章:八千代市観光振興基本方針と現状や背景, 課題

この章では、具体的な八千代市観光振興基本方針の6つの柱と、その現状や背景、それに伴う課題を述べます。

5-1 基本方針1「主要観光資源の交流人口の創出」

1.基本方針としたポイント

観光において誘客人数が重要なポイントです。オーバーツーリズムを招かない配慮は必要ですが、1人当たりの消費額が少ない日帰り観光エリアにおいては、誘客人数は重要なポイントです。地域内で最も集客力の高い観光資源に注力して、観光拠点を強化することを方針の一つとしました。

2.現状や背景について

現在、まだ観光地としては黎明期にある八千代市の観光において、最も誘客力のある観光資源として期待されるのは、「京成バラ園」と「道の駅やちよ」周辺エリアの2か所であると捉えます。これは市民のみならず、「八千代市近隣市民の八千代市への観光認知度調査」(令和2(2020)年度実施)においても、過去の訪問経験で、「京成バラ園」が52.1%、「道の駅やちよ(ふるさとステーション・やちよ農業交流センター)」が45.2%と双壁となっており、かつ、魅力的な観光資源についても「京成バラ園」が51.3%、「道の駅やちよ(ふるさとステーション・やちよ農業交流センター)」が13.4%と1位と2位を占めていることから歴然です。

また、「京成バラ園」は世界バラ会議でも優秀庭園賞を受賞するなど、大きな評価を受けており、今後の取り組み次第では、近隣自治体だけでなく、関東一円からも誘客のポテンシャルがあると思われます。国土交通省から防災道の駅に選定された「道の駅やちよ」を含む周辺エリアについても、観光インフラに課題があるものの、今後力を入れるべき観光資源といえます。

3.課題について

最も集客が期待できる観光資源である「京成バラ園」においては、令和2(2020)年秋にプロモーションの強化を図り、過去の秋イベント時の入園数を大幅に上回ったものの、数年にわたり年間入場者数はほぼ横ばいとなっており、繁忙期あるいは通年での観光客の増加が喫緊の課題となっています。「道の駅やちよ」を含むその周辺エリアにおいても、付随する農業体験施設や隣接する新川の桜並木は年々来客数が増えています。ここ数年の入場者数は減少傾向にあり、この主要観光資源の活性化も大きな課題であります。

5-2 基本方針2「観光資源の魅力発信の充実とブランド化」

1.基本方針としたポイント

商品をどのようにアピールし、ブランディングしていくかは観光分野のみならず、あらゆるマーケティング活動のうえで欠かすことのできない共通した取り組みです。特にインターネット上による様々なPRは、現代において不可欠なプロモーション策といえます。「八千代市の観光ブランド化」をどのように形作るかは大変重要と考え、方針の一つとしました。

2.現状や背景について

観光の黎明期における他の街も同様ですが、八千代市においては、ほぼ観光地としての認知度がありません。これは、「八千代市近隣市民の八千代市への観光認知度調査」(令和2(2020)年度実施)でも明らかで、アンケートでも56.5%の方は、過去2年以内に来訪経験がなく、観光目的での来訪動機においても50.1%が消極的な回答でした。更に、近隣自治体より優れている点がないという評価が1位であることから、観光ブランド力の低さが垣間見えます。

一方、ショッピングや食事などを含めると43.5%の方が八千代市を訪れている状況もあります。令和3(2021)年の八千代市HP「河津桜の開花情報」へのアクセス数は、前年の約32,000件から約54,000件に増加しており、八千代市の観光への関心は徐々に高まっているようです。

3.課題について

現在、観光地としての八千代市のブランド力は低く、観光ブランドの構築が重要です。今後観光地としての認知やブランド化につながる、継続的な様々な取り組みや、プロモーションが不可欠となっています。特に、近隣自治体の方々に観光地としての認知を図り、年間を通したリピーター化への道筋をつけることが課題であります。

5-3 基本方針3「新たな観光資源の発掘」

1.基本方針としたポイント

現代においては、旧来の観光資源の 카테고리 だけでなく、あらゆるものが観光資源になりえる可能性を秘めています。計画策定にあたり行った観光資源調査等で確認した観光資源の磨き上げによって新たな価値を見出すことや、まだ発掘されていない観光資源を恒常的に探し続け、時代のニーズを捉えていくことが必要です。

2.現状や背景について

魅力的な観光資源については、前段の「京成バラ園」や「道の駅やちよ」周辺エリア、「新川千本桜」などが顕著な例ですが、観光の黎明期である地域の共通した状況として、交流人口の増加に寄与するような観光資源の薄さは致し方ないのが現状です。その中で、今回の計画策定に付随した様々な観光資源調査によって、今後も誘客が期待される観光資源を探す必要性を認識しました。

3.課題について

誘客可能な魅力に富んだ観光資源は一朝一夕に作られるものではありません。「京成バラ園」、「道の駅やちよ」周辺エリア、「新川千本桜」に次ぐ、新たな誘客引力に満ちた既存の観光資源のブラッシュアップや新たな観光資源の発掘は、喫緊の課題です。

5-4 基本方針4「自然環境を利活用した観光の推進」

1.基本方針としたポイント

観光資源は人の手によって作られた「人文系資源」や、「複合資源(=複数の資源が組み合わさって作られているもの)」、あるいは、その地域にある「自然系資源」に分類されます。自然系資源には、山・海・川・湖・湿地・滝などあらゆるものが含まれますが、八千代市は東京都心から約31kmにありながら、自然豊かな環境を残す地域でもあります。この豊かな自然を今後も観光に活かしていくことが、八千代市の観光の特徴を形作っていくことにつながると考えます。

2.現状や背景について

八千代市民においては、3人に1人が八千代市の自然の豊かさを評価しています。令和2(2020)年に実施した「八千代市民の観光意識調査」、加えて「八千代市近隣市民の八千代市への観光認知度調査」(令和2(2020)年度実施)においても、八千代市の観光資源に対する声として、八千代市の豊かな自然を推奨する声が多くありました。

特に、高評価の「花の魅力」や、観光地を見るだけでなく参加する「農業体験」なども近隣自治体に負けない良質な観光資源といえます。都市型観光においては、ストレスフルな都心部の方たちの憩いの場として、「自然」は観光に欠かせない要素と捉えます。

3.課題について

八千代市の観光資源に、自然を利活用した誘客に結び付く良質な観光資源は一定程度存在しますが、最も観光客から求められている観光資源であるがゆえ、コンテンツの数量、質の向上あるいは多種多様なプログラムの加重は課題となっています。また、SDGsへの取り組みなど未着手の「環境に配慮した観光」について、取り組むことが求められています。

5-5 基本方針5「近隣自治体との地域間連携」

1.基本方針としたポイント

交通網が発達し、かつ周辺人口が多い都市型の観光においては、その利便性から、観光客が自治体間を縦横に移動することは容易です。都心とつながる2つの鉄道路線と国道16号、国道296号を擁する八千代市と近隣自治体の観光の連携は相互に大きなメリットがあります。

現在、取り組みを進めている観光連携の小さな輪を、より大きなものに成長させたいと考えています。

2.現状や背景について

八千代市の中心部から30分程度で近隣の様々な自治体にアクセスできる交通の便利さは八千代市の強みです。概ね、観光客は観光をする場合に、市境を意識しないのが通常です。

よって、時間をかけずに移動できる都市型観光の八千代市においては、近隣自治体の観光地へ足を延ばすことが容易であることも考慮し、観光を進める必要があると思われます。

また、近隣自治体の中にも、近隣自治体との連携が必要とする意見がありました。この取り組みについては、すでにいくつかの自治体とは広域連携を推進し始めています。

3.課題について

船橋市や佐倉市、習志野市などとは、「八千代八福神めぐり」や「バラの事業」などの観点から、観光連携を始めていますが、都市型観光においては、あらゆる近隣自治体の観光資源との親和性を考慮し、広域的な連携を進めることが重要といえます。

5-6 基本方針6「観光によるシビックプライドの醸成」

1.基本方針としたポイント

自分の住んでいる街が、観光という点においても誇らしく思うことができることは、大きな目標の一つでもあります。全国のあらゆる市町村でも、市民が誇れる観光を目指す取り組みは推進されています。八千代市も未来に向けて、観光の目標の一つに掲げていきます。

2.現状や背景について

八千代市民の市への愛着度は、60.0%を超え非常に高くなっています。令和2(2020)年に実施した「八千代市民の観光意識調査」では、観光に力を入れることへの賛同も同じく60.0%を超えています。

ただし一方で、観光客を集める観光資源がないという指摘も根強いです。今後の取り組みとして、目玉となる観光資源の発掘や、自然を活かしたエコツーリズム、特色あるフードツーリズム、新川を活かすブルーツーリズムなどへの期待も市民意識調査から伺えます。

3.課題について

八千代市民の市に対する愛着度が高いことは、好材料であるといえます。他方、八千代市に限らず、今まで観光に大きく力を入れてこなかった経緯からすれば、市民に観光に対する愛着や誇りが生まれていないことは当然のこととされます。

しかしながら、将来に向けて観光の分野においても、市民が愛着を感じるレベルに成長させることを目標に、様々な施策を講じていくことが必要であり課題です。

第6章：基本方針の主要施策と事業展開例

主要施策の内容とその推進に伴う事業展開例について記載します。

主要施策における「★」印はリーディングプロジェクトです。

八千代市の観光は黎明期であり、既存の事業の継続や見直しとともに新たな事業の創出を図る中、リーディングプロジェクトから重点的に取り組みを図ります。

6-1 基本方針1「主要観光資源の交流人口の創出」の主要施策

主要施策

★ 1.「京成バラ園」の交流人口の増加策の推進

(八千代市民向け⇒近隣観光客向け⇒関東一円の観光客向け)

施策主旨

「京成バラ園」の交流人口(入場者数)を増加させるポイントは、「春バラと秋バラの開花時期の入場者数増加策の強化」と、「年間を通じた集客策の推進」の2つが重要と考えます。開花時期の取り組みは、日帰り旅行企画の旅行会社へのPRも検討材料です。加えて観光客の八千代市での滞在時間を増やすことも視野に入りたいと考えます。年間を通じた情報発信の強化は、(一社)八千代市観光協会等とも協力して進めます。

事業展開例

- 日帰り旅行企画等の旅行会社へのPR活動
- (一社)八千代市観光協会・八千代商工会議所等と連携し、年間を通じた情報発信の強化

主要施策

★ 2.「道の駅やちよ」周辺エリアの交流人口の増加策の推進

(八千代市民向け⇒近隣観光客向け)

施策主旨

「道の駅やちよ」周辺エリアの交流人口を増加させるポイントは、「市内の他の観光資源との複合的な観光ルートの再構築」と、「コンテンツの活性化」と捉えます。

事業展開例

- 季節感のある観光資源と組み合わせた周遊情報の発信の強化

6-2 基本方針2「観光資源の魅力発信の充実とブランド化」の主要施策

主要施策

1. 八千代市の観光ブランドイメージの醸成

施策主旨

八千代市の観光ブランドイメージは、「将来への新たな観光ビジョン」とそれに伴う「新たなキャッチコピー」で示した「桜」と「バラ」を中心にする方向性をぶらさずに、観光ビジョンである「花の観光都市」のブランドイメージを作り上げることがポイントです。

事業展開例

- 観光PRポスター、HP等による、観光キャッチコピーの積極的活用による浸透

主要施策

★ 2. 「ココシルやちよ」の市民への認知度の推進

施策主旨

現在、観光ガイドアプリ「ココシルやちよ」の認知度は低いのが実情です。この課題を解決すべく、イベント掲載や掲載店舗等の増強を図り、閲覧数を上げる必要があります。

事業展開例

- 「ココシルやちよ」情報閲覧数の向上
- 発信性の高いターゲットを意識した「食」や「スイーツ」等の情報発信強化
- 収穫体験や直売所、飲食店、工場見学のPR

主要施策

3. 近隣自治体の方々への様々なプロモーションの推進

施策主旨

近隣自治体の観光客への様々なプロモーションの推進においては、八千代市が観光に力を入れていることを可視化する取り組みが必要です。プロモーションの露出頻度を高め、近隣自治体の方々へ八千代市日帰り観光のプロモーションを展開します。

事業展開例

- 近隣自治体の観光PRブースとの連携
- 疑似体験動画等の観光PR動画の作成

主要施策

4.観光客のリピーター化への具体的な手法の構築

施策主旨

来訪者をリピーター化することは観光に限らず、全てのマーケティング活動においての顧客増加のポイントとなります。八千代市の強みである自然の季節感を利用した再訪喚起等の方策も重要です。

事業展開例

- 観光客の再訪行動に結びつくような施策の検討
- SNSでの高評価の拡散の推進
- 観光資源に関するユニバーサルデザイン・バリアフリー情報の発信

主要施策

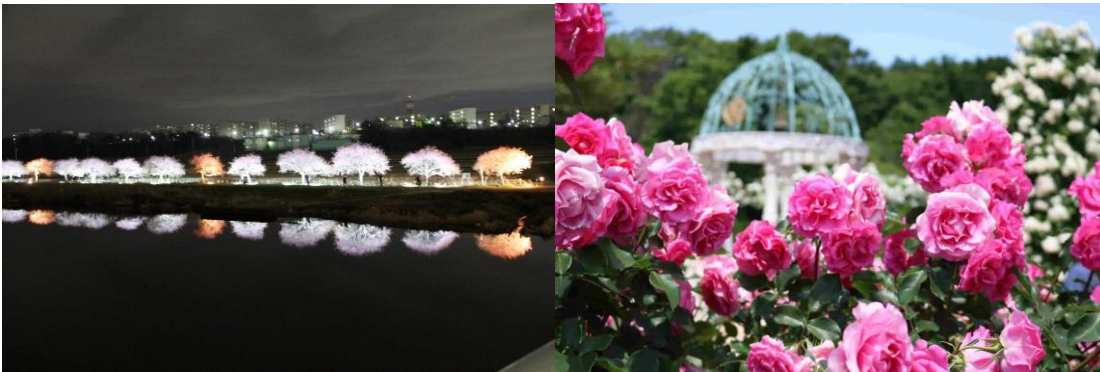
★ 5.観光推進を図る(一社)八千代市観光協会との更なる協力・連携の強化

施策主旨

(一社)八千代市観光協会と八千代市は、八千代市の観光を相互に連携・協力して活動を進めます。

事業展開例

- 八千代市観光情報発信の協力体制の構築



新川千本桜（河津桜）のライトアップ

京成バラ園



6-3 基本方針3「新たな観光資源の発掘」の主要施策

主要施策

★ 1.既存の観光資源の高付加価値化やブラッシュアップ

施策主旨

この計画策定にあたっては、約2年にわたり顕在化している観光資源調査を行いました。魅力的な目玉となる観光資源にするために、常に現状に磨きをかけ、誘客可能な観光資源に育成させていくことが求められます。

事業展開例

- テーマ性を持った観光資源のブラッシュアップ
- 「村上緑地公園の彼岸花」、「新川の川面に鏡のように映る夜桜」、「市の木ツツジ」のPR
- ダイヤモンド富士イベントの活用
- 八千代八福神や地域の伝統的な祭など、歴史のある文化等のPR

主要施策

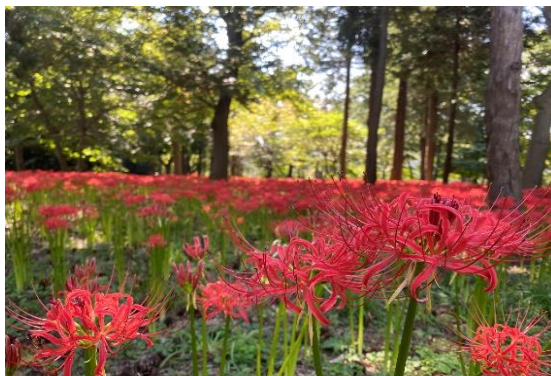
2.オンリーワン・N01等誘客に結び付くキーワードを伴う観光資源の発掘

施策主旨

顕在化している観光資源に留まらず、今後も継続して本物感のある、またはN01や八千代市にしか存在しないオンリーワンな観光資源の発掘を、恒常的に推進します。

事業展開例

- 観光フォトコンテスト等の実施
- 産業観光分野の一つである、工場見学ツアー等への取り組みの検討
- 産業連携の積極的な魅力発信



村上緑地公園の彼岸花



ダイヤモンド富士

6-4 基本方針4「自然環境を利活用した観光の推進」の主要施策

主要施策

1. グリーンツーリズムコンテンツの推進

施策主旨

グリーンツーリズムコンテンツの加重については、自然豊富な八千代市の観光において、今後不可欠な取り組みです。関係団体と連携し、支援やPRを中心として推進します。

事業展開例

- 観光客のニーズに合ったグリーンツーリズムの支援とPR

主要施策

★ 2. 自然を利活用した多種多様なアクティビティへの取り組みの推進

施策主旨

グリーンツーリズムの充実とともに、並行して進めなければならないのは、自然体験型プログラムの充実です。このフィールドにおいても、取り組みを行う団体と連携し、支援やPRを中心として推進します。

事業展開例

- 観光客のニーズに合った自然体験型プログラムの支援とPR（参考：アウトドア体験の検討等）
- 観光船運航に向けた検討

主要施策

3. 「SDGs」の取り組みを意識した観光政策の推進

施策主旨

令和12(2030)年まで、国連加盟国を中心とした「SDGs」の取り組みを観光に活かしていくことも豊かな自然環境に支えられた八千代市の課題の一つと捉えます。

事業展開例

- 観光資源でのエコ活動の検討
- 自然環境の保存と維持につながる体験型観光

6-5 基本方針5「近隣自治体との地域間連携」の主要施策

主要施策

1. 季節や親和性に富む近隣自治体の観光資源とのコラボレーション

施策主旨

周囲に約200万人の人口を擁する近隣自治体との観光分野での連携は、日帰り観光を核とする八千代市の観光において大変重要なポイントです。

今後も船橋市や佐倉市等、他の近隣自治体とも積極的な連携を図ります。

事業展開例

- 八千代市の主要観光資源と近隣自治体の観光資源を組み合わせた、新たな魅力の開発
- 日帰り旅行企画等の旅行会社への提案

主要施策

★ 2. バラを軸とした観光振興への推進

施策主旨

バラの街として連携を行っている佐倉市や習志野市とは、今後も観光に通ずる事業を推進する必要があります。観光分野において市の花「バラ」を重要な観光資源として展開していきます。

事業展開例

- 八千代市の「京成バラ園」、佐倉市の「佐倉草ぶえの丘バラ園」、習志野市の「習志野市谷津バラ園」との連携による情報の発信と今後の取り組みの検討

主要施策

3. 印旛沼流域自治体との観光振興の推進

施策主旨

八千代市の自然のシンボルともいえる新川の観光資源への新たな活用も大変重要な取り組みです。八千代市単独ではなく、印旛沼流域の千葉市や佐倉市とも相互連携を深めて新たな魅力づくりを創造することが重要です。

事業展開例

- 新川等の遊歩道を活用したサイクリングやウォーキングルート開発の検討

6-6 基本方針6「観光によるシビックプライドの醸成」の主要施策

主要施策

★ 1.三大祭を中心とした市民参加の観光の推進

施策主旨

老若男女を問わず、市民の皆さんが八千代市の観光に興味を持つこと、更に、自分たちの街に誇れる観光資源があることにプライドを持ってもらうことは、今後観光を推進する市にとって重要なことです。

八千代市には、毎年継続して開催される、市民のふるさと意識の高揚及び観光の振興を図るための「八千代ふるさと親子祭」、市の産業の振興を図るための「八千代どーんと祭」、源右衛門鍋をPRし市の産業や観光の振興を図るための「源右衛門祭」の通称「三大祭」があり、市民の皆さんも楽しみにして参加しています。

このようなイベント参加もきっかけにして、八千代市の観光に今まで以上に関心をもってもらうことを目指します。

事業展開例

- 三大祭の開催や支援、あるいは各種市民イベントのPR

主要施策

★ 2.八千代市民の主要観光資源へのリピーター化

施策主旨

八千代市民の主要観光資源「京成バラ園」の市民への認知度は98.3%ですが、2年以内の訪問経験は45.3%(八千代市民の観光意識調査 令和2(2020)年実施)という数字を見ても、地元の市民の方々から誘客を強化し、リピーター化・ファン化していく取り組みはとても重要です。

事業展開例

- 観光主要施設への市民を意識した来訪策の働きかけ

主要施策

3.子どもたちに対する八千代市観光への関心の醸成

施策主旨

未来の観光のバトンを子どもたちに渡していくことも看過できない取り組みの一つです。子どもたちに自分の住む街の観光に関心を持ってもらい、更に愛着を持ってもらうことを推進します。

事業展開例

- 八千代ふるさと親子祭等を通じた子どもたちへのアプローチ
- 子ども向け観光コンテンツの開発の検討

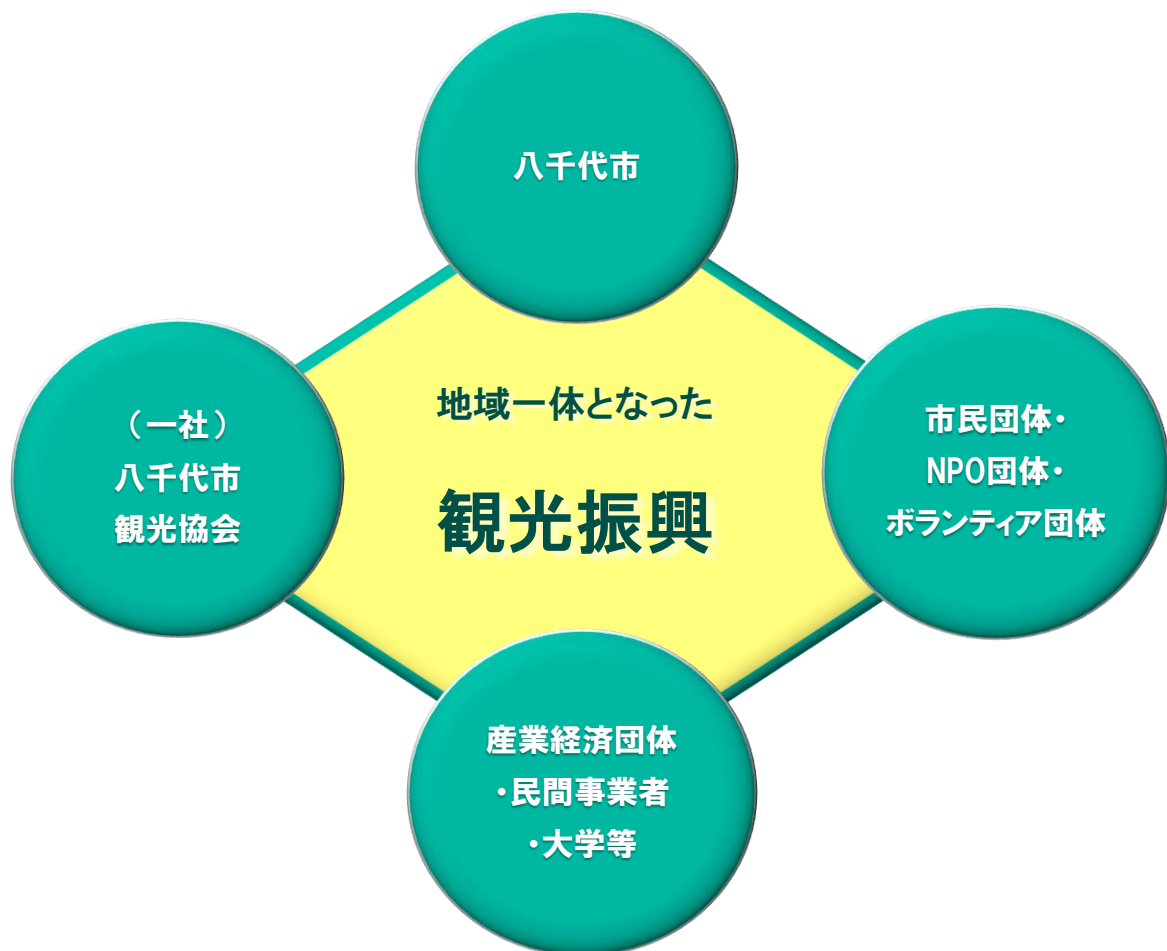
第7章：推進体制と進行管理

7-1 推進体制

本計画の推進のため、関係各所の横断的な協力体制を構築し、第5章でまとめている課題解決に向けて取り組んでまいります。

あわせて、(一社)八千代市観光協会とも協力体制を強化し、八千代商工会議所、八千代市農業協同組合等の産業経済団体や民間事業者、市民団体、NPO法人等とも更に連携を深め、地域一丸となって観光振興に取り組めます。

このような、様々な組織や団体とともに、より良い八千代市の観光の姿を実現していきたいと考えます。



7-2 推進スケジュール

この計画の実施期間は令和4(2022)年度～令和6(2024)年度までの3年間です。観光を取り巻く環境が目まぐるしく変わる状況の中、スピード感のある実態に合わせ、より可変的に対応できるコンパクトな期間としています。1年目に具体的な施策の内容を固め、2年目にその施策に伴う調査・検証で分析し、その結果をもとに、3年目に課題解決の打ち手を施行又は検討するというプロセスを考えています。

八千代市の観光ビジョンである「花の観光都市」の実現に向けて着実に取り組みを深めてまいります。

事業	令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度
継続的事業	実施	→	
	検討・更新	→	
新規事業	検討・調査	実施	→
	検討・調査	→	実施



新川千本桜（河津桜）

7-3 計画進捗の評価と目標の管理について

本計画を着実に推進しその達成度を把握するため、目標を設定し、進捗状況を随時確認しながら各種施策に取り組んでいきます。また、各数値においては、コロナ禍での数値が比較の対象にふさわしくないものもありますので、その場合はコロナ禍以前の数値を現況値として設定しています。



「京成バラ園」の観光入込客数	
現況値:2019 年度	目標値:2024 年度
129,189 人	150,000 人

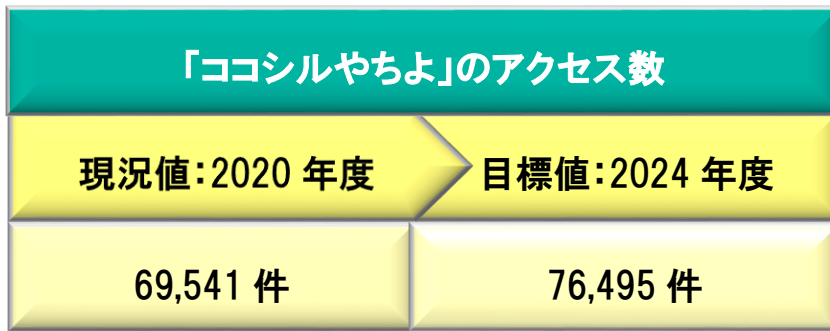
【特に関連のある施策】

- ・「京成バラ園」の交流人口の増加策の推進
- ・近隣自治体の方々への様々なプロモーションの推進
- ・バラを軸とした観光振興への推進
- ・八千代市民の主要観光資源へのリピーター化

八千代市観光推進室HP (主要観光資源情報ページ)のアクセス数	
現況値:2020 年度	目標値:2024 年度
63,746 件	70,120 件

【特に関連のある施策】

- ・八千代市の観光ブランドイメージの醸成
- ・近隣自治体の方々への様々なプロモーションの推進



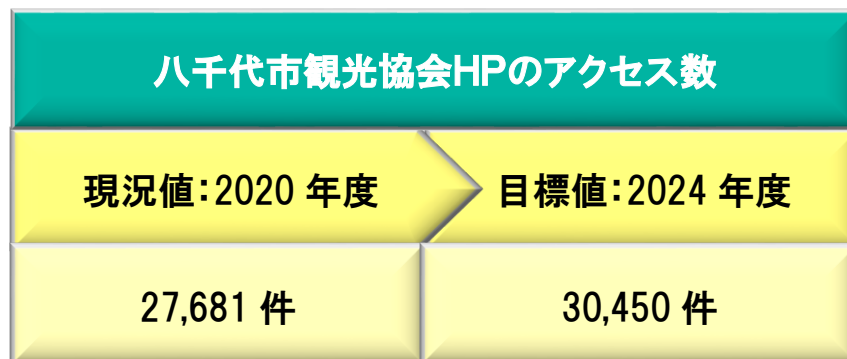
【特に関連のある施策】

- ・「ココシルやちよ」の市民への認知度の推進
- ・近隣自治体の方々への様々なプロモーションの推進



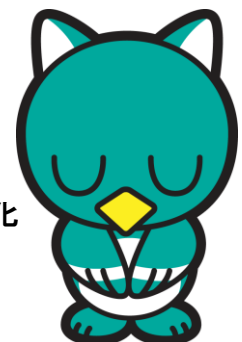
【特に関連のある施策】

- ・八千代市の観光ブランドイメージの醸成
- ・既存の観光資源の高付加価値化やブラッシュアップ



【特に関連のある施策】

- ・観光推進を図る(一社)八千代市観光協会との更なる協力・連携の強化
- ・近隣自治体の方々への様々なプロモーションの推進



卷末資料

資料1 (第2章)八千代市を取り囲む観光の外部環境について 補足資料

●日本人の国内宿泊観光旅行における年間回数及び宿泊数の推移

新型コロナウイルス感染症拡大前の令和元(2019)年における、日本人1人当たりの観光を目的とする国内宿泊旅行は、年間の旅行回数が約1.4回、年間宿泊数が2.3泊でした。

一方、新型コロナウイルス感染症が発生した令和2(2020)年の日本人1人当たりの国内宿泊旅行の回数は0.7回、日帰り旅行回数は0.7回、1人当たり宿泊数は1.2泊と、前年を大きく下回りました。今なお、コロナ禍の影響により厳しい環境が続いています。

・日本人国内宿泊観光旅行の1人当たりの年間回数・宿泊数の推移



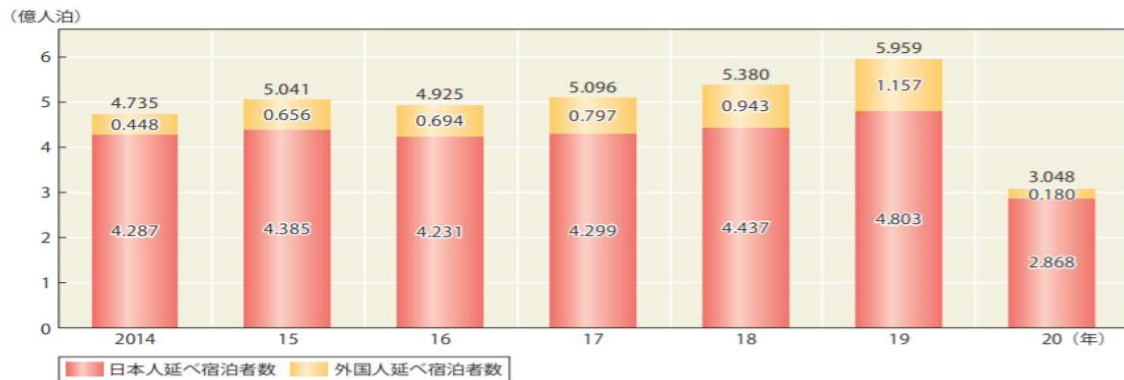
資料：観光庁「旅行・観光消費動向調査」観光・レクリエーション目的

出典：観光庁「令和3年版観光白書」

●日本人・外国人の延べ宿泊者数の推移

日本国内のホテル・旅館等における延べ宿泊者数は、令和2(2020)年は3億480万人泊(前年比48.9%減)でした。このうち、日本人延べ宿泊者数は2億8,677万人泊(前年比40.3%減)、外国人延べ宿泊者数は1,803万人泊(前年比84.4%減)となっていました。また、延べ宿泊者数全体に占める外国人の割合は5.9%でした。ここにもコロナ禍の影響が大きく出ています。

・日本人・外国人の延べ宿泊者数の推移

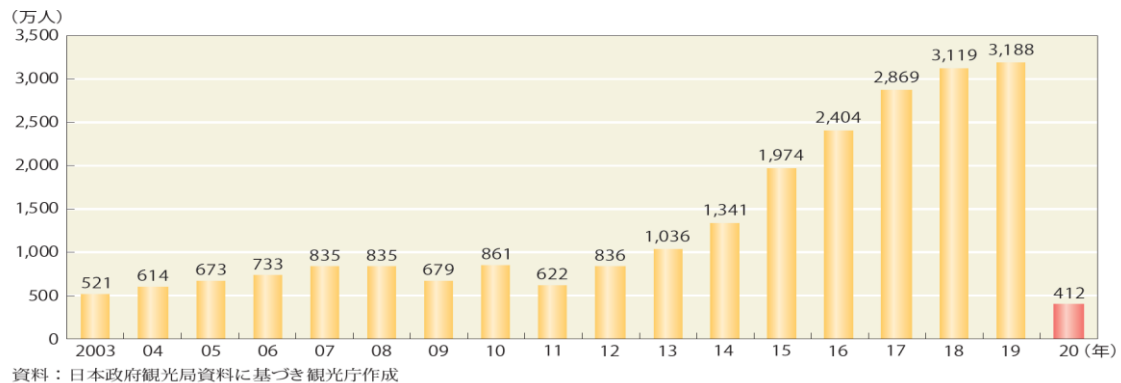


出典：観光庁「令和3年版観光白書」

●訪日外国人観光客数の推移

日本を訪れる外国人観光客は、平成30(2018)年に初めて3,000万人を突破し、令和元(2019)年には3,188万人と8年連続増加していました。しかし、令和2(2020)年には新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として日本への入国制限が設けられた影響で、その数は412万人に留まり、大きく減少しています。

・訪日外国人観光客数の推移



出典：観光庁「令和3年版観光白書」

●新しい生活様式によるワーケーション・プレジャーの普及

観光庁では、テレワークの普及や働き方の多様化も踏まえ、ワーケーションやプレジャー等の仕事と休暇を組み合わせた旅行を、働き方改革とも合致した「新たな旅のスタイル」と位置付け、企業、地域等と連携しながら、より多くの旅行機会の創出と旅行需要の平準化に向けて普及を促進しています。

ワーケーションに関する調査によると、特に20歳代、30歳代の実施希望率が高い結果となっています。ワーケーションやプレジャー等の導入により、企業側としては、社員満足度の向上、人材確保、イノベーションの創出やBCP(=事業継続計画のこと。災害やパンデミックなどの緊急事態において、包括的に事業を継続するための計画)など、柔軟な働き方のニーズへの対応を含めた経営課題の解決につながることを期待されています。また、従業員にとっては、働き方の選択肢が増えるとともに、職場や自宅とは異なる環境で過ごすことにより、リフレッシュやモチベーション向上などのメリットがあります。観光庁が令和2(2020)年にモデル事業として企業を対象に実施した、ワーケーションの効果検証では、生産性・心身の健康に有効な効果があることが示されました。

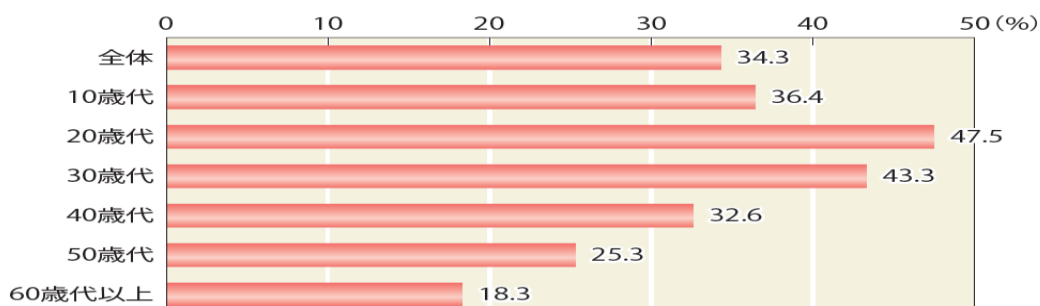
受入側の地域においてはコロナ禍の影響で大きく減少している観光需要の代替となり得る可能性があり、また平日需要の喚起、連泊効果など大きな可能性を秘めています。

・ワーケーションの型



出典：観光庁「令和3年版観光白書」

・年代別ワーケーションの実施希望



資料：内閣府「第2回新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査」

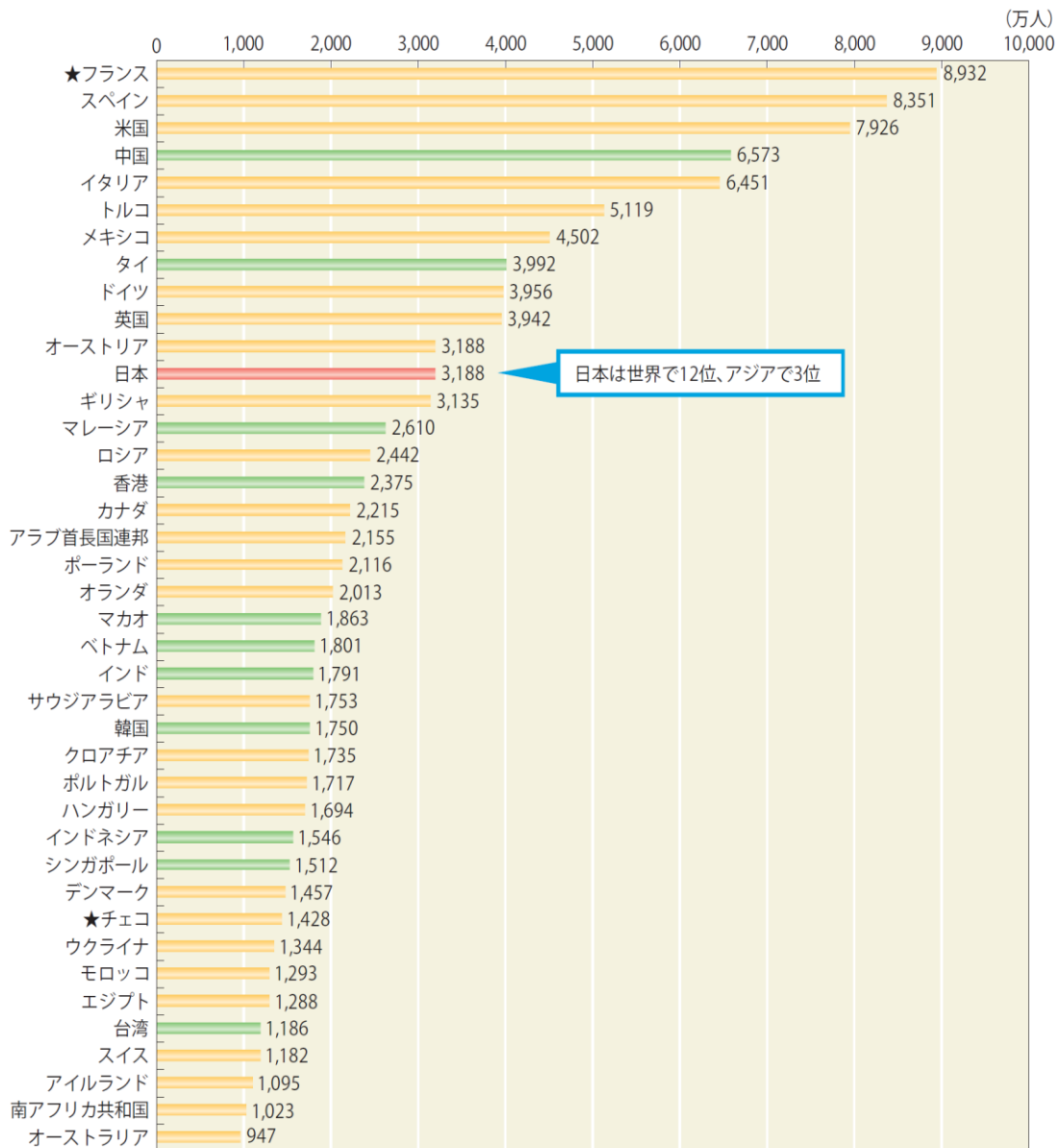
出典：観光庁「令和3年版観光白書」

●訪日外国人観光客のマーケット動向について

1. 令和元(2019)年の世界の観光の状況

UNWTOによると、新型コロナウイルス感染症拡大前の令和元(2019)年の外国人旅行者受入数は、日本は3,188万人で12位でした。

・外国人旅行者受入数ランキング (令和元(2019)年)

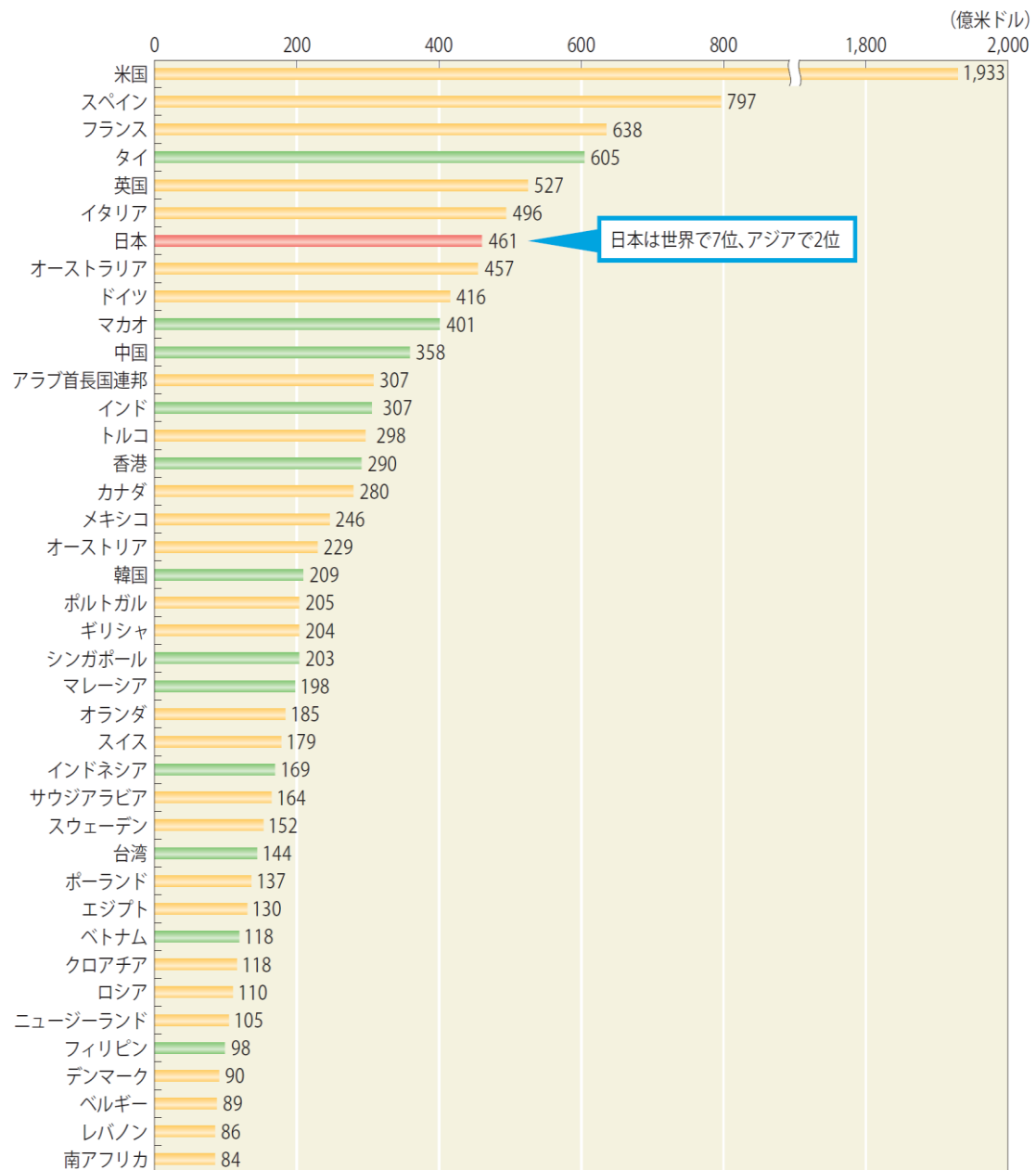


出典：観光庁「令和3年版観光白書」

2. 国際観光収入

令和元(2019)年の各国・地域の国際観光収入は、米国が1,933億ドルで1位となり、スペインが797億ドルで2位、フランスが638億ドルで3位でした。日本は461億ドルで7位でした。

・国際観光収入ランキング（令和元(2019)年）

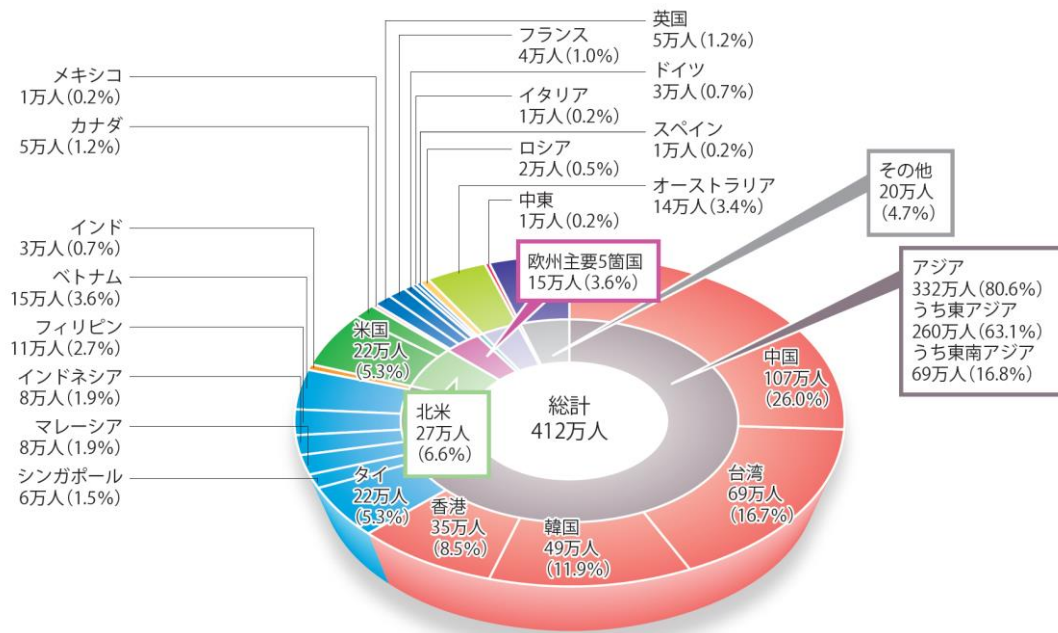


出典：観光庁「令和3年版観光白書」

3. 訪日外国人旅行者の内訳

令和2(2020)年は、アジアからの訪日外国人旅行者数が332万人となり、全体の80.6%を占めています。東アジアでは、中国が107万人と主要22市場のうちで最も多く、台湾(69万人)、韓国(49万人)と続き、全体の63.1%を占めました。

・ 訪日外国人旅行者の内訳 (令和2(2020)年)



出典：観光庁「令和3年版観光白書」

4. 訪日外国人旅行者による消費額の推移

令和2(2020)年における訪日外国人旅行者による日本国内における消費額は、試算によると、7,446億円となりました。前年の4兆8,135億円から大きく減少しました。

・ 訪日外国人旅行者による消費額の推移

年	訪日外国人旅行消費額
2012年(平成24年)	1兆846億円
2013年(平成25年)	1兆4,167億円
2014年(平成26年)	2兆278億円
2015年(平成27年)	3兆4,771億円
2016年(平成28年)	3兆7,476億円
2017年(平成29年)	4兆4,162億円
2018年(平成30年)	4兆5,189億円
2019年(令和元年)	4兆8,135億円
2020年(令和2年)	7,446億円

出典：観光庁「令和3年版観光白書」

5. 訪日外国人1人当たり旅行支出

令和2(2020)年の訪日外国人(一般客)1人当たり旅行支出は、18万5千円(前年比17%増)と推計されます。一方で、訪日外国人旅行者数は約400万人となり、訪日外国人旅行消費額を大きく落とす要因となっています。

- ・ 国籍・地域別の訪日外国人1人当たり旅行支出と訪日外国人旅行消費額

2020年暦年 (試算値)						
国籍・地域	a. 1人当たり旅行支出 ^{注1}		b. 訪日外国人旅行者数 ^{注2}		a×b. 訪日外国人旅行消費額	
	(円/人)	前年比	(人)	前年比	(億円)	前年比
全国籍・地域	185,413	17.0%	3,995,868	-86.6%	7,409	-84.3%
一般客						
韓国	87,900	15.4%	487,772	-91.2%	429	-89.9%
台湾	159,722	35.0%	676,128	-85.3%	1,080	-80.2%
香港	168,544	8.1%	341,236	-84.8%	575	-83.6%
中国	256,566	20.6%	976,442	-87.8%	2,505	-85.3%
タイ	139,715	6.3%	219,798	-83.3%	307	-82.3%
シンガポール	182,664	5.2%	55,204	-88.7%	101	-88.1%
マレーシア	123,935	-7.0%	76,492	-84.6%	95	-85.7%
インドネシア	153,448	17.1%	77,658	-81.1%	119	-77.8%
フィリピン	103,287	-4.3%	108,907	-82.1%	112	-82.9%
ベトナム	263,497	48.8%	152,551	-69.1%	402	-54.1%
インド	191,373	21.7%	26,880	-84.5%	51	-81.2%
英国	205,332	-14.9%	50,713	-87.7%	104	-89.5%
ドイツ	192,165	-4.6%	29,758	-87.0%	57	-87.6%
フランス	189,911	-20.0%	43,085	-87.2%	82	-89.7%
イタリア	229,426	15.0%	13,655	-91.6%	31	-90.3%
スペイン	190,762	-13.8%	11,723	-91.0%	22	-92.2%
ロシア	157,432	-14.0%	21,800	-81.6%	34	-84.2%
米国	208,402	10.0%	218,764	-87.1%	456	-85.8%
カナダ	180,290	-0.8%	52,920	-85.6%	95	-85.7%
オーストラリア	238,826	-3.6%	142,627	-76.7%	341	-77.5%
その他	193,127	-12.8%	211,755	-84.5%	409	-86.5%
クルーズ客	31,019	-21.9%	119,960	-94.1%	37	-95.4%
全体			4,115,828	-87.1%	7,446	-84.5%

注1) 出典：観光庁「訪日外国人消費動向調査」2020年1-3月期調査結果
注2) 出典：日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数」(暫定値)、法務省「出入国管理統計」船舶観光上陸許可数
一般客の旅行者数は、訪日外客数からクルーズ客の人数(船舶観光上陸許可数)を除いたもの。

出典：観光庁「訪日外国人消費動向調査」

資料 2 八千代市観光振興計画策定における事前調査

●観光資源調査

計画を策定するにあたり、観光資源の調査・分析を令和元(2019)年 11 月～令和 3(2021)年 3 月に実施しました。

【八千代市主要観光資源の分類について】

観光資源を下記の ABCDE に分類し、今後の観光マーケットに取り組む指針の一つとしました。複数のカテゴリーに属する観光資源もあります。

NO	観光資源名	A	B	C	D	E
名所・旧跡・文化財など						
1	八福神(正覚院)	●	●	●		
2	八福神(東栄寺)	●	●	●		
3	八福神(観音寺)	●	●	●		
4	八福神(貞福寺)	●	●	●		
5	八福神(妙徳寺)	●	●	●		
6	八福神(妙光寺)	●	●	●		
7	八福神(長福寺)萱田	●	●	●		
8	八福神(長福寺)米本	●	●	●		
9	八福神めぐり	●	●	●		
花・風景						
10	ソメイヨシノ(新川千本桜)	●	●	●		
11	河津桜(新川千本桜)			●	●	●
12	京成バラ園				●	●
13	村上緑地公園の彼岸花			●	●	
14	村上緑地公園のイチヨウ並木	●				
15	そば畑		●			
16	スイセン(萱田地区公園)	●				
17	イヌザクラの木	●				
18	ツツジ(ゆりのき台)	●	●			
19	バラのライトアップ(八千代緑が丘駅)	●	●			
20	八千代緑が丘駅から京成バラ園までの遊歩道	●	●	●		
21	佐倉草ぶえの丘バラ園(バラ園関連)		●	●	●	●

NO	観光資源名	A	B	C	D	E
農業体験・体験プログラム						
22	島田いちご園(やちよ農業交流センター)		●	●		
23	金子苺園		●	●		
24	高秀牧場	●	●			
25	万華鏡制作		●			●
施設・工場見学						
26	道の駅やちよ			●		
27	八千代切子(東洋佐々木ガラス工場)			●		
28	大和田農場	●				
29	ボンゴヴィラ(バーベキュー場)	●	●			
30	LOCAL LOCAL GARDEN(バーベキュー場)	●	●			
お祭り・イベント・スポーツ・その他						
31	コミュニティワールドカップサッカーin 八千代			●	●	
32	ネオ・スピードパーク(カート場)		●	●		
33	秀明大学ウォーターポロアリーナ(水球)	●				●
34	ニューリバーロードレース(ランイベント)			●		
35	モケイ パドック(シューティングゲーム)				●	
36	やきいも祭り(やちよ農業交流センター)		●			
37	黒沢池のたたら祭		●			
38	東葉家族車両基地まつり			●		

* 観光資源のお祭りとして実績のある「八千代ふるさと親子祭」、「八千代どーんと祭」、「源右衛門祭」はコロナ禍のために中止となったため調査に至らなかった。

【観光資源のカテゴリー分析指標】

カテゴリー	カテゴリーの分析指標
カテゴリーA	市民が楽しむ(住んで良かったと思える)レベル。あるいは規模や特性など地域における位置付けから、市民中心型の観光資源
カテゴリーB	現在は市民で楽しむレベルだが、プラス α の付加価値をつけることにより、市外から誘客可能な観光資源
カテゴリーC	規模やオリジナリティ・NO1 度・非日常などのいずれかが見受けられ、際立っていなくとも市民はもとより市外 50Km~100Km 圏内から誘客可能な観光資源(注 1)
カテゴリーD	近隣の 50Km~100Km 圏内だけでなく、関東 200Km 圏、あるいは全国から誘客可能な観光資源(注 2)
カテゴリーE	日本人だけでなく、外国人観光客を誘客可能な、あるいはプラス α の付加価値をつけることにより、誘客の可能性が見いだせると思われる観光資源

注 1:概ね 50Km~100Km 圏内から観光客が訪れる観光資源

主に日帰り観光客で、近隣の同様な観光資源より、仮に際立っていなくとも「お気に入り」、「憩いの場」などの理由で気軽に、あるいは 1 年に数回訪ねられる観光資源。観光客の移動時間は、概ね 30 分から 1 時間 30 分程度(高速道路や JR 特急利用を含む)

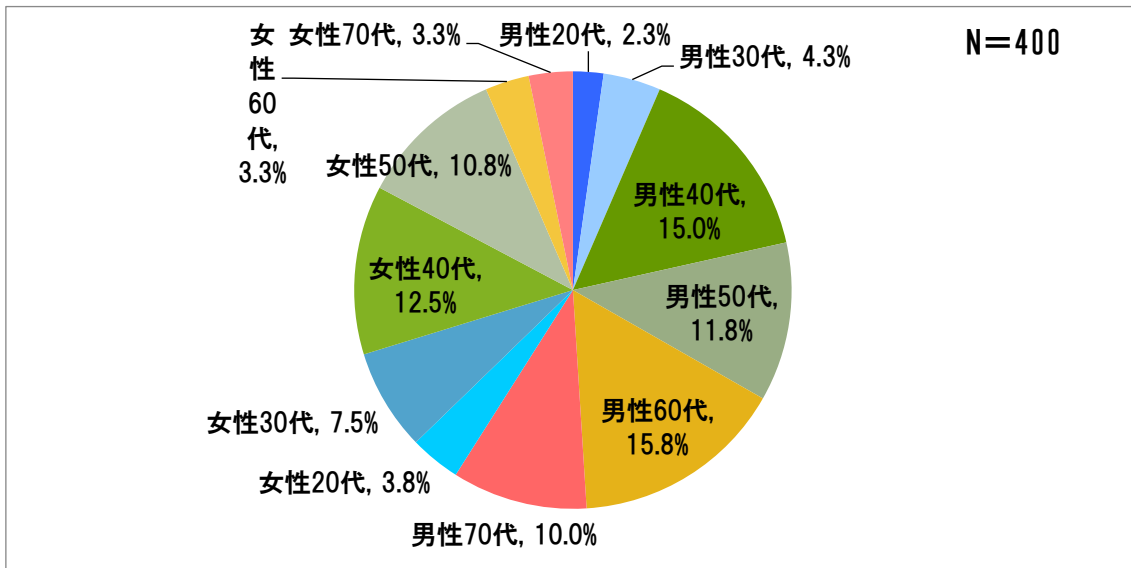
注 2:200Km 以上から観光客が訪れる観光資源

際立った規模や本物感・感動度・希少性・非日常感などの要素が顕著であり、関東一円(2 時間以上)あるいは全国からそれ以上時間をかけても、更にその資源を訪ねるためなら、宿泊さえいとわぬ価値があると思われる観光資源

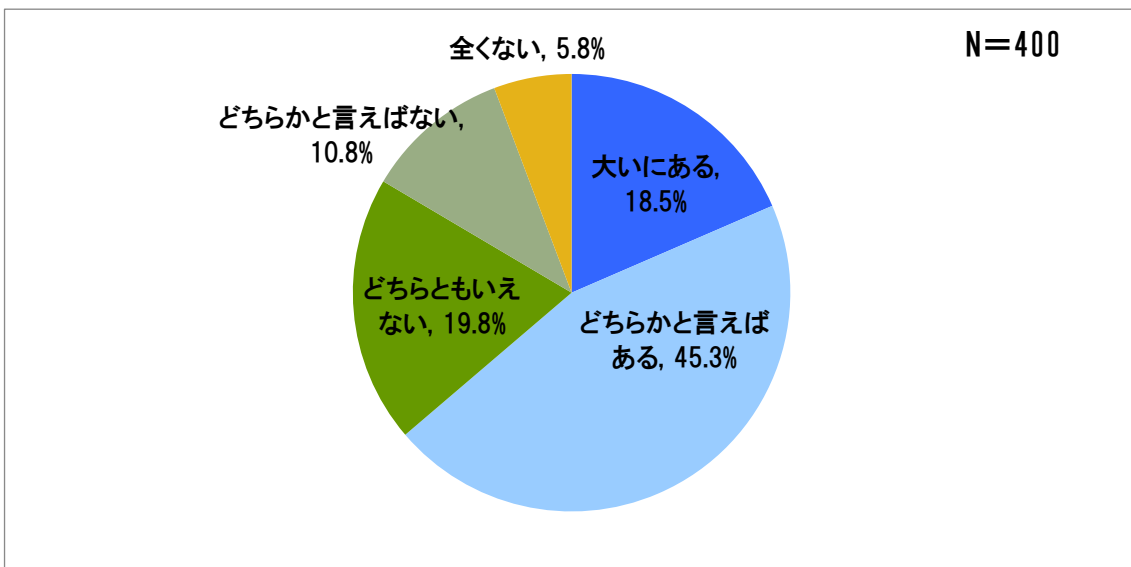
●八千代市民の観光意識調査

調査対象	八千代市在住の 20～70 歳代の市民
有効回答数	400 名(男性 59%・女性 41%)
調査方法	インターネット調査
調査実施期間	令和 2(2020)年 9 月～10 月

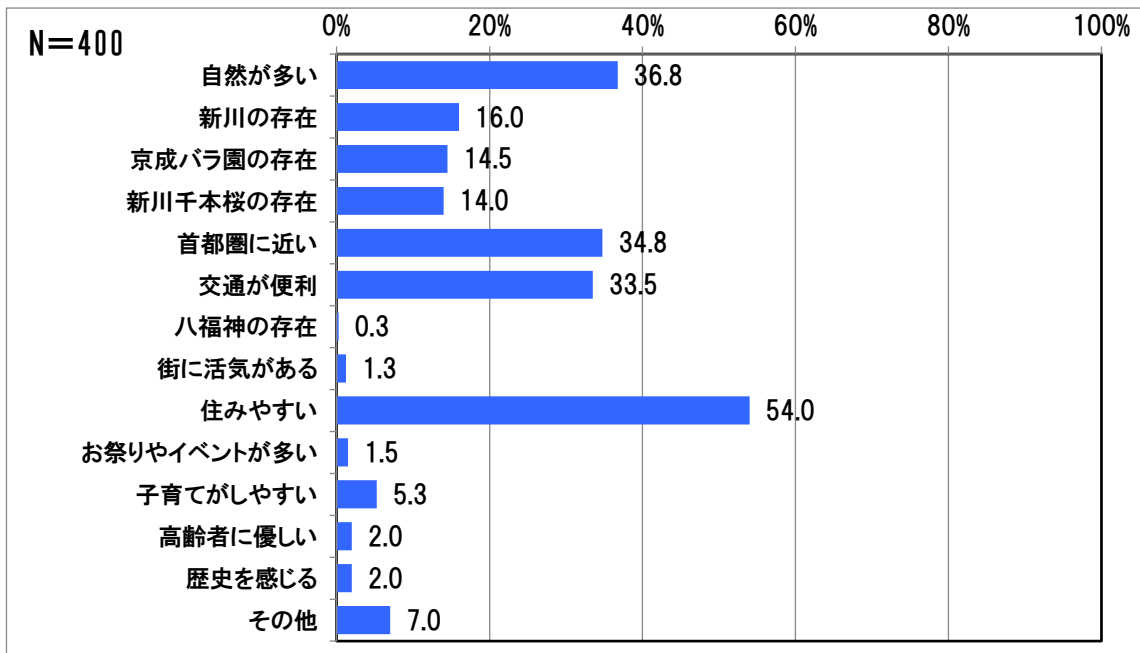
【性別・年代】



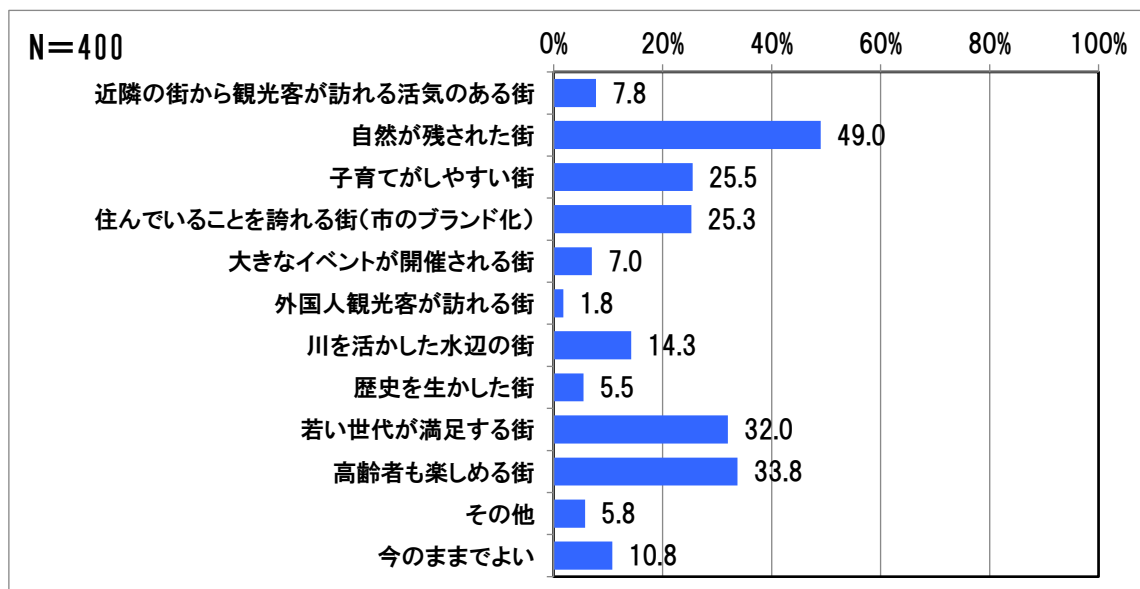
【Q1】あなたは、八千代市への愛着があると思いますか。当てはまるものをお選びください。(ひとつだけ)



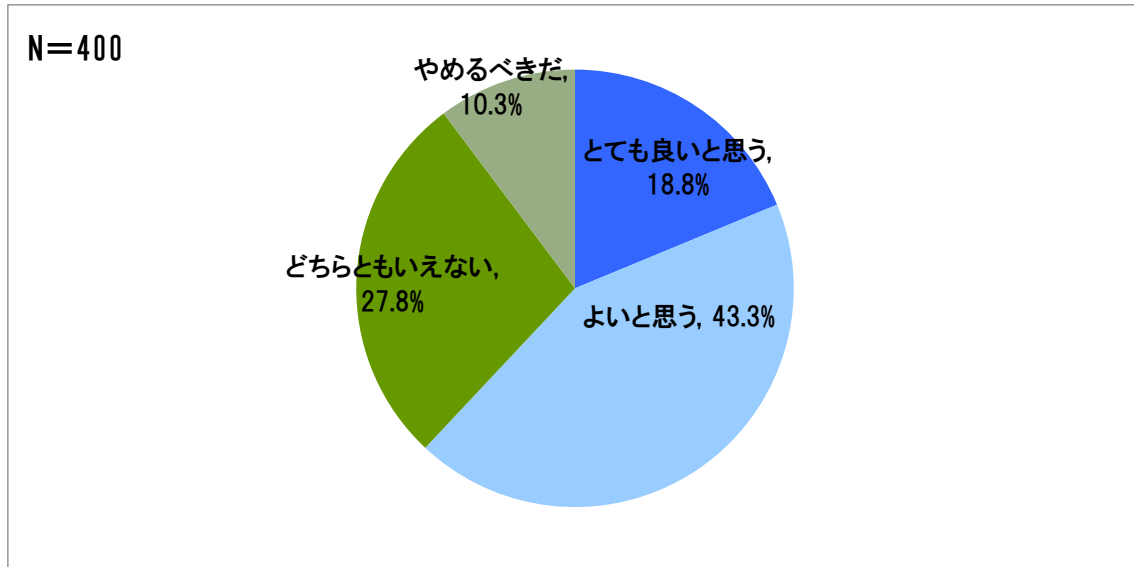
【Q2】八千代市に住んでみて「良かった」、「満足している」と思う点はありますか。当てはまるものをお選びください。(3つまで)



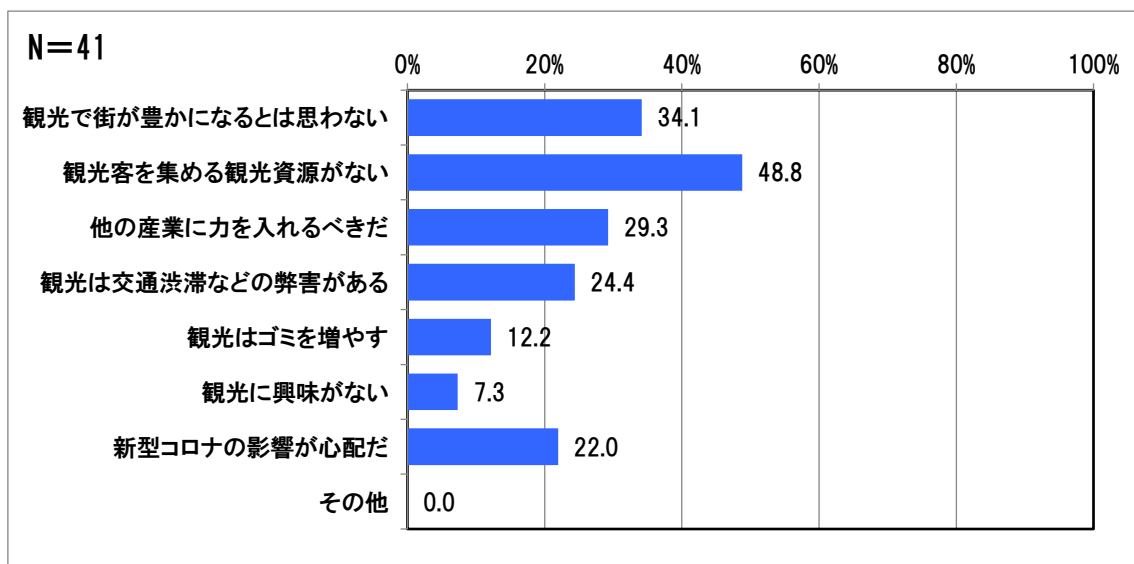
【Q3】将来、八千代市はどのような街になってほしいですか。当てはまるものをお選びください。(3つまで)



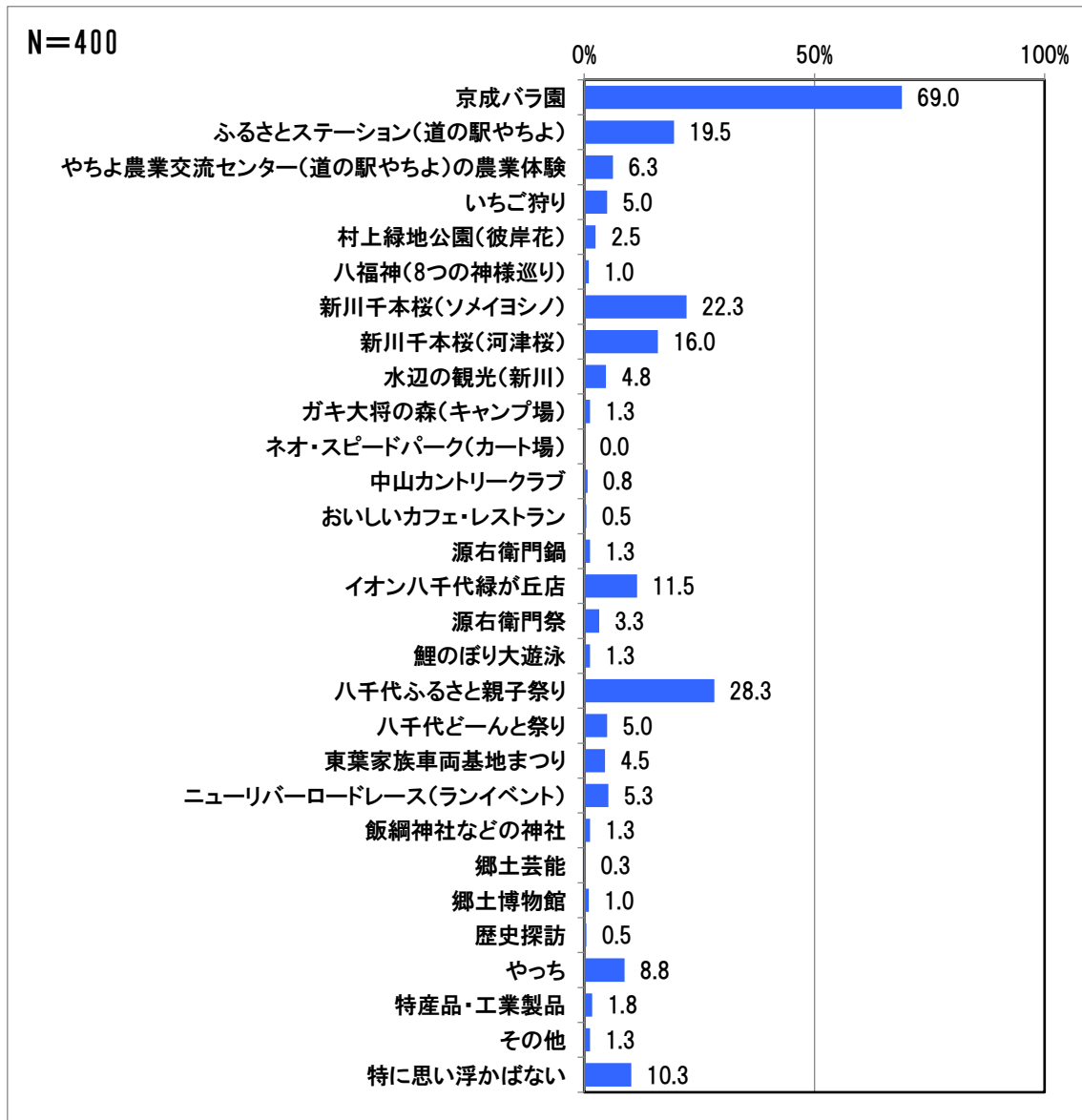
【Q4】将来の人口減少に備え、他の街に負けないよう【交流人口（観光に力を入れる）を増やして、経済を活性化させよう】という考えはどのように思いますか。当てはまるものをお選びください。（ひとつだけ）



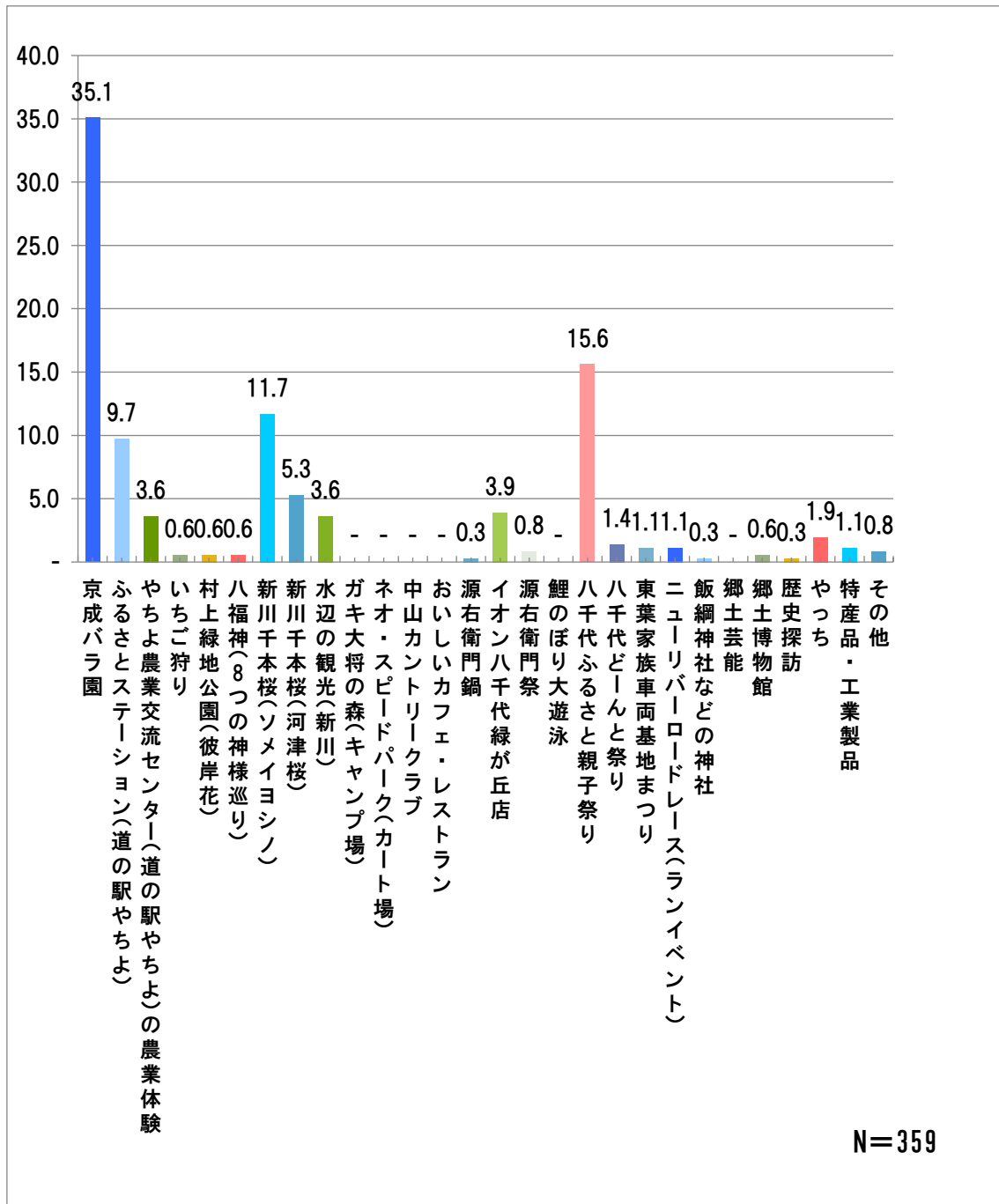
【Q5】【交流人口（観光に力を入れる）を増やして、経済を活性化させよう】という考えをやめるべきだと思う理由に当てはまるものをお選びください。（2 つまで）



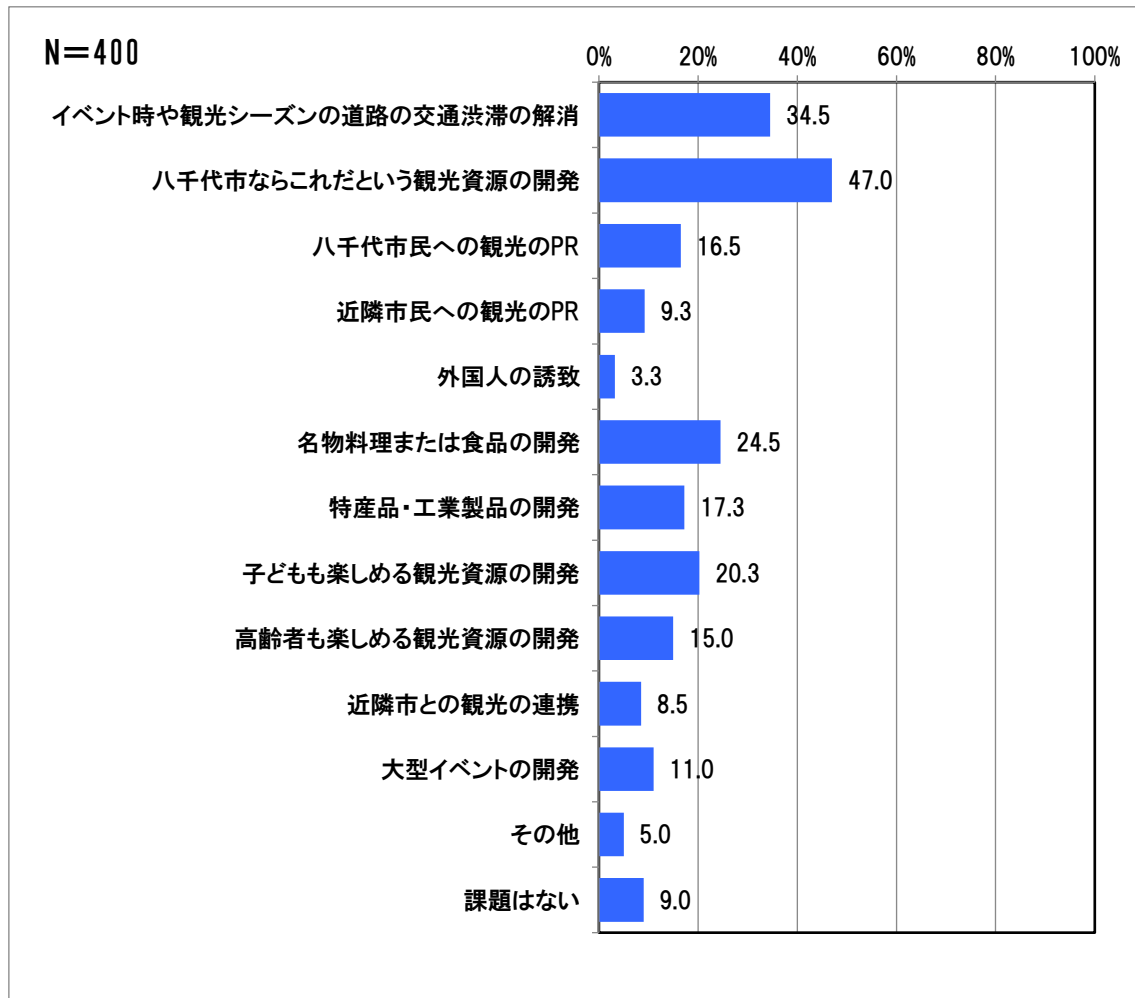
【Q6】八千代市の観光資源として、どのようなものを思い浮かべますか。当てはまるものをお選びください。(3つまで)



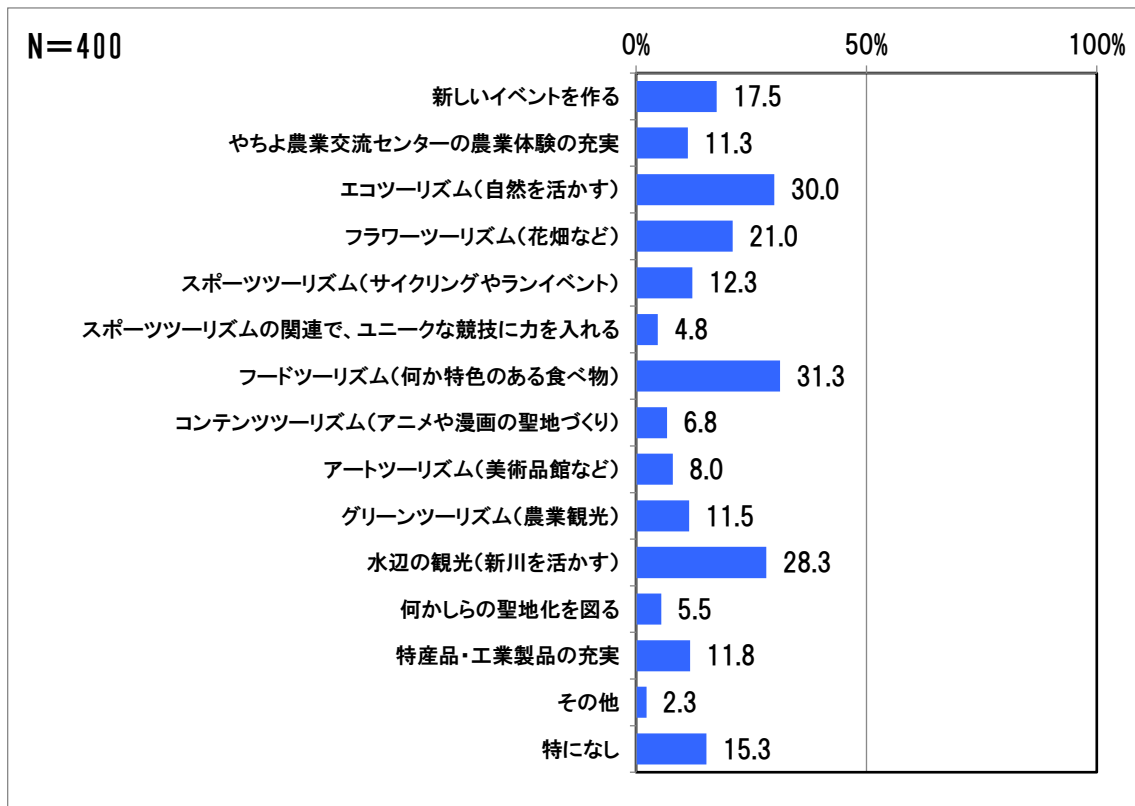
【Q7】その中で、今後一番力を入れるべきだと思う観光資源をお選びください。(ひとつだけ)



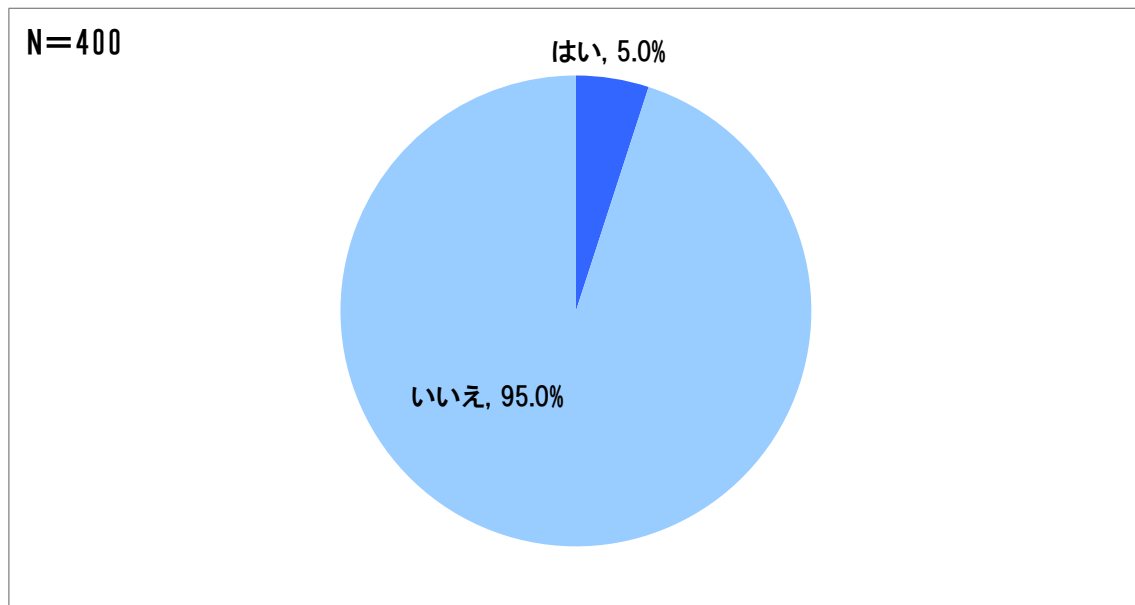
【Q8】八千代市の観光の課題はどんなことが考えられますか。当てはまるものをお選びください。
(3 つまで)



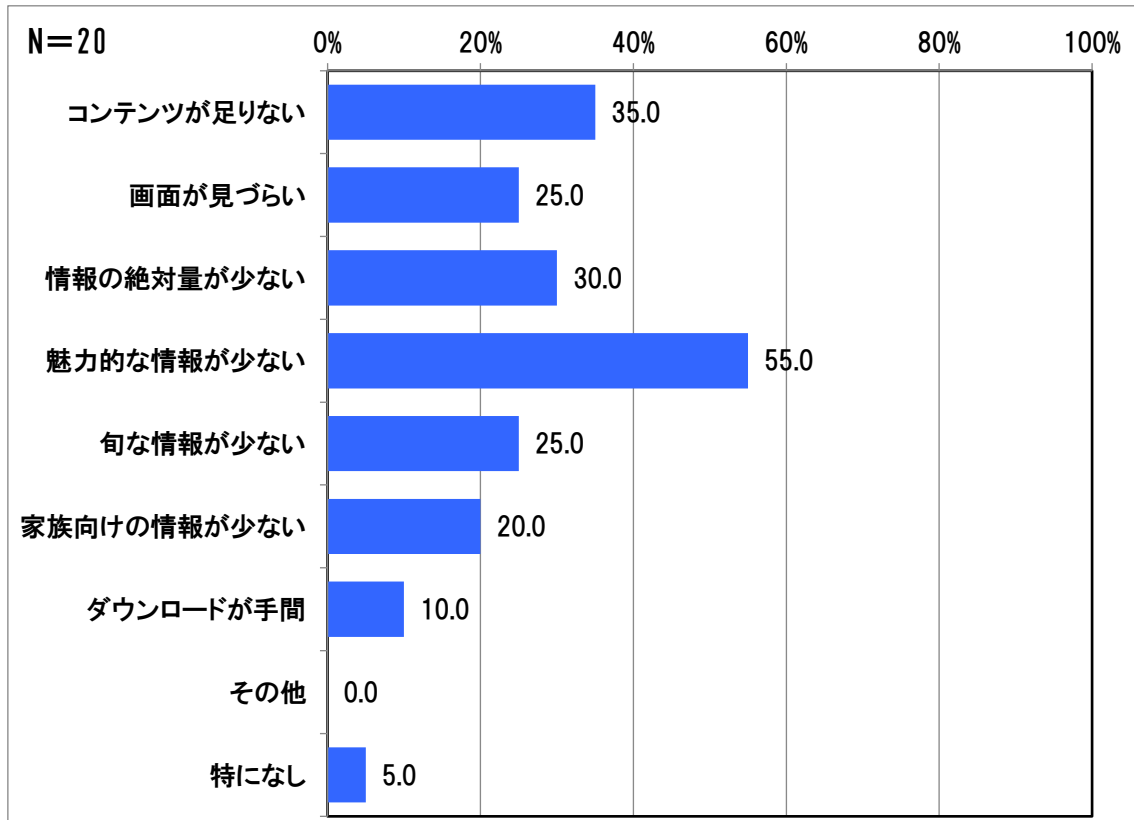
【Q9】八千代市の現在の観光環境や観光資源も考慮して、将来どのような観光に力を入れてほしいですか。当てはまるものをお選びください。(3 つまで)



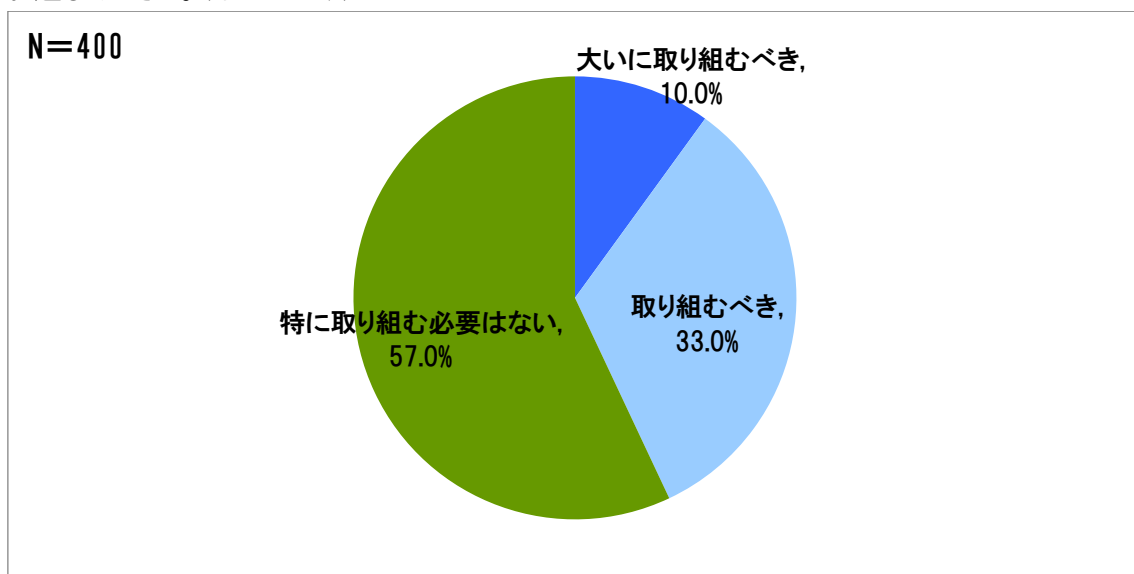
【Q10】八千代市の観光アプリ「ココシルやちよ」を利用したことはありますか。当てはまるものをお選びください。(ひとつだけ)



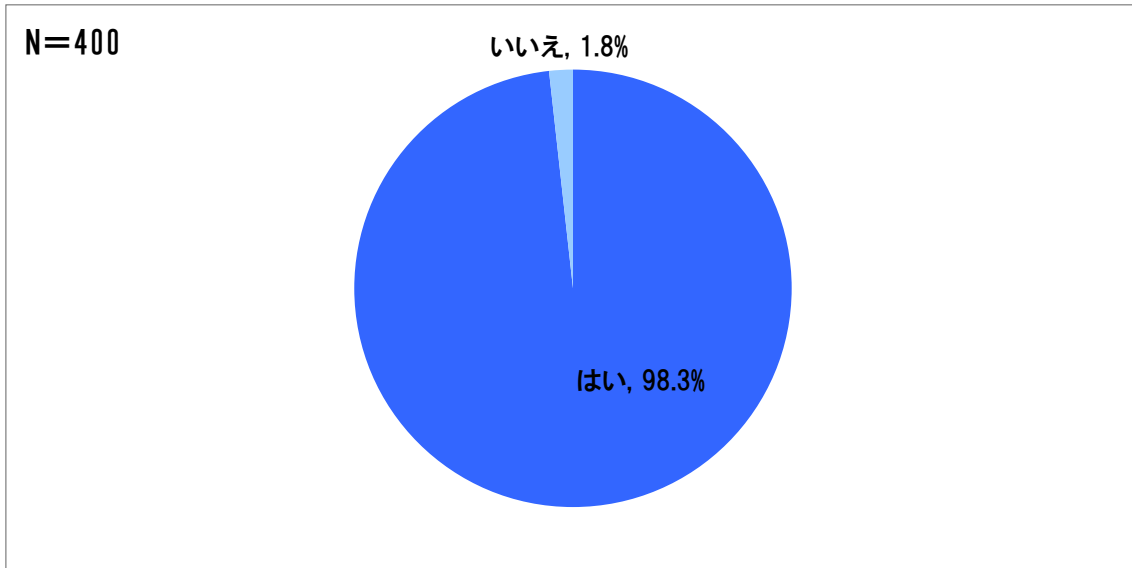
【Q11】「ココシルやちよ」について、改善すべき点はありますか。当てはまるものをすべてお選びください。(いくつでも)



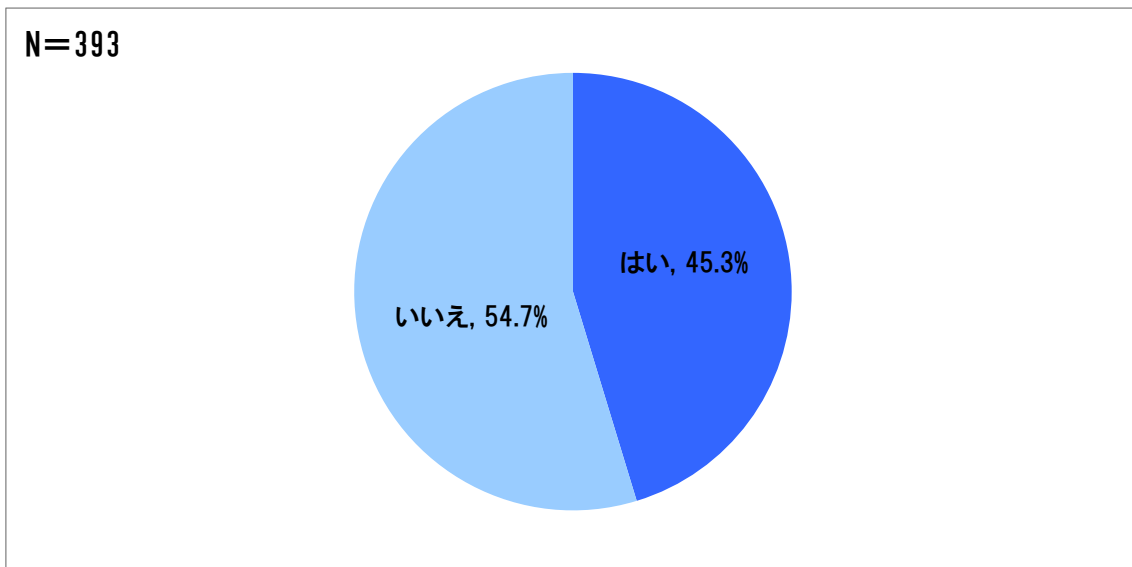
【Q12】将来、八千代市は外国人観光客の誘致に取り組むべきだと思いますか。当てはまるものをお選びください。(ひとつだけ)



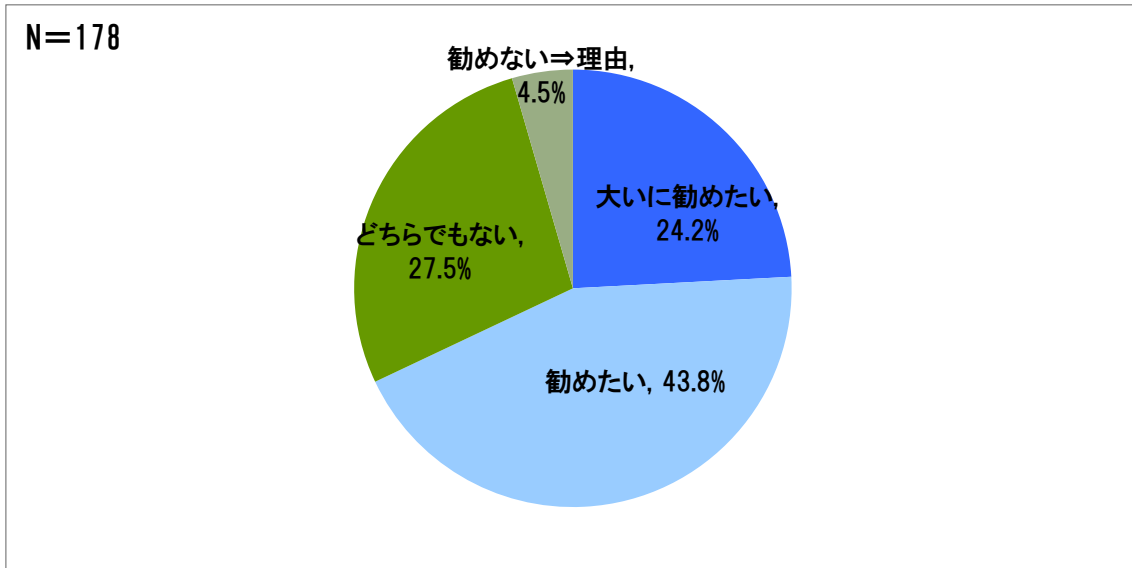
【Q13】八千代市内にある「京成バラ園」を知っていますか。当てはまるものをお選びください。(ひとつだけ)



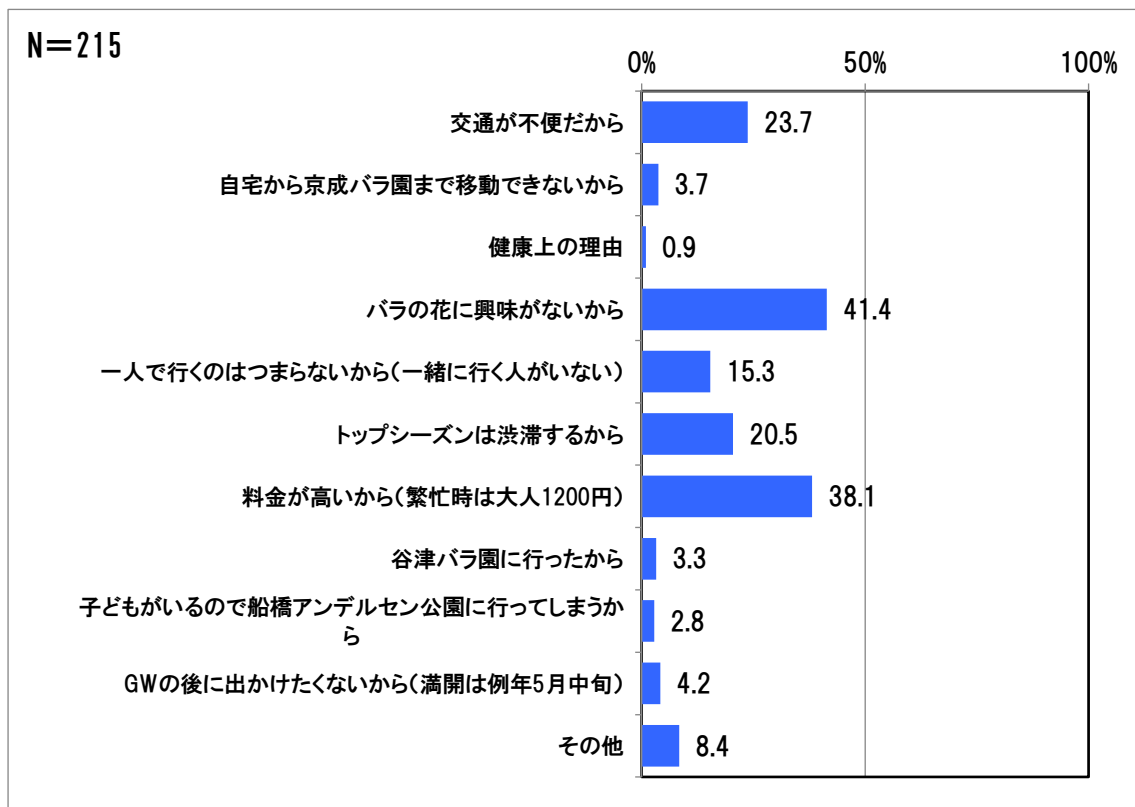
【Q14】過去 2 年以内に「京成バラ園」を訪れたことはありますか。当てはまるものをお選びください。(ひとつだけ)



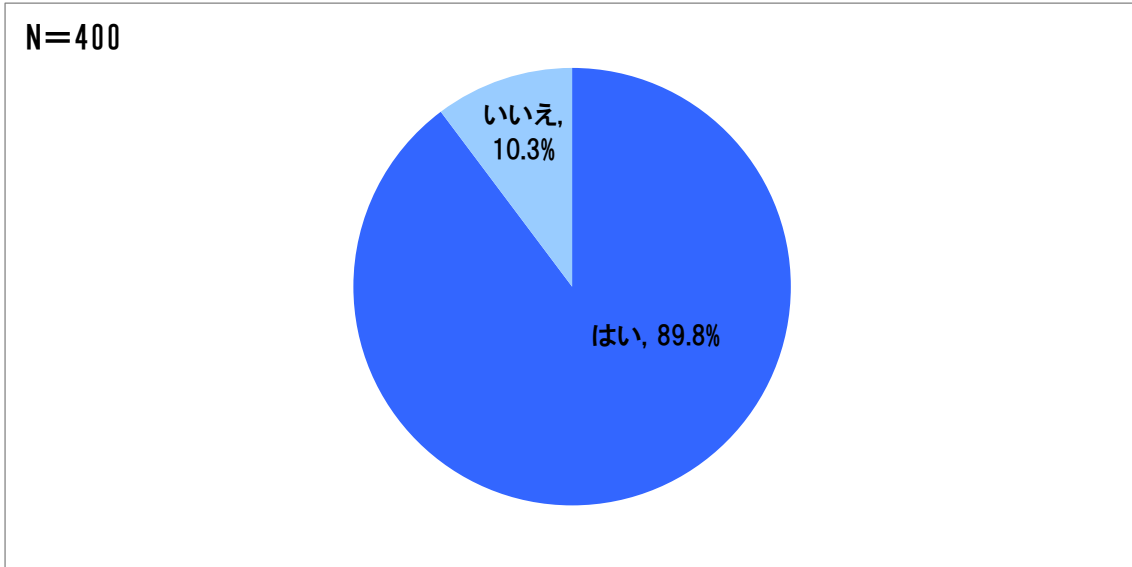
【Q15】「京成バラ園」を親族，知人，友人に勧めたいと思いますか。当てはまるものをお選びください。(ひとつだけ)



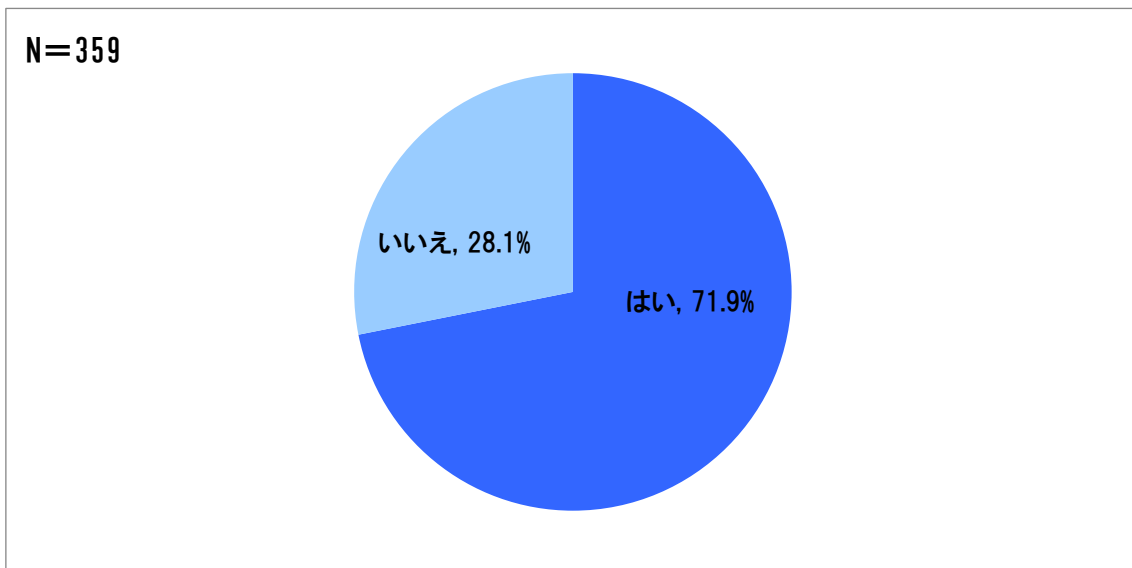
【Q16】「京成バラ園」を訪れない理由をお知らせください。(3 つまで)



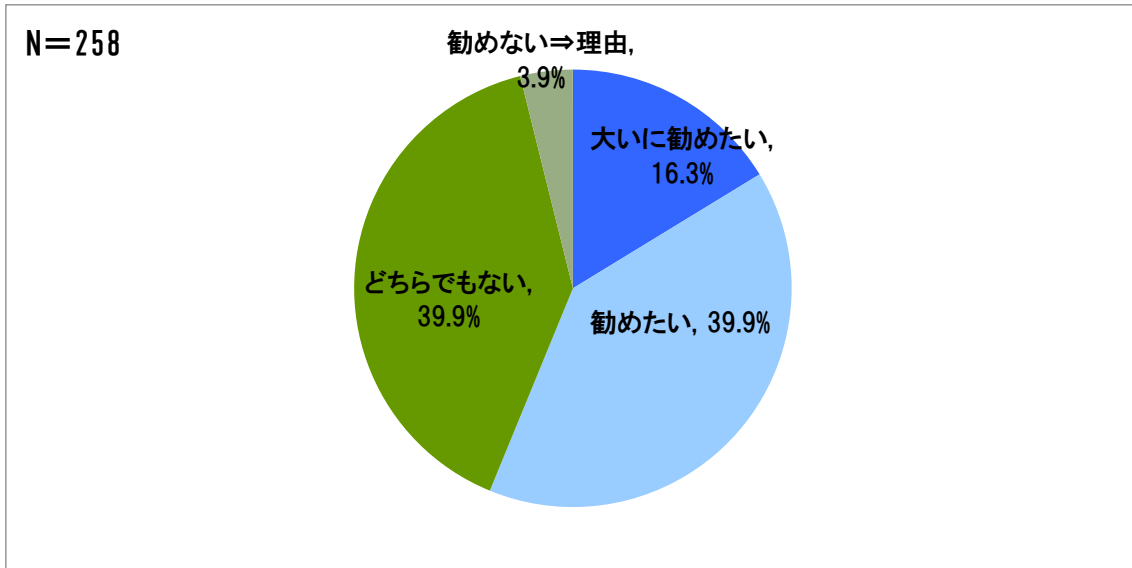
【Q17】八千代市内にある「道の駅やちよ」を知っていますか。当てはまるものをお選びください。
(ひとつだけ)



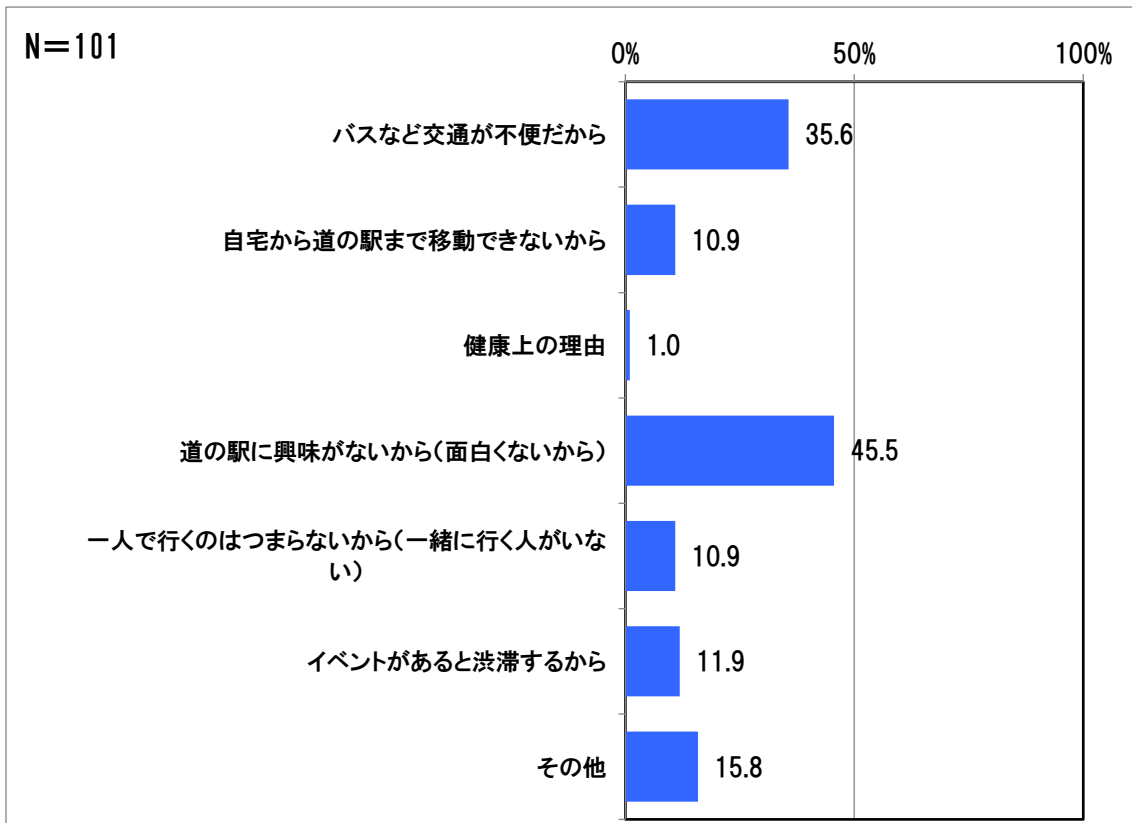
【Q18】過去2年以内に「道の駅やちよ」を訪れたことはありますか。当てはまるものをお選びください。
(ひとつだけ)



【Q19】「道の駅やちよ」を親族, 知人, 友人に勧めたいと思いますか。当てはまるものをお選びください。(ひとつだけ)



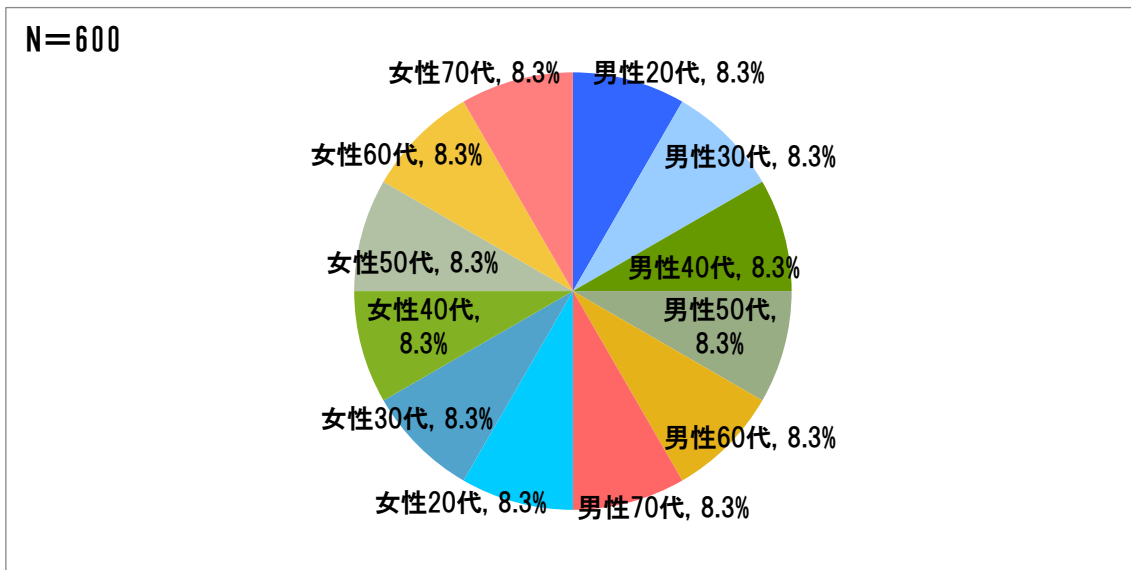
【Q20】「道の駅やちよ」を訪れない理由をお知らせください。(3 つまで)



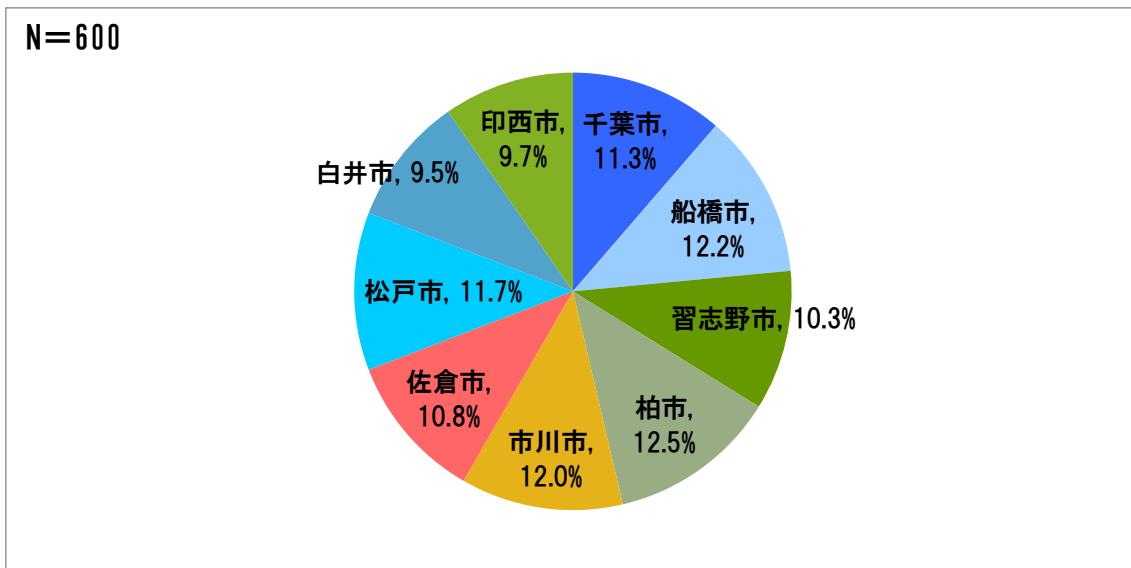
●八千代市近隣市民の八千代市への観光認知度調査

調査対象	近隣 9 都市(千葉市・市川市・船橋市・松戸市・佐倉市・習志野市・柏市・印西市・白井市)の 20～70 歳代の市民
有効回答数	600 名(男性 50%・女性 50%)
調査方法	インターネット調査
調査実施期間	令和 2(2020)年 9 月～10 月

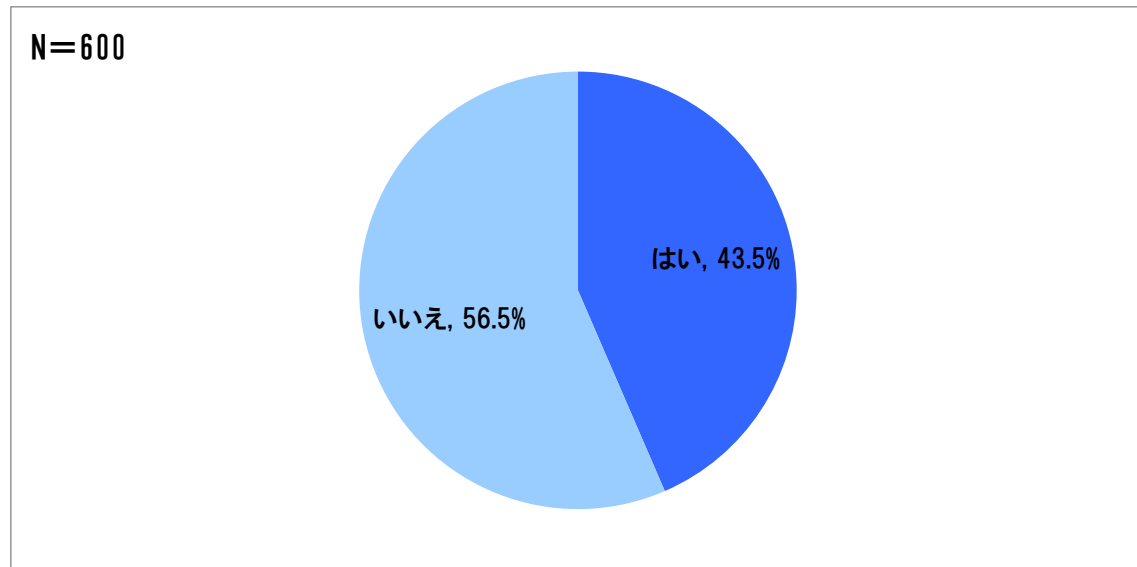
【性別・年代】



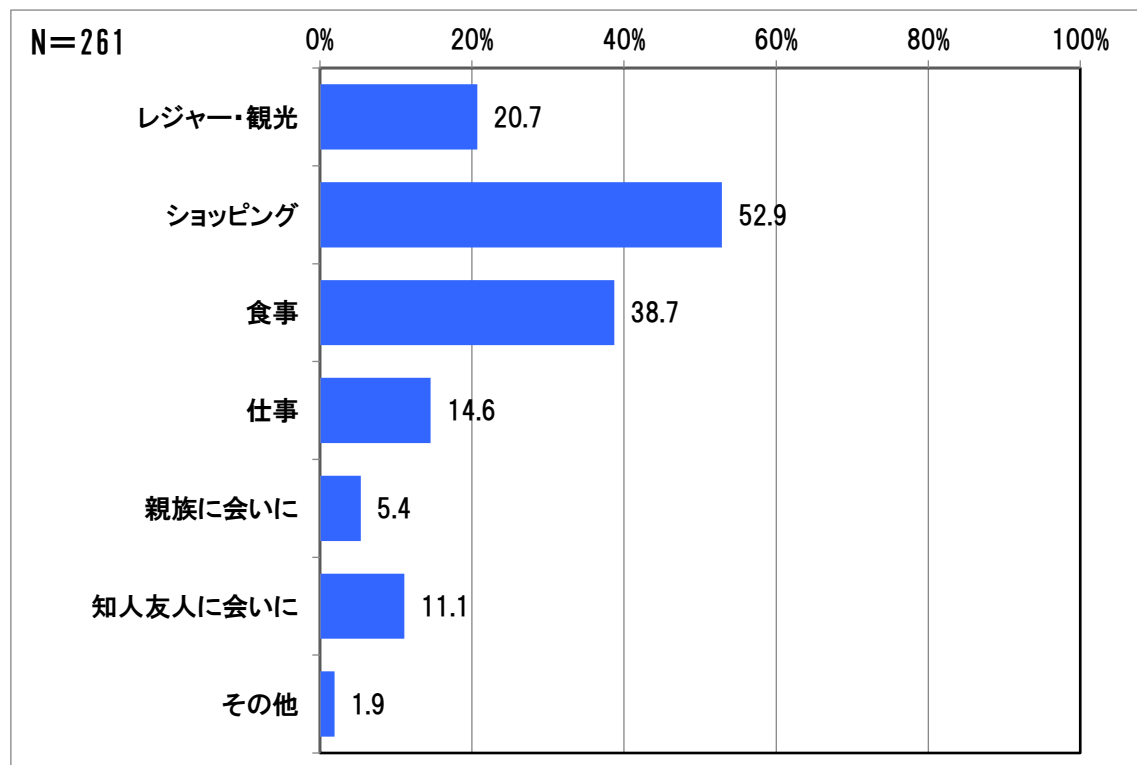
【あなたがお住まいの市町村をお知らせください。】



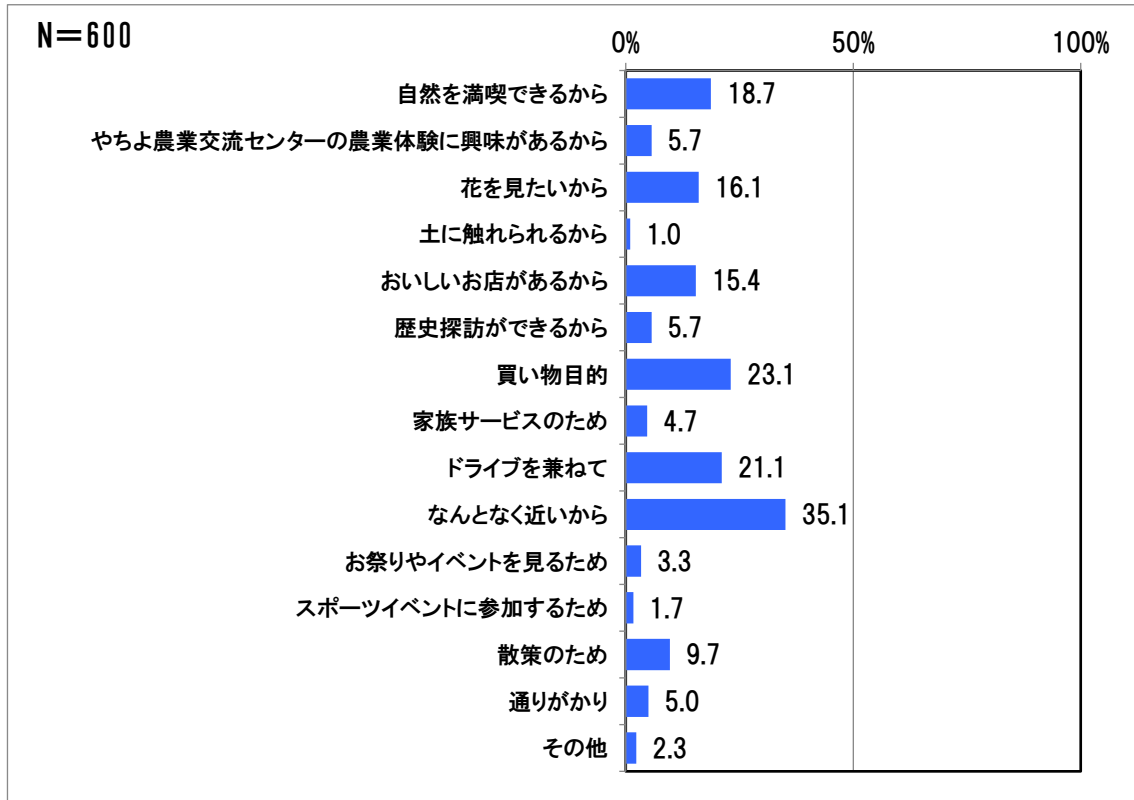
【Q1】過去 2 年以内に八千代市にレジャー・観光／ショッピング／食事／仕事などで訪れたことはありますか。当てはまるものをお選びください。(ひとつだけ)



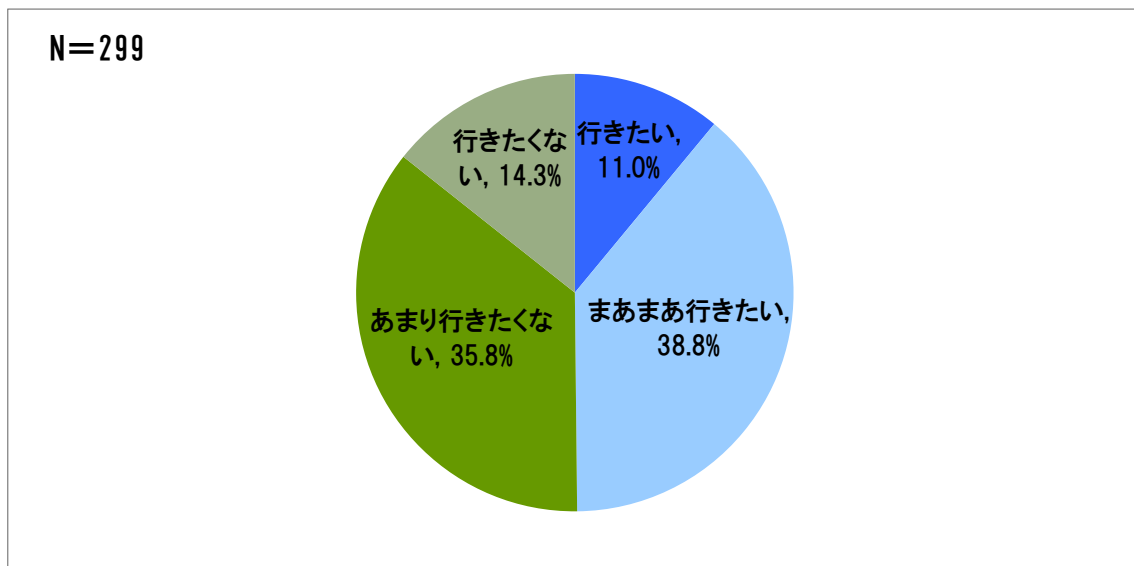
【Q2】八千代市に訪れた主な目的はお知らせください。(2 つまで)



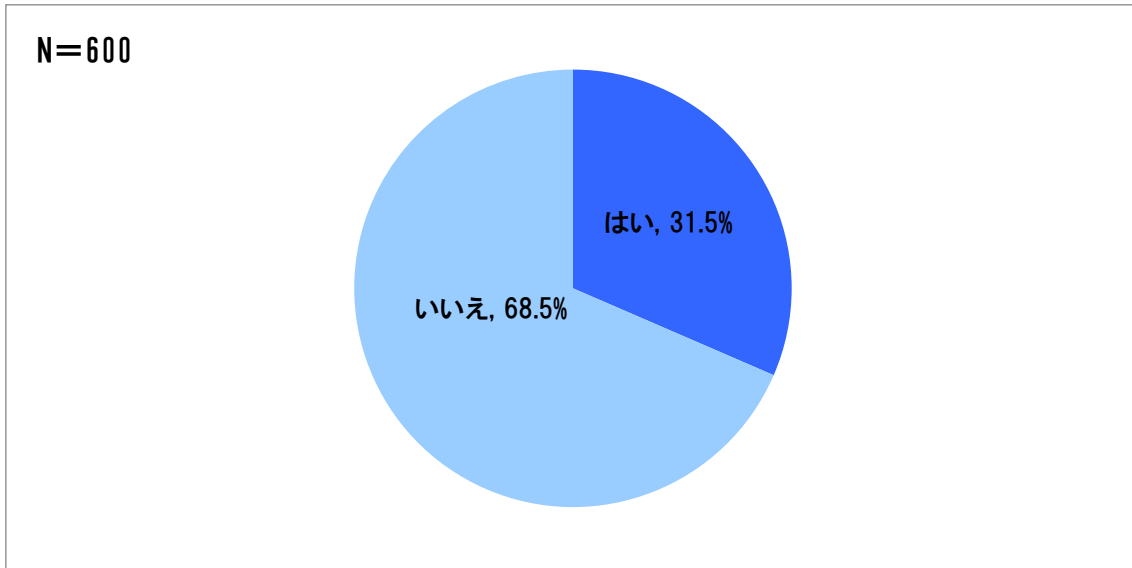
【Q3】今後、八千代市に観光目的で行きたいと思えますか。当てはまるものをお選びください。(ひとつだけ)



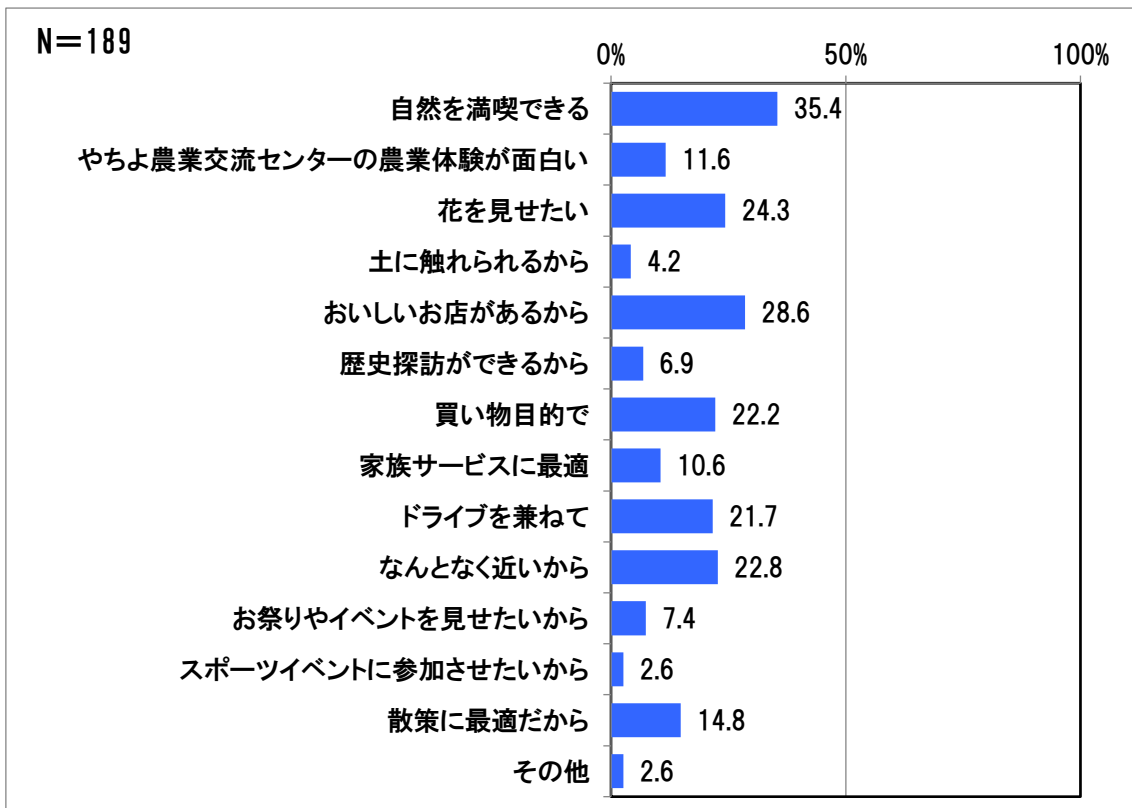
【Q4】八千代市に観光目的で行きたい理由をお知らせください。(2つまで)



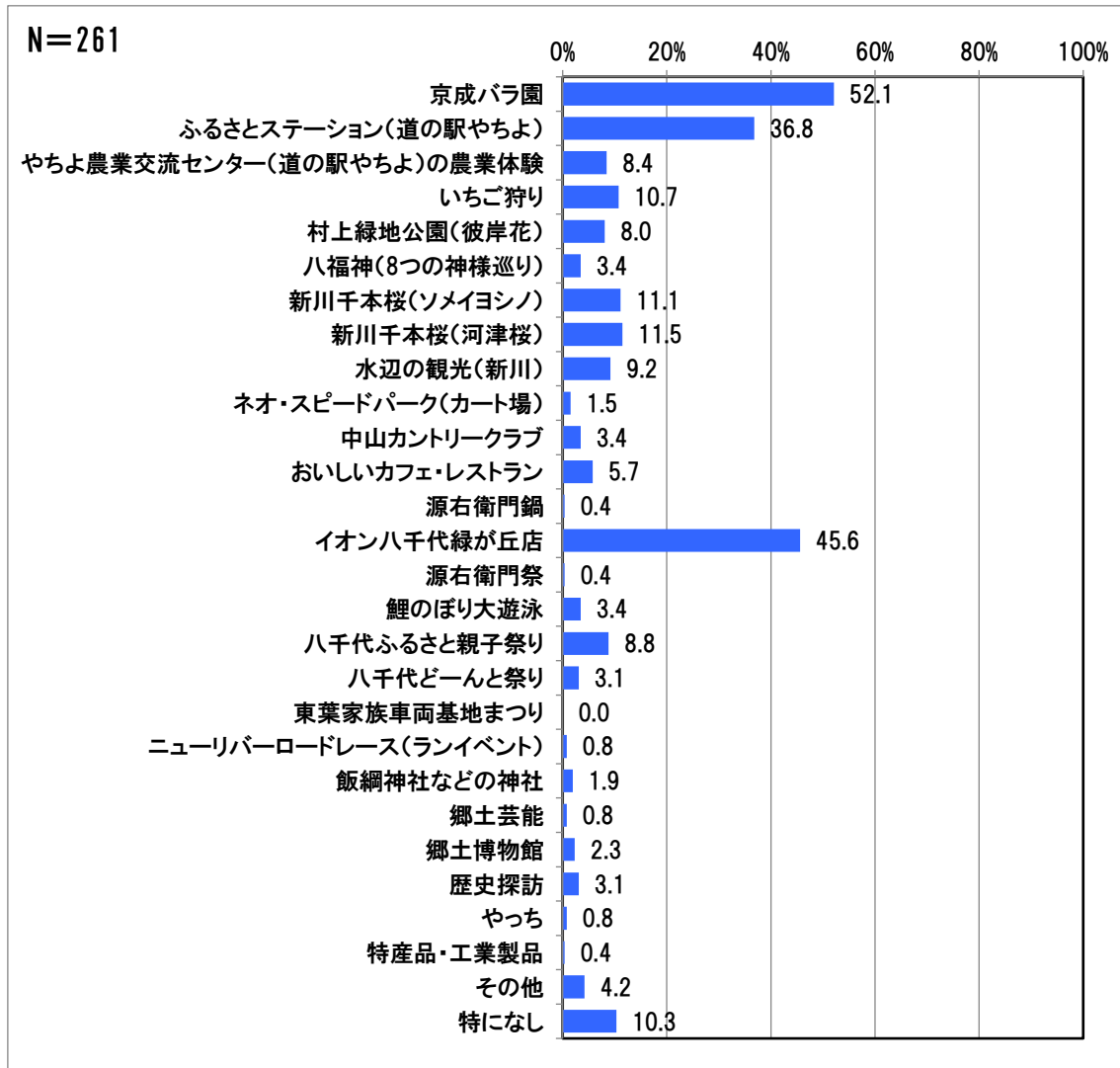
【Q5】八千代市への観光を親族，友達，知人に勧めたいと思いますか。当てはまるものをお選びください。（ひとつだけ）



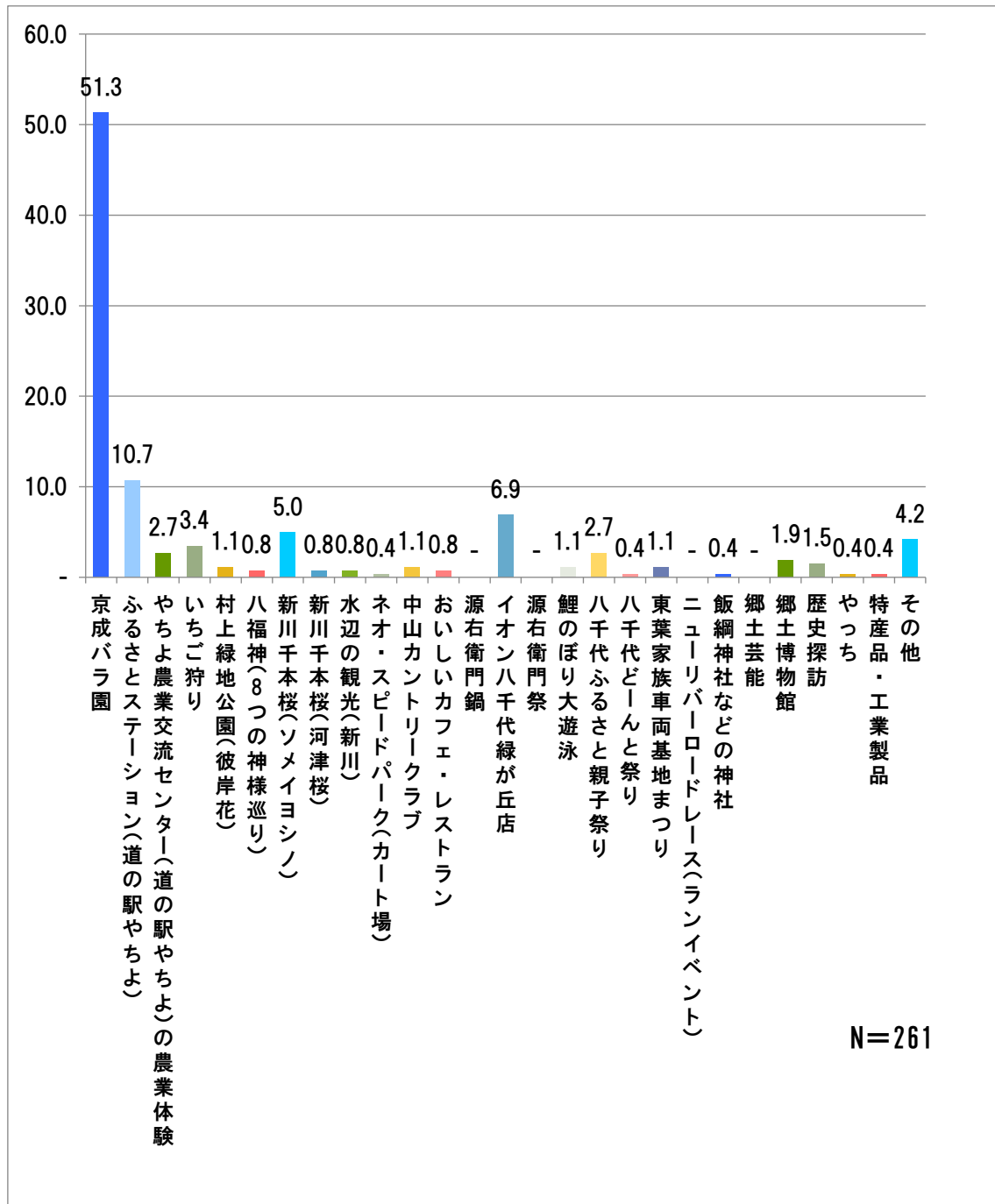
【Q6】八千代市への観光を親族，友達，知人に勧めたい理由をお知らせください。（いくつでも）



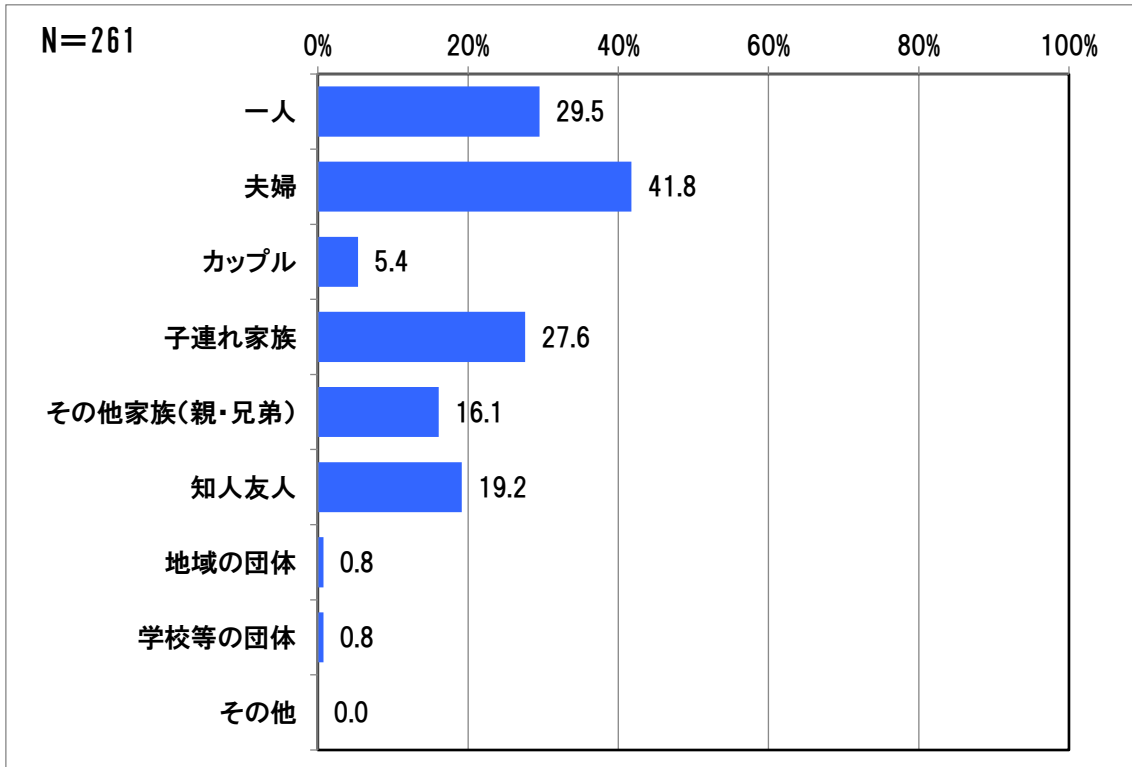
【Q7】あなたが訪れたことがある八千代市の観光スポットやイベントをすべてお選びください。(いくつでも)



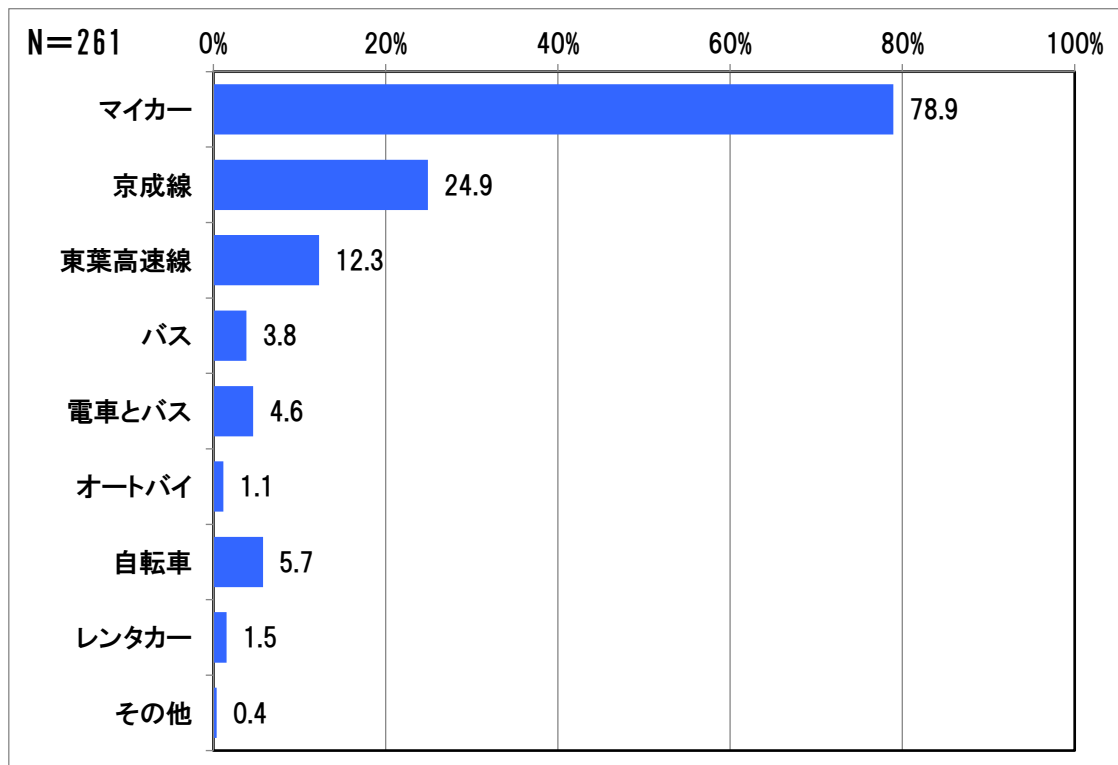
【Q8】現在、八千代市で一番魅力的な観光資源はどれだと思いますか。当てはまるものをお選びください。(ひとつだけ)



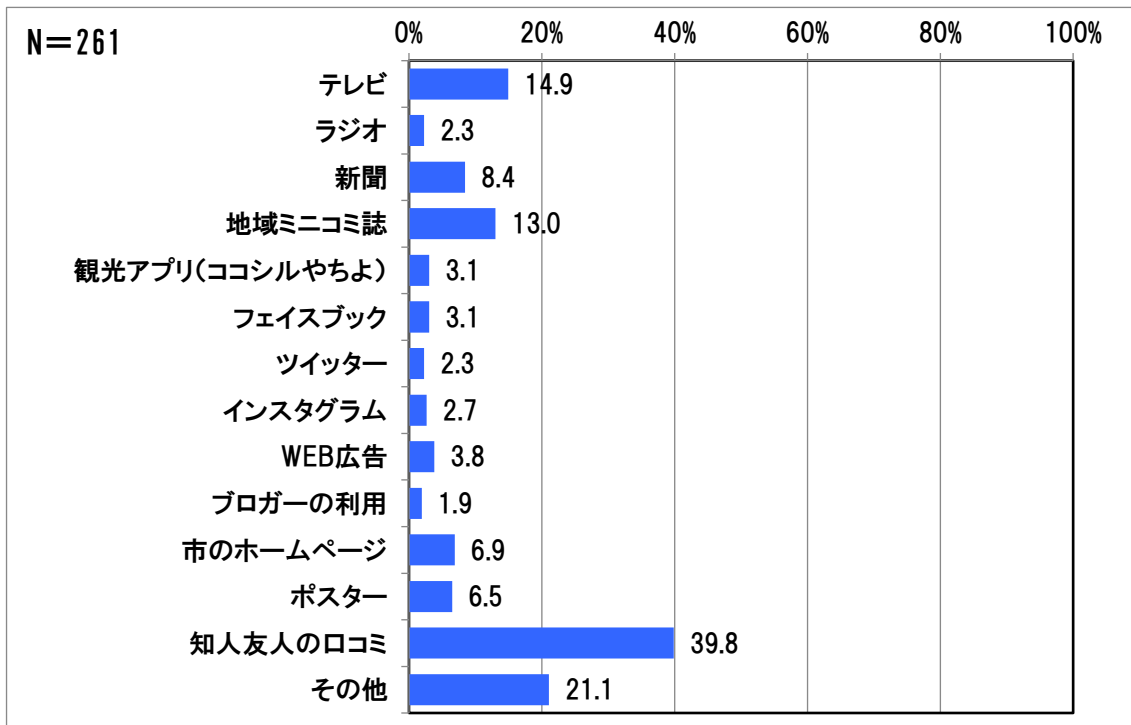
【Q9】八千代市にどなたと一緒に行了きましたか。当てはまるものをすべてお選びください。(いくつでも)



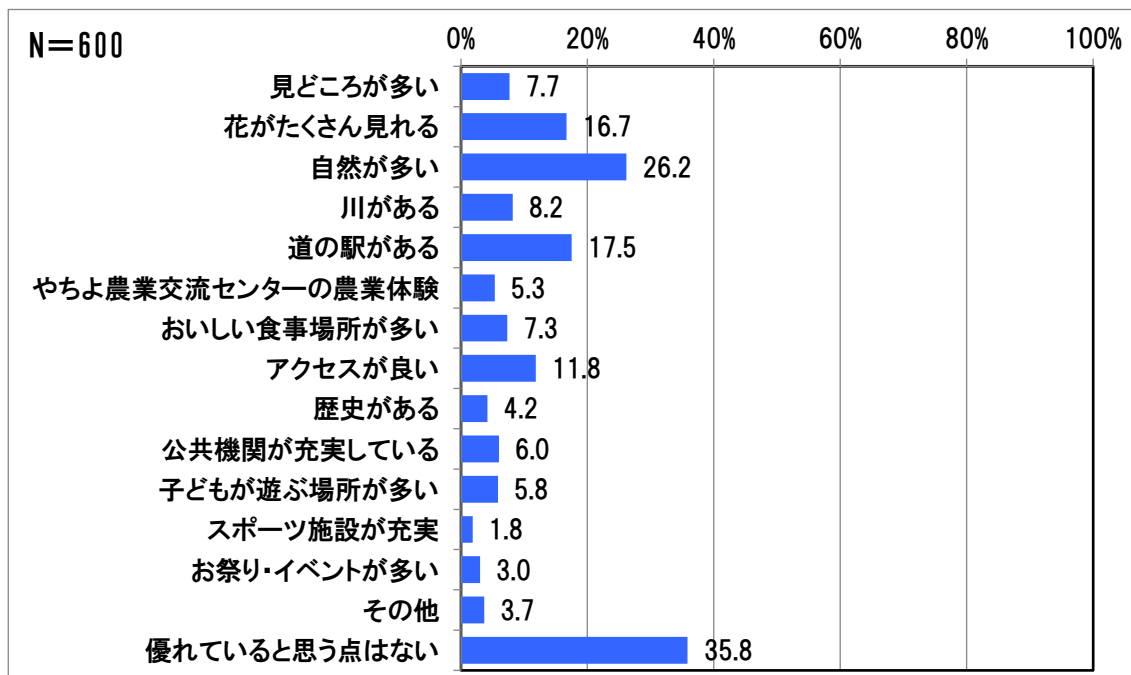
【Q10】八千代市までの交通手段をお知らせください。(いくつでも)



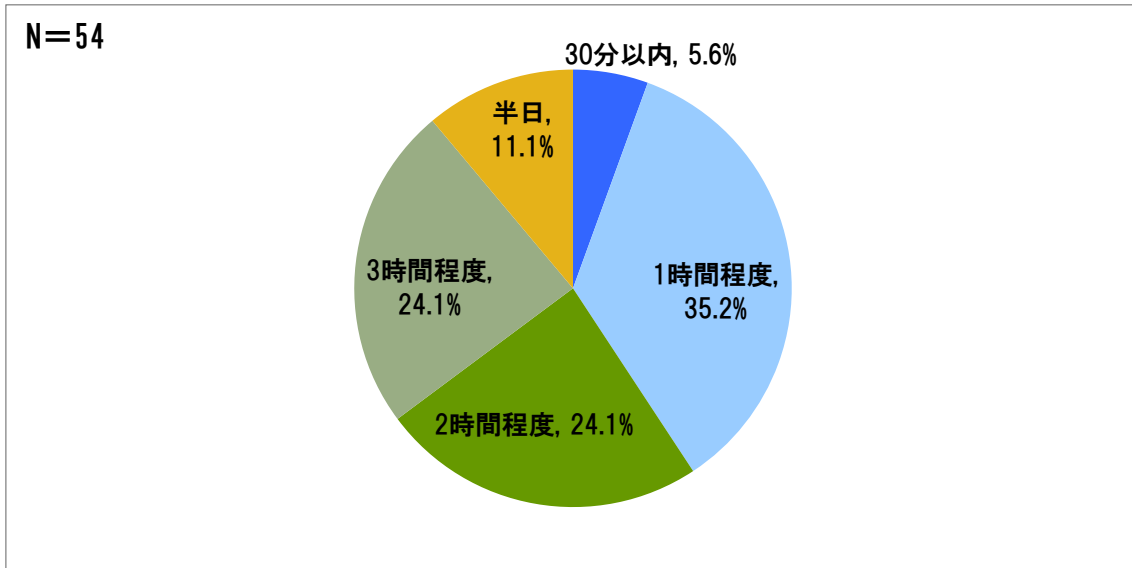
【Q11】八千代市に行くきっかけは何を見て決めましたか。当てはまるものをすべてお選びください。
(いくつでも)



【Q12】ご自身が住んでいる街よりも、八千代市が優れていると思われる点がありますか。当てはまるものをすべてお選びください。(いくつでも)



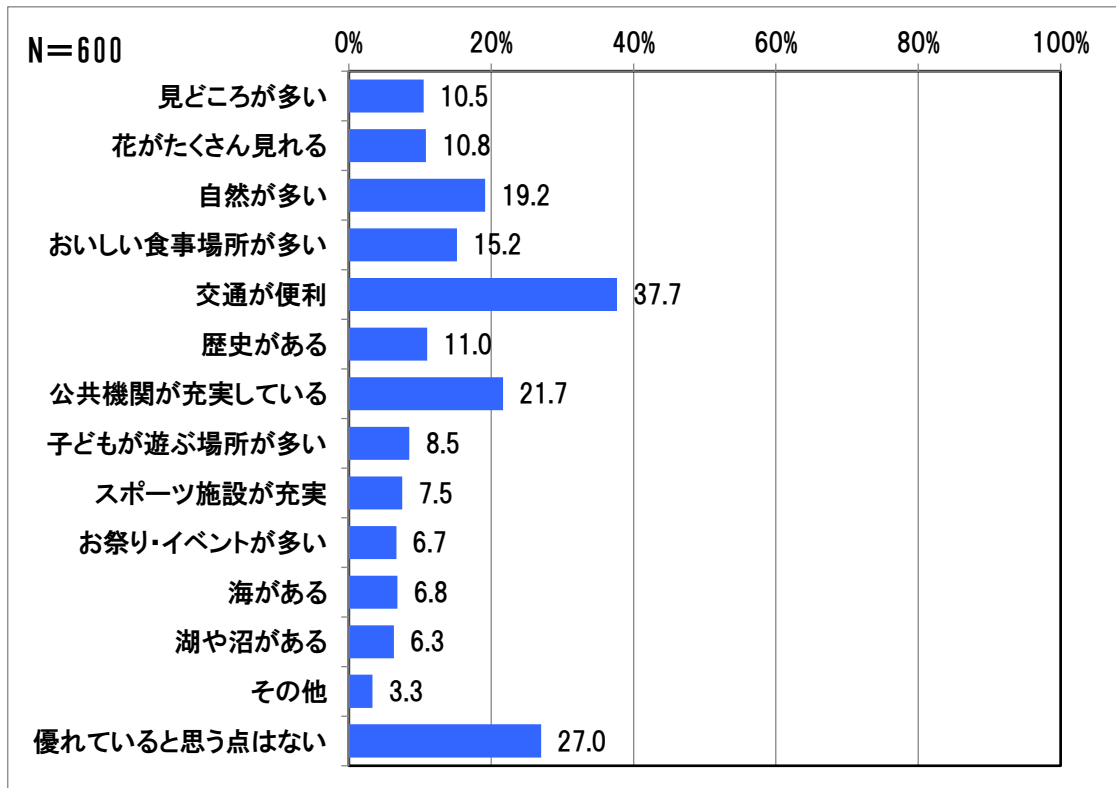
【Q13】八千代市での観光時間は大体どのくらいでしたか。最も長い時間の回についてお答えください。(ひとつだけ)



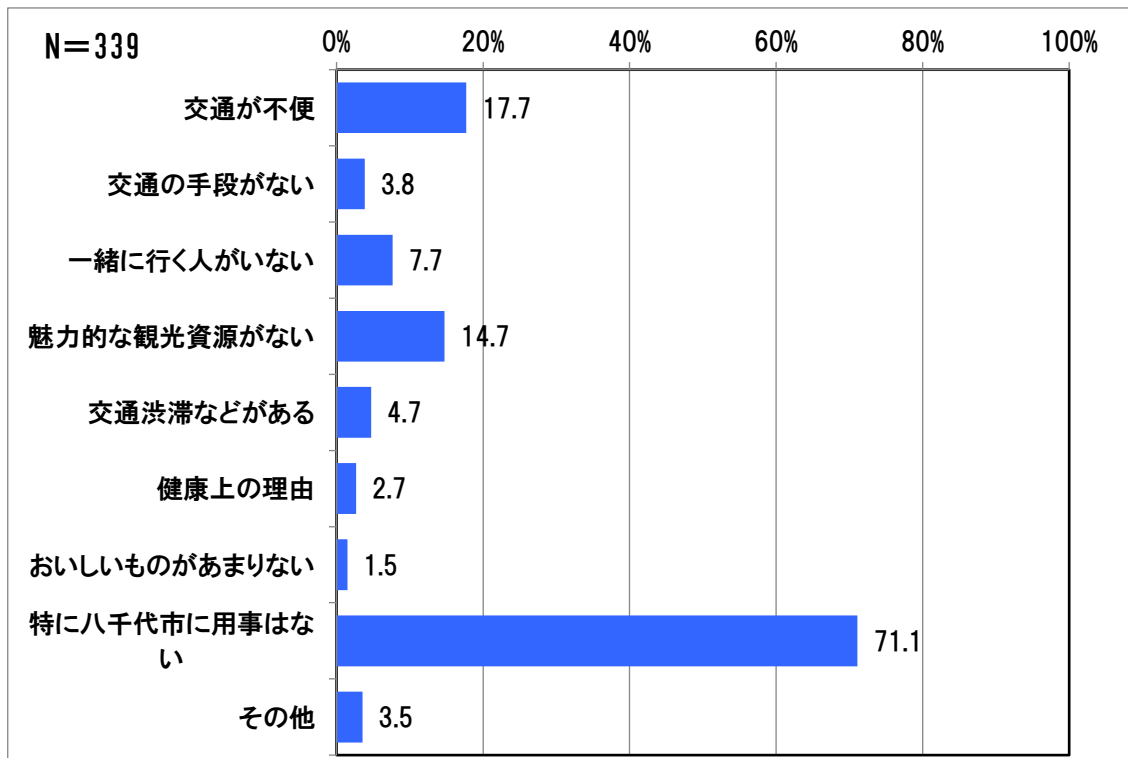
【Q14】八千代市での観光で、一日一人あたりおよそいくら使いましたか。半角数字でご記入ください。

	回答数	平均	最小値	最大値
飲食費	54	1957.41	0	7000
土産品購入費	54	1074.07	0	6000
入園料等	54	886.11	0	3000
その他の費用	54	1496.30	0	18000

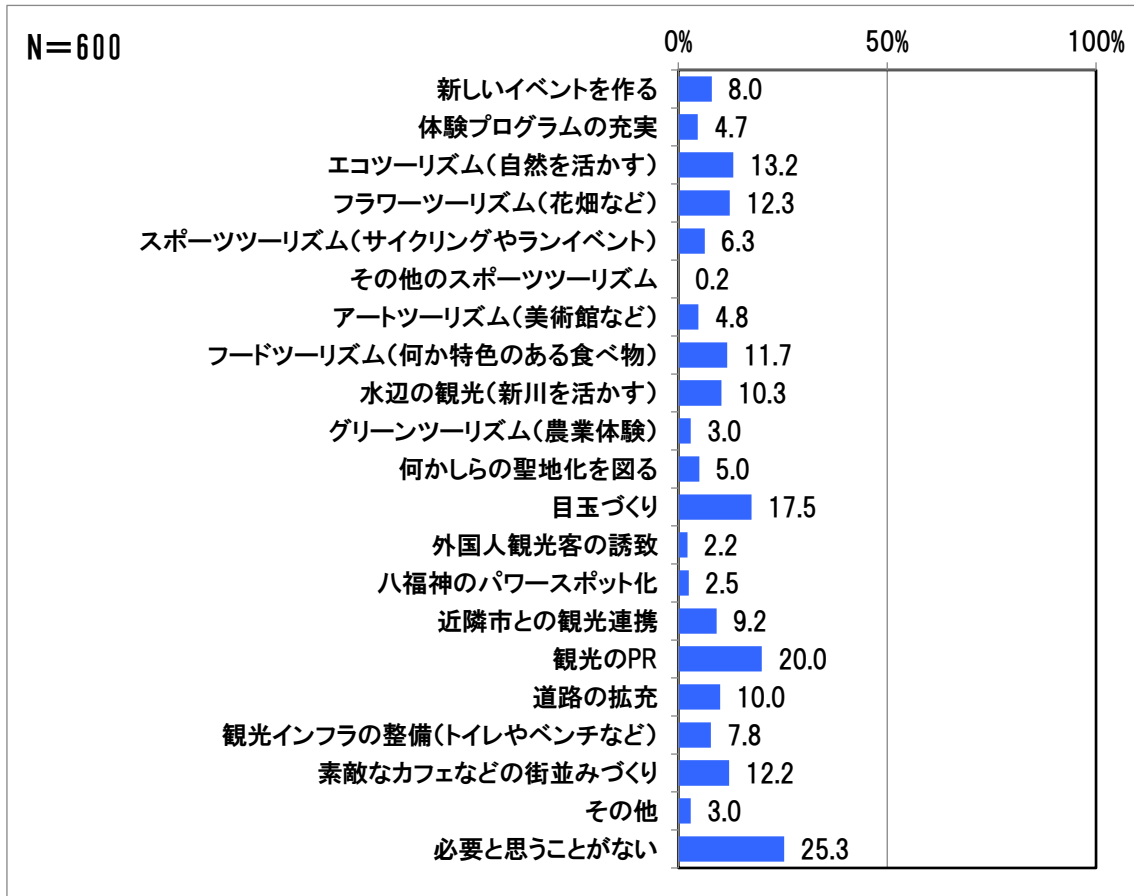
【Q15】八千代市よりも、ご自身が住んでいる街が優れていると思われる点がありますか。当てはまるものをすべてお選びください。(いくつでも)



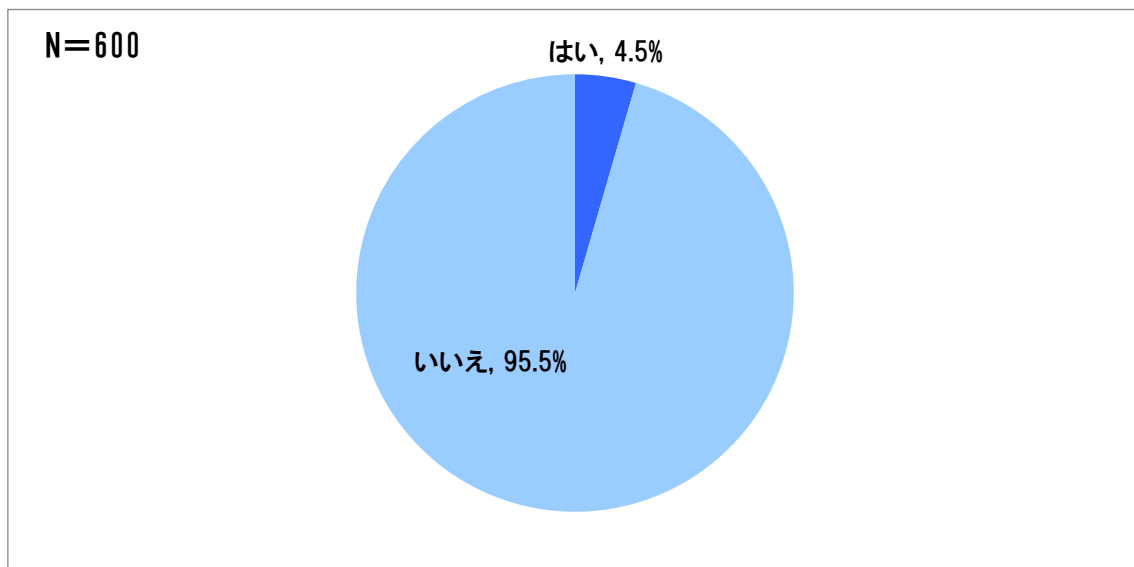
【Q16】八千代市に訪れたことのない理由をお知らせください。(2 つまで)



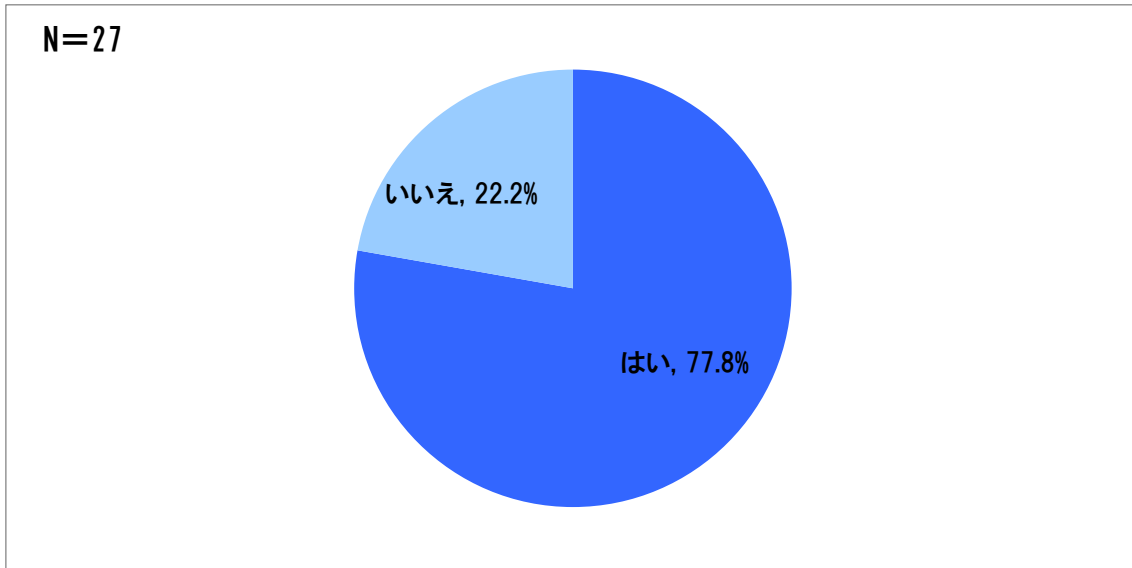
【Q17】今後、八千代市の観光を推進するにあたり必要と思われることはありますか。当てはまるものをお選びください。(3 つまで)



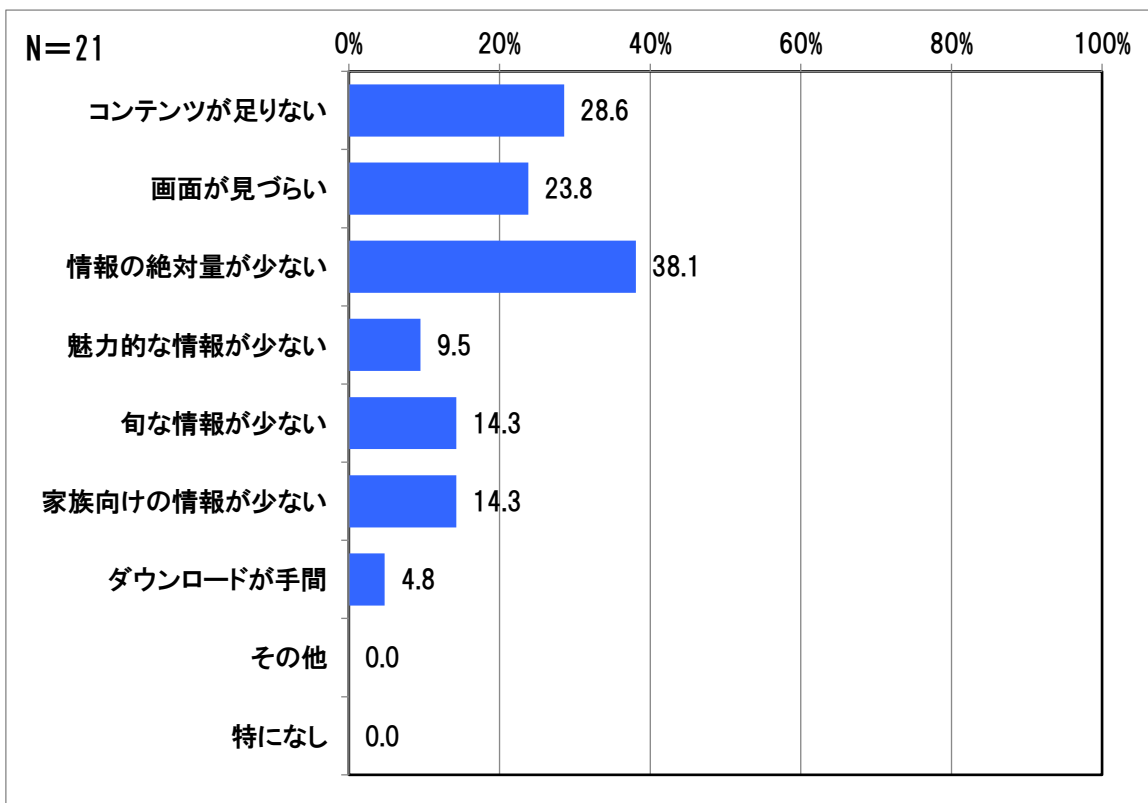
【Q18】八千代市観光アプリ「ココシルやちよ」を知っていますか。当てはまるものをお選びください。(ひとつだけ)



【Q19】八千代市の観光アプリ「ココシルやちよ」を利用したことはありますか。当てはまるものを選びください。(ひとつだけ)



【Q20】「ココシルやちよ」をご覧になって、改善した方がいいと思うことはありますか。当てはまるものをお選びください。(2 つまで)



●観光事業者調査

調査対象	観光に関連する 6 団体(JTB 千葉西支店・近畿日本ツーリスト首都圏千葉支店・京成トラベル勝田台営業所・かもめトラベル かもめ観光バス株式会社・協和観光株式会社・船橋市観光協会)
調査方法	アンケート調査
実施時期	令和 2(2020)年 9 月～10 月

【アンケート内容】

八千代市の観光全般について(指摘や課題), 力を入れるべき観光資源, 近隣自治体の観光資源との組み合わせ方について等

【アンケート結果】

・八千代市観光全般については, 主要観光資源の薄さから, 概ね厳しい評価であったが, 一方, バスツアーを実施している船橋市観光協会からは近隣自治体に比べ, 見どころは比較的多いと指摘もあった。「村上緑地公園の彼岸花」は複数の旅行会社が誘客素材としての評価をしており, 潜在的な魅力の指摘もあった。

・観光資源については「京成バラ園」と「道の駅やちよ」を評価していた。加えて「ネオ・スピードパーク」なども評価されている。

・都市型観光として, 近隣自治体との連携の必要性を指摘されていた。特に「アンデルセン公園」, 「佐倉の文化施設」, 「グリーンツーリズム関連」などとのコラボレーションを期待する声があった。

・今後のマーケットは, 女性層の掘り起こしが重要で, これは女性の発信力の高さをさしていると思われる。メディアやネットプロモーションの活用の強化もポイントとなるという指摘であった。

●組織団体調査

調査対象	八千代市内の観光に関連する 16 団体 (主に商工会議所などの経済団体・八千代市郷土博物館などの公共施設・主要ホテル・市民団体)
調査方法	アンケート調査
実施時期	令和 2(2020)年 9 月～10 月

【アンケート内容】

観光関連への取り組みの現状と課題, 利用者の傾向, 今後の展望や予定

【アンケート結果】

- ・様々なイベントを支えている「八千代商工会議所」の活動が観光に寄与している。今後も、観光を推進する重要なパートナーである。お土産としての、特産品やご当地グルメの発掘, 地元農産品を活用した商品の創出などにも尽力しており, 観光の目的に欠かせない経済効果と地域活性化に大きく貢献している。
- ・ホテルにおいては, ビジネス客が主要マーケットで, 観光市場の取り込みは薄い。しかしながら, 観光性のお客様が増加してくれば, おのずとそのマーケットを取り込むようになると推測される。
- ・公共施設においては, あくまで市民が楽しむためのレベル感であるが, 「八千代市郷土博物館」は圧倒的に市民が多いながらも, 企画内容によっては近隣の市からの来客も多く, 限定的ではあるが観光マーケットを誘発する可能性もあると思われる。
- ・市民団体においては, 「minamo」, 「街づくり市民の会」, 「八千代市郷土歴史研究会」などが精力的に活動しており, 今後も八千代市の観光に欠かせない存在である。

●モニターツアー調査

調査対象	32名(指定した地域の住民)
参加者所在地 内訳	八千代市内在住・近隣市在住・東京都内在住・30Km以上離れた遠方地域在住のファミリー・ご夫婦・グループなど
参加形態	コロナ禍の影響により、マイカーで視察
調査方法	アンケート調査
行程表概略	9:00 集合:京成バラ園(視察)～やちよ農業交流センター(視察・昼食)～貞福寺(視察)～観音寺(視察)解散 15:30
実施期日	令和2(2020)年10月17日(土)

【アンケート結果】

・「京成バラ園」の秋バラは 97%の参加者が良かった以上の評価だった。一方バラの見せ方の工夫、ベンチなどのインフラの整備、周遊ルートの仕掛け、車いすでの見学の仕方、更に子どもの遊び場の設置など、改善点への建設的な意見も多かった。

・昼食は、「薬膳カレー」、「スペアリブ」、「特製クラムチャウダー」だったが、全員から美味しかったという評価を得た。美味しさだけでなくメニュー構成や従業員の接客なども高評価であった。

・「さつまいも掘り体験」は雨天のために中止となったが、最も楽しみにしていたので残念だったという声が多数。普段できない土いじりや、さつまいもへの好奇心など十分に観光客を呼べる資源であることが判明した。

・「八千代八福神めぐり」の 2 寺は、大変良かったという評価であった。一方住職の法話がなければ満足度はかなり低くなるという指摘も一部あり、今後も課題の一つになると思われる。

資料3 ワークショップの開催

八千代市観光振興計画策定の一環として、八千代市民や八千代市職員、近隣市の視点から八千代市の観光の目指すべき方向性や施策のアイデアを検討する場としてワークショップを設置した。

八千代市の観光の現状や課題を共有し、計画の基本方針への意見や施策のアイデア、ビジョンやキャッチコピー等についてディスカッションし、計画の策定における重要な基礎資料として活用することを目的として行った。主な構成員は、商工会議所、市内観光施設従業員、市内でイベント等の活動を行う団体、八千代市や近隣市の観光協会、八千代市職員である。

●第1回ワークショップ

実施期日	令和3(2021)年5月20日(木)
参加人数	市職員10人, 外部団体10人
ワークショップ内容	5チームに分かれて以下を検討。 ① 八千代市の観光資源ベスト5を考える ② 八千代市の観光の強み, 弱みを考える

【ワークショップの概要】

①八千代市の観光資源ベスト5で票を集めたのは、1位から順に、「京成バラ園」、「新川千本桜」、「河津桜」、「ニューリバーロードレース」、「新川」、「八千代ふるさと親子祭」であった。この内容は各種調査ともほぼ一致しており、やはり、「京成バラ園」と新川を中心とした観光資源の評価が高いことが判明した。

②八千代市の観光の強みに「交通インフラの充実」、「自然と都会のバランス」、「新川や季節ごとの花など自然が多い」という指摘が多かった。全体として都市型観光の要素を網羅している意見が多かった。

一方、八千代市の観光の弱みとしては、「市民の観光への意識の低さ」、「PR不足」、「観光資源の乏しさ」などを挙げているチームが多かった。他自治体との連携の必要性を訴えるチームもあり、本質的な改善点について指摘があった。

●第2回ワークショップ

実施期日	令和3(2021)年7月1日(木)
参加人数	市職員9人, 外部団体12人
ワークショップ内容	5チームに分かれて以下を検討。 ① 八千代市観光ビジョンの作成 ② 八千代市観光キャッチコピーの作成

【ワークショップの概要】

①「八千代市観光ビジョン」を作成する作業

5チームに分かれてビジョン作成の作業を進め、その後各チームで発表。

ビジョンの内容は、(1)八千代市の豊富な自然を活かす、(2)市民誰もが観光大使になる、(3)持続可能な観光振興で市に愛着を醸成する、など鋭い着眼点が認められた。

②八千代市観光の「キャッチコピー」を作成する作業

同じチームで作成の作業を進め、その後発表。都心からの利便性、市の花「バラ」、新川千本桜、農業体験などのワードを入れ込むコピーや、リフレッシュできる街をアピールしたいという提案もあった。作成のポイントは、基本方針と寄り添う内容、観光客の得心感、平易な表現の3つのポイントが重要だという総括があった。

●第3回ワークショップ

実施期日	令和3(2021)年9月1日に開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により書面開催とした。
参加人数	市職員9人, 外部団体9人
ワークショップ内容	参加者に6つの基本方針の事業展開例についてのアイデアを募集した。

・基本方針1に関する提案

全体的にPRへの加重の指摘が多数。「京成バラ園」についてはイベント開催の強化としての「世界バラ会議の開催」あるいは「バラの街としての新たなブランディングの推進」事業などである。「道の駅やちよ」については、「体験プログラムの活性化」、「国交省の防災強化指定の事業での施設の活性化」などを願う提案が多く出た。

・基本方針2に関する提案

まず指摘があったのは、観光の取り組みの「可視化」である。またプロモーションとしてはSNSを核に据えるべきという意見が出された。具体的な事業例としては、「観光動画の作成」、「ブロガーの登用」や女性をターゲットにした「スイーツや食を商材にしたアプローチ」などである。「八千代市の観光施設での近隣の市民優待 DAY の設置案」、「八千代市再訪クーポン」などもリピーター化への道筋をつけるものであった。

・基本方針3に関する提案

新たな観光資源発掘の手法として、「フォトコンテストの継続実施」、「街中ファクトリー」、「工業団地見学ツアー事業」など多彩な事業例も見られた。また、新たに光を当てるものとして「新川の川面に映る夜桜」や「村上緑地公園の彼岸花」なども今後重要な観光資源といえる。

・基本方針4に関する提案

「グリーンツーリズム」や「自然体験型観光」、「アクティビティ」の強化などに具体的な多くの意見をいただいた。事業例としては、「道の駅体験プロジェクト拡大会議の開催」、「梨の摘果体験」、「観光船の活用」などである。あわせて「新川を中心とした自然環境保全プログラム」はSDGsへの取り組みの提案であった。

・基本方針5に関する提案

事業例として、近隣自治体の観光資源も活用した「日帰りモデルプラン」の旅行会社への提案や、親和性のある観光資源を軸にした「観光地域連携プロジェクト」事業、「新川沿いの自治体との共同事業」などの提案があった。

・基本方針 6 に関する提案

市民の観光に対するシビックプライド醸成のために市民を観光に巻き込むアイデアが多数あった。事業例としては、「観光マイスター制度」、「観光PR人コンテスト」、「観光の100人会議の開催」などである。観光協会と協力した提案としては、ココシルやちよの更新頻度を高める事業の委託が挙げられる。未来への観光を担う子どもたちの取り組みアイデアとして「小学生八千代観光マップ作製」、「小学生観光大使」、「小学校でバラを育てる取り組み」などがあった。

資料4 八千代市観光振興基本方針

令和3年11月19日策定

1 方針策定の趣旨

八千代市第5次基本構想に基づき、本市の恵まれた自然や歴史、特産品、イベントのほか、市のシンボルであるツツジやバラ、市民参加によって形作られた新川千本桜といった地域の観光資源の魅力を様々な機会を通じて市内外へ発信しながら、積極的で効果的なシティセールスを展開し、本市の認知度やイメージの向上、本市に対する誇りや愛着の醸成に努めることで、交流人口や定住人口の増加を図り、人口減少の抑制に向けた施策を推進し、魅力あるまちづくりを進めるために、八千代市観光振興基本方針を策定します。

2 基本方針の柱

- (1) 主要観光資源の交流人口の創出
- (2) 観光資源の魅力発信の充実とブランド化
- (3) 新たな観光資源の発掘
- (4) 自然環境を活用した観光の推進
- (5) 近隣自治体との地域間連携
- (6) 観光によるシビックプライドの醸成

3 方針実現への施策と計画

八千代市第5次総合計画に準じ計画期間を設定し、必要に応じて期間内に見直しを行い、実効性を高めます。

資料 5 八千代市における観光振興に関する連携協定書

八千代市(以下「市」という。), 京成バラ園芸株式会社(以下「京成バラ園」という。)及び秀明大学観光ビジネス学部(以下「秀明大学」という。)は, 市の観光振興を図るため, 次のとおり協定を締結する。

(目的)

第 1 条 この協定は, 市, 京成バラ園及び秀明大学(以下「三者」という。)が観光分野で連携・協力し, 相互の人的・物的資源の活用により, 市の観光振興と人材育成に寄与することを目的とする。

(連携・協力する事項)

第 2 条 三者は, 前条の目的を達成するため, 次の各号に掲げる事項について, 連携・協力するものとする。

- (1) 市の観光振興全般に関すること。
- (2) 市の観光振興に資する商品開発に関すること。
- (3) 市の観光振興に関する情報収集及び発信。
- (4) 市の観光振興に役立つ人材育成に関すること。
- (5) 市の観光振興に関する学術研究やフィールドワークに関すること。
- (6) 市の観光振興に関する計画策定等に関すること。
- (7) 市の観光振興に関する事業者との勉強会等の実施。
- (8) その他三者が必要と認める連携・協力に関すること。

(実施の方法)

第 3 条 連携・協力の具体的な内容及び成果の利用条件等については, その都度協議するものとする。

- 2 連携・協力するにあたり, 施設設備の利用等については, 互いに便宜を図るものとする。
- 3 連携・協力に関する経費の負担については, 個別の事項ごとに三者間で協議して定めるものとする。

(有効期間)

第 4 条 この協定の有効期間は, 協定締結の日から令和 3 年 3 月 31 日までとする。ただし, この協定の有効期間満了の日の 1 か月前までに, 三者のいずれからも何らかの申出がないときは, 更に 1 年間更新するものとし, その後も同様とする。

(その他)

第 5 条 この協定に定めのない事項又はこの協定について疑義を生じたときは、三者が協議の上、決定するものとする。

この協定の締結を証するため、本協定書を 3 通作成し、各自 1 通を保有する。

令和 2 年 4 月 2 日

資料6 八千代市産業振興基本条例

平成20年6月26日

条例第16号

(目的)

第1条 この条例は、産業の発展が地域の活性化及び市民生活の向上に寄与するものであることにかんがみ、産業の振興に関する基本的な事項を定めることにより、産業の健全な発展を促進することを目的とする。

(定義)

第2条 この条例において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

- (1) 事業者 市内で経済活動を行うものをいう。
- (2) 産業経済団体 商工会議所、農業協同組合、商店会、工業団体その他の市内における産業の発展に寄与する団体をいう。

(基本方針)

第3条 産業の振興は、経済的社会的環境の変化に対応した経営の向上及び改善に向けた事業者の自助努力を基に、市、事業者、産業経済団体及び市民が協力して推進することを基本方針とする。

2 産業の振興は、前項に規定するもののほか、商業、工業、農業及び観光については、次に掲げる方針に基づき推進するものとする。

- (1) 商業については、少子高齢化社会における市民の消費生活を支えるとともに、店舗の規模、営業形態等の違いによらず共存共栄による活性化を図る。
- (2) 工業については、良好な操業環境及び就労環境の確保に努めるとともに、産官学民の連携、新規事業の創出、技術の革新、生産性の向上等による振興を図る。
- (3) 農業については、優良農地の確保、経営の安定化、安全かつ良質な農産物の供給及び環境にやさしい農業に努めるとともに、都市型農業の振興を図る。
- (4) 観光については、観光資源の創出、観光情報の収集及び発信並びに体験型観光の拡充に努めるとともに、交流人口の増加を図る。

(市の責務)

第4条 市は、第1条の目的を達成するため必要な産業の振興に関する施策を推進し、その施策の実施に当たっては、国及び千葉県その他の地方公共団体との連携並びに事業者、産業経済団体、大学等の研究機関及び市民との協働に努めるものとする。

(事業者の役割)

- 第5条 事業者は、周辺の生活環境との調和並びに市民生活の安定及び安全確保に十分配慮するとともに、自らの事業の発展に努めるものとする。
- 2 事業者は、産業の振興に中心的役割を果たす商工会議所、農業協同組合、商店会、工業団体等に積極的に加入するよう努めるとともに、市及び産業経済団体が行う産業の振興に関する事業の推進に協力するよう努めるものとする。

(産業経済団体の役割)

- 第6条 産業経済団体は、事業者の事業活動を支援するとともに、市が行う産業の振興に関する施策の推進に協力するよう努めるものとする。
- 2 産業経済団体は、自らの活動を通じて地域社会に貢献するよう努めるものとする。

(市民の役割)

- 第7条 市民は、産業の発展が地域社会を活性化し、市民生活の向上につながることを認識し、産業の発展に協力するよう努めるものとする。

(産業振興審議会)

- 第8条 産業の振興を推進するため、八千代市産業振興審議会(以下「審議会」という。)を置く。
- 2 審議会は、市長の諮問に応じ、産業の振興に関する事項を調査審議する。
- 3 審議会は、市長が委嘱する委員10人以内をもって組織する。
- 4 委員の任期は、2年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 5 委員は、再任されることができる。
- 6 前各項に定めるもののほか、審議会の組織及び運営に関し必要な事項は、規則で定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この条例は、平成20年11月1日から施行する。
(八千代市特別職の職員の給与、旅費及び費用弁償に関する条例の一部改正)
- 2 八千代市特別職の職員の給与、旅費及び費用弁償に関する条例(昭和49年八千代市条例第1号)の一部を次のように改正する。
[次のよう]略

資料7 八千代市産業振興審議会規則

平成20年6月26日

規則第28号

(趣旨)

第1条 この規則は、八千代市産業振興基本条例(平成20年八千代市条例第16号)第8条第6項の規定により、八千代市産業振興審議会(以下「審議会」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(委員)

第2条 審議会の委員(以下「委員」という。)は、次に掲げる者のうちから、市長が委嘱する。

- (1) 商工業に係る団体の代表者 4人以内
- (2) 農業に係る団体の代表者 3人以内
- (3) 観光に関する学識経験を有する者 1人以内
- (4) 市民 2人以内

(会長及び副会長)

第3条 審議会に会長及び副会長を置き、委員の互選により定める。

- 2 会長は、会務を総理し、審議会を代表する。
- 3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第4条 審議会の会議(以下「会議」という。)は、会長が招集し、その議長となる。

- 2 会議は、委員の半数以上の出席がなければ開くことができない。
- 3 会議の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(庶務)

第5条 審議会の庶務は、産業振興担当課において処理する。

(委任)

第6条 この規則に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、会長が定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この規則は、平成20年11月1日から施行する。

(会議の招集の特例)

- 2 この規則の施行後最初に招集される会議及び第3条第1項の規定により互選される前に招集される会議は、第4条第1項の規定にかかわらず、市長が招集する。

資料8 八千代市観光振興懇談会設置要領

(設置)

第1条 本市における観光の振興に資するため、八千代市観光振興懇談会(以下「懇談会」という。)を設置する。

(所掌事務)

第2条 懇談会は、次に掲げる事項について意見交換するものとする。

- (1) 観光資源の発掘に関すること。
- (2) 本市の観光の基本的方針に関すること。
- (3) 本市の観光事業の実施及び検証に関すること。
- (4) その他本市の観光に関し必要な事項

(組織)

第3条 懇談会は、11人以内の委員をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから、市長が委嘱する。

- (1) 商工業団体に所属する者 2人以内
- (2) 農業団体に所属する者 2人以内
- (3) 観光関係事業者 3人以内
- (4) 学識経験を有する者 2人以内
- (5) 市民 2人以内

(委員の任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、前任者が欠けた場合における後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長)

第5条 懇談会に会長及び副会長を置き、委員の互選により定める。

2 会長は、懇談会を代表し、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 懇談会の会議は、会長が必要に応じて招集し、会長が議長となる。

- 2 前項の規定にかかわらず、最初に開かれる懇談会は、市長が招集する。
- 3 懇談会の会議は、委員の過半数の出席がなければ開くことができない。
- 4 会議の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(庶務)

第7条 懇談会の庶務は、観光推進担当課において処理する。

(委任)

第8条 この要領に定めるもののほか、懇談会の運営に関し必要な事項は、会長が懇談会に諮って別に定める。

附 則

この要領は、平成25年6月10日から施行する。

附 則

この改正は、令和元年7月11日から施行する。

資料9

商 第 1378 号
令和4年2月8日

八千代市産業振興審議会
会長 飯 田 明 彦 様

八千代市長 服 部 友 則

八千代市観光振興計画(案)について(諮問)

八千代市観光振興計画を策定するにあたり、八千代市産業振興基本条例第8条第2項の規定に基づき、別添の八千代市観光振興計画(案)について、貴審議会の意見を求めます。

資料10

八産第 30 号

令和4年 3月22日

八千代市長 服部友則様

八千代市産業振興審議会

会長 飯田明彦

八千代市観光振興計画(案)について(答申)

令和4年2月8日付け商第1378号をもって諮問のありました、八千代市観光振興計画(案)につきまして、当審議会において慎重に審議をした結果、下記のとおり答申します。

記

本計画案は、八千代市の観光の現状と課題を的確に踏まえた上で、観光振興の基本方針と、その実現に向けた施策及び取組みが体系的に示されており、概ね適切なものと認めます。

なお、計画の推進にあたっては、次の意見に留意するようお願いします。

- 1 産業連携ビジョンとの整合を図りながら計画を推進すること。
- 2 公共交通機関を含め民間事業者等と連携・協力し、積極的なPRに努めること。
- 3 農業、商業、工業、観光及び市民の連携により、既存産業の高付加価値化に努め、観光振興を推進すること。
- 4 新たな観光資源として文化・芸術の活用も検討すること。
- 5 市民参加によるシビックプライドの醸成、市民の観光への意識向上を目指した観光振興に努めること。
- 6 観光を取り巻く環境は年々変化しており、状況の把握に努め、必要に応じ随時計画及び内容の見直しを図り実効性を高めること。

資料11 八千代市観光振興計画策定経過

日付	内容
令和元年 11 月 ～令和 3 年 3 月	観光資源調査
令和元年 12 月 20 日	令和元年度第 1 回八千代市観光振興懇談会 開催
令和 2 年 8 月 7 日	令和 2 年度第 1 回八千代市観光振興懇談会 開催
令和 2 年 9 月～10 月	八千代市民の観光意識調査・八千代市近隣市民の八千代市への観光認知度調査・観光事業者調査・組織団体調査
令和 2 年 10 月 17 日	観光モニターツアー
令和 2 年 11 月 13 日	令和 2 年度第 2 回八千代市観光振興懇談会 開催
令和 3 年 5 月 20 日	第 1 回ワークショップ
令和 3 年 7 月 1 日	第 2 回ワークショップ
令和 3 年 7 月 15 日	令和 3 年度第 1 回八千代市産業振興審議会 開催
令和 3 年 8 月	令和 3 年度第 1 回八千代市観光振興懇談会 書面開催
令和 3 年 9 月	第 3 回ワークショップ 書面開催
令和 3 年 10 月 22 日	令和 3 年度第 2 回八千代市観光振興懇談会 開催
令和 3 年 11 月 18 日	令和 3 年度第 2 回八千代市産業振興審議会 開催
令和 3 年 12 月 6 日 ～令和 4 年 1 月 7 日	パブリックコメント
令和 4 年 1 月	令和 3 年度第 3 回八千代市観光振興懇談会 書面開催
令和 4 年 2 月	令和 3 年度第 3 回八千代市産業振興審議会 書面開催
令和 4 年 3 月	八千代市観光振興計画策定

八千代市観光振興計画

発行日 令和4年3月

発行 八千代市

編集 経済環境部 商工観光課観光推進室

住所 〒276-8501千葉県八千代市大和田新田312-5

T E L 047-483-1151(代表)

